

人間生活学科

人間心理コース

1年

《専門教育科目》

科目名	日本の生活文化				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。			

《授業の概要》

日本人の生活スタイルは、戦後70年以上を経過し、大きく変化した。生活スタイルの変化とは、新たなモノを取り入れると同時に、不要となった古いモノを捨て去るということでもあった。この授業では、「モノ」の変遷を通して、日本人の生活スタイルの変化とその意味について考える。資料として、学生諸君が余り観ることがない（と思われる）、古い日本映画などの映像資料その他を使用する。

《授業の到達目標》

- ①モノの変遷をとおして、戦後日本の生活文化の歴史を理解している。
- ②生活スタイルの変化と現在の私たちの生活スタイルとの関わりを理解している。

《成績評価の方法》

1. 期末試験（70％）
 2. 平常点（30％ 授業態度 提出物）
- 《試験のフィードバック方法》
期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

映像資料・プリントなどを使用する。

《参考図書》

水牛クラブ編集「モノの誕生「いまの生活」1960－1990」（晶文社）など
その他は、授業をとおして、適宜、紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：与えられたテーマに関して、インターネット等で調査する。（20分）
事後学修：授業中に出した問題（クイズ形式）の解答を、文献、インターネットなどによって調べる。（20分）

《備考》

毎授業、必ずノートを取る。ノートは、試験で必要となる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	モノと人間の関わり 身の回りのモノ認識 1950年代における日米の生活レベルの違い
2	焼跡と配給所	戦後史① 配給制度 買い出し
3	家庭電化と家事労働	家庭電化の時代 三種の神器 戦後における「家事」の質的变化
4	チャブ台の消失	箱膳→チャブ台→ダイニング・テーブル
5	戦後住宅事情と2DK	日本の住宅事情 食寝分離と就寝分離 2DK住宅の登場
6	買い物かごと商店街	商店街→スーパーマーケット→コンビニエンスストア
7	犯罪とモノ	犯罪捜査とモノ 犯行動機の変容
8	タイプライターと職業婦人	タイプライターと女性タイピスト 日本の女性労働者の歴史
9	自転車とスクーター	自転車と職業 スクーターの盛衰史
10	高度成長前の暮らし	昭和30年代を考える
11	高度成長の明と暗	戦後史② 高度成長時代とは何だったのか
12	ミニスカートとジーンズ	若者文化の変遷
13	インスタント食品	食生活を変えたモノ
14	電話機の変遷	壁掛け式電話～ケータイ・スマホ
15	まとめ	今の生活／昔の生活 消えたモノ／残ったモノ／復活したモノ

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシー I				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

ワード、エクセルの基本操作を学習します。授業では基本操作説明の後、課題作成で復習し、着実に学習内容を身につけていきます。

1～11回はワードを学習し、日本語ワープロ検定の資格取得を目指します。12～15回はエクセルの基本操作（数式や関数の入力、グラフなど）を学習します。

《授業の到達目標》

1. 日本語ワープロ検定資格を取得する。
2. 日本語ワープロ検定2級程度の実力を身につける。
3. 文書作成の基本知識を身につけている。
4. エクセルの基本操作をマスターしている。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、検定受験、課題状況）30％、実技試験（ワード40％・エクセル30％）で評価する。いずれかの項目が基準に満たない場合、単位は認定されない。
《フィードバックの方法》課題ごとに採点しコメントを返却する。期末試験後に解説を行う（試験60分・解説30分）。

《テキスト》

オリジナルテキスト（実費）

《参考図書》

「日本語ワープロ検定試験模擬問題集」日本情報処理検定協会
※級ごとに発行されています。

《授業時間外学修》

事前学修：タイピングを毎日練習する（30分）
事後学修：復習課題に取り組む（40分）
検定練習：検定試験のための練習をする（60分）
タイピングを毎日練習する（20分）

《備考》

検定を申し込んで、具体的な目標を設定して、練習に取り組みましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	授業の進め方、タイピング練習、ウィンドウズの基本操作
2	ワード基礎1	日本語入力練習
3	ワード基礎2	フォント、段落書式（文字サイズ等の変更、インデント・箇条書き等）
4	ワード基礎3	表作成1（表の挿入、レイアウト・デザインの変更）
5	ワード基礎4	表作成2（表作成課題演習）
6	ワード基礎5	ビジネス文書作成（日本語ワープロ3級解説）
7	検定試験対策1	入力計測と文書作成及び添削
8	検定試験対策2	入力計測と文書作成及び添削
9	検定試験対策3	入力計測と文書作成及び添削
10	模擬試験	模擬試験と添削
11	検定試験・ワード実技テスト	検定試験及びワード実技テストを兼ねます。検定の申し込みしていない人は、準2級と同等の問題で実力を測定します。
12	エクセル基礎1	基本操作 計算式の入力、書式の設定
13	エクセル基礎2	基本関数とセルの絶対参照
14	エクセル基礎3	グラフ作成
15	エクセル基礎4	並べ替え・総合問題

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシーⅡ				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

エクセルおよびワードの発展的な内容を学習します。
 1～12回はエクセルを学習し、12月に表計算検定の準2級（または2級）取得を目標とします。
 13～15回はワードはを学習し、さまざまな様式の文書やレポートが作成できるよう実用的な機能を中心に学習します。

《テキスト》

「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集 準2級・2級版」日本情報処理検定協会

《参考図書》

「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集 準1級・1級」日本情報処理検定協会

《授業の到達目標》

1. 表計算検定を取得する（準2級～1級）
2. 数式や関数が適切に利用できる。
3. いろいろな様式の文書が作成できる。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目を通しておく。（30分）
 事後学修：授業で学習したところを再度練習する（30分）
 検定練習：検定試験の問題を解く（60分）
 タイピングを毎日練習する（30分）

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、検定受験、提出課題）30％、実技テスト（エクセル50％・ワード20％）で評価する。いずれかの項目が基準に達しない場合、単位は認定されない。
 ≪フィードバック方法≫課題ごとにコメントを返却する。期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

すでに2級まで取得済の人は、「準1級・1級」問題集を購入し、上位級を受験可能です。個別に相談してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	前期復習（EXCEL基礎）
2	エクセル発展1	関数1（ROUND・RANK.EQなど） 関数2（IF）
3	エクセル発展2	3級検定問題
4	エクセル発展3	関数3（AND・OR） 関数4（VLOOKUP）
5	検定対策1	問題集 準2級問題解説
6	検定対策2	問題集 2級解説
7	検定対策3	問題集 問題1・2（準2級または2級）
8	検定対策4	問題集 問題3・4（準2級または2級）
9	検定対策5	問題集 問題5・6・7（準2級または2級）
10	模擬テスト	模擬テスト
11	検定試験・エクセル実技テスト	検定試験及びエクセル実技テストを兼ねます。検定の申し込みしていない人は、2級（または3級）と同等の問題で実力を測定します。
12	エクセル発展4	データベース関数・準1級解説
13	ワード発展1	さまざまな装飾（段落書式、ページ罫線、拡張書式他）
14	ワード発展2	段組み
15	ワード発展3	改ページ、脚注、図表番号、エクセルのグラフや表の利用

《専門教育科目》

科目名	情報リテラシー演習				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

日本語ワープロ検定、文書デザイン検定、表計算処理技能検定の資格を取得することを目的としたクラスです。各自の希望により科目と級を決定し、それに向けた練習をします。自分自身で目標を決め、計画的に学習する姿勢が大切です。授業計画の中で、※のついている回は、全員同じ授業となります。

《授業の到達目標》

1. 自分で目標を設定し、計画的に学習し、資格試験に合格できる技術力を身につけている。
2. 資格を取得する。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、提出課題、検定試験への取り組み）80%、検定試験結果（12月）20%で評価する。

《課題へのフィードバック方法》

課題ごとにコメントおよび採点結果を返却する。

《テキスト》

各自の受験科目及び受験級にあわせた解説を配布します。

《参考図書》

「日本語ワープロ検定模擬問題集」日本情報処理検定協会
 「文書デザイン検定模擬問題集」日本情報処理検定協会
 「情報処理技能検定試験 表計算模擬問題集」日本情報処理検定協会

《授業時間外学修》

事前学修：毎日タイピングを練習する（30分）
 事後学修：検定試験のための練習をする（60分）

《備考》

自分の現在の実力にあった目標設定をして、現在よりも確実に上達できるよう頑張りましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	※授業ガイダンス	各検定試験の概要説明、授業の進め方を説明 各自の目標設定
2	※検定解説 1	日本語ワープロ 2 級、準 1 級、1 級の解説
3	※検定解説 2	文書デザイン 2 級、1 級の解説
4	※検定解説 3	ワープロ準 1 級・1 級、文書デザイン検定に共通の注意事項との解説 各自の目標設定（最終）
5	検定練習	答案作成と添削
6	検定練習	答案作成と添削
7	検定練習	答案作成と添削
8	模擬試験 1	模擬試験及び採点（日本語ワープロ検定中心）
9	模擬試験 2	模擬試験及び採点（文書デザイン検定中心）
10	検定試験	日本語ワープロ検定、文書デザイン検定
11	検定練習	表計算検定試験のための解説と練習
12	※検定解説 4	日本語ワープロ準 1 級・1 級、文書デザイン 1 級の解説
13	※検定解説 5	表計算 1 級の解説
14	検定練習	表計算、文書デザイン、日本語ワープロの各試験について、2 月の試験に向けた練習
15	検定練習	表計算、文書デザイン、日本語ワープロの各試験について、2 月の試験に向けた練習

《専門教育科目》

科目名	文章表現とコミュニケーション I				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・コース必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			

《授業の概要》

私たちは、学校や職場、家庭生活など、生活のいろいろな場面で、文章を書く機会にめぐり合う。もちろん、文章を書くことが好きな人や、それが職業である人もいる。

この授業では、私たちが、普通に生活していて、書く機会の多いタイプの文章の書き方を学ぶ。受講者には、授業の流れに沿って、実際に文章を書いてもらうことになる。

《テキスト》

プリントを使用する。

《参考図書》

本多勝一「日本語の作文技術」(朝日文庫) など
 その他は、授業をとおして、適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- ①文章表現の誤りを自分でチェックすることができる。
- ②手紙文、ビジネス文書の形式で文章を書くことができる。
- ③敬語を適切に使用することができる。
- ④文章によって円滑なコミュニケーションを取ることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：必要に応じて、適宜、指示するので、次回授業の文章のテーマに関して、予め下調べをしておく。(30分)
 事後学修：必要に応じて、授業内容の確認プリント・補充プリントを渡すので、その練習問題を解く。(20分)

《成績評価の方法》

1. 毎回の提出物 (70%)
2. 平常点 (30% 授業態度 発問への応答)

《提出物のフィードバック方法》

提出物について、授業時間内で、適宜、個人指導、全体講評を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	授業案内
2	文章表現の基本	誤解を避けるための文章技術①
3	文章表現の基本	誤解を避けるための文章技術②
4	手紙文の書き方	手紙の形式・依頼状の書き方
5	手紙文の書き方	礼状の書き方・封筒の書き方
6	実用文の作成	ビジネス文書① 社内文書
7	実用文の作成	ビジネス文書② 社外文書
8	エッセイの書き方	エッセイとは何か 原稿用紙の使い方
9	実用文の知識	手紙文・ビジネス文書の慣用表現
10	敬語の知識	尊敬・謙譲・丁寧の表現
11	小論文を書くために	読点の打ち方と段落の分け方
12	小論文の書き方	論証と結論
13	小論文の書き方	賛否両論
14	小論文の書き方	小論文の形式
15	まとめ	誤解を避けるための文章技術・敬語の知識の補足

《専門教育科目》

科目名	発達心理学 I				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-16（知識と理解）心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生涯に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に人間の発生から青年期までの発達過程を中心にその特徴をとらえていく。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①各発達段階の特徴を理解し、説明できる。
- ②子どもの認知や感情、対人関係の特徴を理解している。
- ③子どもへの適切な関わり方を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
2. 平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	発達心理学とは？	発達心理学という領域について概説し、授業に関するオリエンテーションを行う。
2	発達段階と発達課題	発達段階および発達課題という基本的な概念を学ぶ。
3	遺伝と環境	人間の発達にかかわる遺伝・成熟による要因と、環境・学習による要因について学ぶ。
4	発達過程（1）：受精から誕生まで	出生前期の心身の発達について学ぶ。
5	発達過程（2）：乳児期の発達	乳児期の心身の発達について学ぶ。
6	発達過程（3）：幼児期の発達	幼児期の心身の発達について学ぶ。
7	発達過程（4）：学童期の発達	学童期（児童期）の心身の発達について学ぶ。
8	発達過程（5）：思春期・青年期の発達	思春期・青年期の心身の発達について学ぶ。
9	情動の発達	子どもの情動の分化・発達の過程を学ぶ。
10	認知・思考の発達	子どもの認知機能の発達について学ぶ。
11	子どもと遊び	子どもにとっての遊びの意義について学ぶ。
12	子どもの描画	子どもの描画の特徴や発達について学ぶ。
13	子どものファンタジー	子どもにとってのファンタジー（空想）の意味を考察する。
14	子どもの対人関係	子どもの対人関係の発達について学ぶ
15	まとめ	子どもの発達について改めて概説し、学んだことを確認する。

《専門教育科目》

科目名	発達心理学Ⅱ				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-16（知識と理解）心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間はこの世に生を受け、死に至るまでの生涯にわたって成長し続ける。発達心理学とは、人間の一生に及ぶ発達の過程をさまざまな側面から捉え、検証する学問である。本講義では特に青年期から老年期までの発達と、発達臨床と支援を中心に学修する。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①生涯発達、ライフサイクルといった観点を理解している。
- ②高齢者の心理学的な特徴を理解している。
- ③発達や情緒面で困難をもつ子どもへの理解・支援に関する基礎知識を持っている。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
 2. 平常点（学修態度（15%）及び講義中の提出物（15%））
- 《課題へのフィードバックの方法》 提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：生涯発達心理学とは？	生涯発達という考え方を学ぶ。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	社会・文化の中での発達	人間の発達における社会・文化適要因について学修する。
3	ライフサイクル	ライフサイクルという発達心理学における重要な概念について考察する。
4	青年期とアイデンティティ	青年期における発達について、アイデンティティというキーワードを軸に考察する。
5	成人前期の発達（1）	成人前期の発達について概説する。
6	成人前期の発達（2）	成人前期の発達について、特に現代における女性の発達に焦点をあてて考察する。
7	中年期の発達	中年期（壮年期）の心身の発達について学修する。
8	高齢期の発達（1）：発達課題と特徴	高齢期（老年期）の心身の発達について概説する。
9	高齢期の発達（2）：身体、認知、記憶	高齢期（老年期）の心身の発達について、特に身体、認知機能の発達に焦点をあてて学修する。
10	高齢期の発達（3）：情動、動機づけ	高齢期（老年期）の心身の発達について、特に情動や動機づけの発達に焦点をあてて学修する。
11	高齢期の精神障害	高齢期の精神障害について、特に認知症に焦点をあてて学修する。
12	高齢者への介護について	高齢者の生活を支える介護者・家族の心理について学修する。
13	発達障害児の理解と支援	発達障害について概説し、理解と支援について考察する。
14	児童虐待	今日の児童虐待の問題について概説し、被虐待児の心理的問題について考察する。
15	まとめ	生涯発達の過程および発達臨床について学んだことを振り返る。

《専門教育科目》

科目名	社会心理学				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-16（知識と理解）心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間は社会的動物であり、社会や集団のさまざまなあり様に影響されながら生きている。人間が社会の中でどのように行動し、どのように思考するのか、集団において個人の認知や行動がどのように変わりうるのかを、実証的に解明しようとする学問領域が社会心理学である。本講義では、個人と社会・集団との相互作用について、日常の出来事や社会で起きている様々な事象を取り上げながら解説していく。

《授業の到達目標》

- ①社会心理学の基本概念を理解している。
- ②社会や生活場面で生じる諸現象を心理学的に理解する観点を持っている。

《成績評価の方法》

1. レポート（70％）
2. 平常点（学習態度（15％）及び講義中の提出物（15％））

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。

事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：社会心理学とは？	授業のオリエンテーションを行う。社会心理学という学問領域の特徴や、社会心理学を学ぶ意義を概説する。
2	「自己」について	社会心理学における「自己」の概念と、関連する研究・知見を学修する。
3	対人認知	対人認知や印象形成のプロセスおよび関係する諸要因について学修する。
4	偏見とステレオタイプ	対人認知の歪みとも言える偏見やステレオタイプの問題について学修する。
5	命令と強制	命令等に服従する際の人の心理や、関連する諸要因について学修する。
6	援助行動と攻撃行動	援助行動や向社会的行動と、攻撃行動について学修する。
7	集団が及ぼす影響	集団状況が人の認知や行動に及ぼす影響について学修する。
8	群衆心理	群衆状況に置かれた人の心理や諸問題について学修する。
9	情報化社会とメディア、マスコミュニケーション	情報化社会の特徴、メディアの種類やその特徴、マスコミュニケーションの特徴と諸問題について学修する。
10	流行と消費者行動	流行に関わる諸要因、消費者の心理および行動について学修する。
11	説得と態度変容	説得的コミュニケーションや態度変容のプロセス、関連する諸要因、説得技法等について学修する。
12	宗教・信仰とカルト問題	宗教・信仰の心理学的な意義を考える。また、カルトやマインドコントロールにまつわる諸問題についても学修する。
13	コミュニティとソーシャルサポート	今日の社会におけるコミュニティの意義や、ソーシャルサポートが人の心身におよぼす影響について学修する。
14	犯罪と防犯	犯罪心理学について概説する。また、防犯のための環境づくりや被害者支援に関する概要を学ぶ。
15	ジェンダーの心理学	ジェンダーや性役割、性の多様性について学修する。

《専門教育科目》

科目名	生活介護論				
担当者氏名	井上 富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			

《授業の概要》

現代社会は少子高齢化が進み65歳以上の割合は1/4を超え、多数の問題を抱えています。その中でも医療・介護サービスを必要とする高齢者の増加や、入院期間の短縮に伴う在宅介護の必要性、介護する家族の負担がクローズアップされています。小児から高齢者まで各年代別の健康問題・生活課題と疾患や機能障害について理解し、家庭での介護に適應できるよう学びます。

《授業の到達目標》

- ①少子高齢化社会の現状と課題について知り、理解している。
- ②人間の体の構造と年代別・臓器別の病気の種類と健康管理、介護・日常生活援助に必要な知識を知り理解している。
- ③健康障害のある人との接し方やコミュニケーションの取り方を知り理解している。

《成績評価の方法》

- ①平常点30（授業態度10%、レポート20%）
 - ②期末試験（70%）
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する。
 試験60分・解説30分

《テキスト》

直井 道子ほか著「生活と福祉」実教出版
 映像資料・プリントなどを使用する。

《参考図書》

堺 章著「目で見る体のメカニズム」医学書院
 田中 元著「イラストでわかるやさしい介護のしかた」高橋書店
 大久保 昭行監修「健康の地図帳」
 山口 和克監修「病気の地図帳」
 佐藤 達夫監修「体の地図帳」講談社

《授業時間外学修》

- ・事前学修（30分程度）：テキストに目を通して、わからない言葉があれば調べておく。
- ・事後学修（15分程度）：街中での子供達や、障害者・高齢者の様子や行動、社会での出来事に関心を持ち、自分の考えを整理しておく。

《備考》

授業の具体的な内容・進度は授業計画に沿いながら適宜調整していく。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	OR・健康と病気	講義の進め方の説明・健康とは？高齢化社会とQOL
2	ライフステージと健康管理①	予防医学／ICF 3つの要因
3	ライフステージと健康管理②	幼年期～青年期の健康管理
4	ライフステージと健康管理③	青年期～壮年期の健康管理
5	ライフステージと健康管理④	中年期～高齢者の健康管理／生活習慣と健康、生活習慣病①
6	ライフステージと健康管理⑤	中年期～高齢者の健康管理／生活習慣と健康、生活習慣病②
7	高齢化の現状と特徴①	高齢者の生活習慣と健康・高齢化の現状
8	高齢化の現状と特徴②	高齢者の心身の特徴
9	高齢者の生活課題①	臓器別の病気の種類と特鋼①
10	高齢者の生活課題②	臓器別の病気の種類と特徴②
11	高齢者の生活課題③	臓器別の病気の種類と特徴③認知症
12	高齢者の介護①	麻痺・視覚障害・聴覚障害のある人の介護
13	高齢者の介護②	介護の基本①体位変換と移動／食事生活動作／ベッドメイキングに必要な体のしくみ
14	高齢者の介護③	介護の基本②清潔・排泄・家庭介護（バイタルサイン）
15	高齢者の生活支援と福祉	DVD（介護）・介護の基本③家庭介護（誤嚥・窒息・火傷・熱中症と脱水）

《専門教育科目》

科目名	社会福祉Ⅰ				
担当者氏名	池田 竜也				
授業方法	講義	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

超高齢化社会到来で重要視される介護を実践するために必要な知識を学び、技術を習得することを目的としている。学習内容は、職務の理解、介護に於ける尊厳の保持、介護の基本、障害の理解、こころとからだのしくみと生活支援技術等についてである。後期での「社会福祉Ⅱ」と「社会福祉Ⅲ」を学び、一定の基準を満たせば、「介護職員初任者研修修了者」として、県に登録される。

《授業の到達目標》

- ①研修の全体像を理解し、説明できる。
- ②介護の基本的考え方と障害を理解し、説明できる。
- ③こころとからだのしくみと生活支援技術を理解しており、説明できる。

《成績評価の方法》

1. 受講状況（10％）
 2. 演習態度（10％）
 3. 実習状況（10％）
 4. 期末試験（70％）
- 《フィードバックの方法》 試験後 解説30分

《テキスト》

「介護職員初任者研修テキスト」一般財団法人 長寿社会開発センター

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修
社会福祉のイメージを記述する。（15分）

事後学修
社会福祉のイメージを記述する。（15分）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	開講式 オリエンテーション	①「介護職員初任者研修」の資格に関してと資格取得の為の要件 ②研修受講の心構え・注意事項
2	職務の理解	①介護サービス（介護保険サービス・介護保険外サービス）②介護職の仕事内容や働く現場（居宅・施設）、チームアプローチ、社会資源との連携
3	職務の理解 介護施設見学実習	居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ
4	介護における尊厳の保持 ・自立支援	人権と尊厳を支える介護、人権擁護 プライバシーの保護、ノーマライゼーション、虐待防止、
5	介護における尊厳の保持 ・自立支援	自立支援（自立・自律支援、残存能力の活用、意欲を高める支援、個別ケア、重度化防止）
6	介護における尊厳の保持 ・自立支援	介護予防の考え方
7	介護の基本	①介護職の役割、専門性とは他職種との連携 ②職業倫理
8	介護の基本	介護における安全の確保とリスクマネジメント
9	障害の理解	①障害の基礎的理解（1）障害の概念とICF（2）障害者福祉の基本理念 ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援の基礎的知識
10	こころとからだの仕組み と生活支援技術	①基礎的知識（1）基本的考え方 理論（ICF）と法的根拠に基づく介護
11	こころとからだの仕組み と生活支援技術	①基礎的知識（2）こころの仕組みの基礎的理解 学習と記憶、感情と意欲、自己概念と生きがい、適応行動と阻害要因、こころとからだの相互関係
12	こころとからだの仕組み と生活支援技術	①基礎的知識（3）からだの仕組みの基礎的理解 人体各部の名称と働き、骨・関節・筋肉、中枢神経系と体性神経、自律神経と内部器官、
13	こころとからだの仕組み と生活支援技術	②生活支援技術（1）からだの仕組み ボディメカニクスの活用、こころとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気付く視点
14	こころとからだの仕組み と生活支援技術	②生活支援技術（2）生活と家事 生活歴、自立支援、予防的対応、主体性・能動性を引き出す、生活習慣・価値観の多様性
15	こころとからだの仕組み と生活支援技術	②生活支援技術（3）居住空間 快適な居住空間、高齢者・障害者特有の居住環境整備、福祉用具、家庭内で多い事故、バリアフリー、住宅改修

《専門教育科目》

科目名	社会福祉Ⅱ				
担当者氏名	池田 竜也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解して、基礎的介護が実施出来るようになることを目的とする。

利用者の尊厳を保持し、自立及び自律を尊重した介護を基礎とする事は勿論、持てる力を発揮しながら、在宅・地域等での生活を支える介護技術と知識を習得する。また、生活支援技術の身体介護と終末ケアを演習をまじえながら学ぶ。

《授業の到達目標》

1. 心身の仕組みを理解し、身体各部の名称や機能が列挙できる。
2. 整容、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠の自立にむけた介護ができる。
3. 終末期の心身の変化と対応、緩和ケア、家族へのケアについて列挙できる。

《成績評価の方法》

1. 受講状況 (10%)
2. 演習態度 (10%)
3. レポート (10%)
4. 実技試験 (70%)

《フィードバックの方法》 実技試験の解説をする。

《テキスト》

「介護職員初任者研修テキスト」一般財団法人 長寿社会開発センター

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修

ボランティアのイメージを記述し、高齢者に関するボランティアを行う。(15分)

事後学修

高齢者に関するボランティアを行った後のイメージを記述する。(15分)

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	整容の介護	整容や装うことについての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
2	整容の介護	整容の介護技術を習得するために、介護実習室で演習する。
3	移動・移乗の介護	移動・移乗についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
4	移動・移乗の介護	移動・移乗の介護技術を習得するために、介護実習室等で演習する。
5	食事の介護	食事についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
6	食事の介護	食事の介護技術を習得するために、介護実習室で演習する。
7	入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
8	入浴・清潔保持の介護	入浴・清潔保持の介護技術を介護実習室で演習する。
9	排泄の介護	排泄についての心身の仕組みと自立に向けた介護方法・知識を学ぶ。
10	排泄の介護	排泄の介護技術を習得するために、介護実習室で演習する。
11	睡眠の介護	睡眠についての心身の仕組みと介護方法・知識を学ぶ。
12	睡眠の介護	睡眠の介護技術を習得する。
13	睡眠の介護	快適で安全な睡眠のためのベッドメイキング方法を学び、技術を習得する。
14	死にゆく人への介護	死にゆくひとへの介護方法・知識を学ぶ。
15	死にゆく人への介護	死にゆくひとへの介護技術を習得する。

《専門教育科目》

科目名	社会福祉Ⅲ				
担当者氏名	池田 竜也				
授業方法	講義	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

「介護職員初任者研修」修了者として県に登録されることを目的とした学習の最後の講座で、一定の基準を満たすことが求められる。介護に関する、知識・技術を十分身につけて職業人としての自覚ができるようにする。

内容は、介護過程、総合生活支援技術、介護・福祉サービス、コミュニケーション、老化、認知症および介護実習等である。

《授業の到達目標》

1. 介護過程の目的と意義、展開等説明ができる。
2. 介護計画立案、介護手順書作成、要介護（要支援）者・家族介護者への援助・支援ができる。
3. 介護・福祉サービス・コミュニケーション・老化・認知症を理解して、介護ができる。
4. 介護の知識・技術の説明ができ、職業人としての準備が出来ていて説明できる。

《成績評価の方法》

1. 受講・演習状況（10％）
2. レポート（10％）
3. 実習状況（10％）
4. 修了試験（70％）

《フィードバックの方法》 試験後、解説をする。

《テキスト》

「介護職員初任者研修テキスト」一般財団法人 長寿社会開発センター

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修

高齢者とのコミュニケーションのイメージを記述する。（15分）

事後学修 高齢者とのコミュニケーションのイメージの違いを記述する。（15分）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護過程の基礎知識 ①基礎的理解	介護過程の基礎的理解
2	介護過程の基礎知識 ②展開	介護過程の展開
3	総合生活支援技術演習 ①	事例1.
4	総合生活支援技術演習 ②	事例2.
5	介護福祉サービスの理解 と医療との連携 ①	介護保険制度
6	介護福祉サービスの理解 と医療との連携 ②	医療との連携とリハビリテーション
7	介護福祉サービスの理解 と医療との連携 ③	障害者自立支援制度及びその他の制度
8	介護に於けるコミュニケーション技術 ①	介護におけるコミュニケーション技術
9	介護に於けるコミュニケーション技術 ②	介護におけるチームのコミュニケーション
10	老化の理解 ①	老化に伴う心身の変化
11	老化の理解 ②	高齢者と健康
12	認知症の理解 ①	取り巻く状況、医学的側面、健康管理
13	認知症の理解 ②	心身の変化と生活、家族支援
14	振り返り	学外老人介護施設での介護実習 「社会福祉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の振り返り
15	修了試験	「社会福祉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の筆記試験

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務総論				
担当者氏名	村田 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 3-27（態度と志向性）高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

ビジネス現場で職業人として業務を遂行する上で理解して活用するには何が求められるのか、ビジネス実務の意義や内容など現場の基礎知識について学びます。具体的には、私たちを取り巻く社会環境を知り、そこで必要な業務マネジメント、個人業務および協働業務を実践するために求められる資質やスキルの基本知識を学び、自分のキャリアに繋がります。

《授業の到達目標》

- ①昨今のビジネス環境を理解し現場の概観を理解できている。
- ②ビジネス実務の基本、仕事の進め方、ビジネスとサービス活動、ビジネスと表現活動、ビジネスと情報活動、ビジネスと組織活動のからみなどの基本知識を理解している。
- ③ビジネス実務の活動、オペレーション活動、マーケティング活動を理解している。
- ④これからのビジネス実務の方向性を理解している。

《成績評価の方法》

1. 平常点（受講態度・発表） 20%
2. 課題・小テスト 20%
3. 学期末テスト 60%

《フィードバック方法》

課題・小テストについての講評の時間を設けます

《テキスト》

全国大学実務教育協会編「ビジネス実務総論」
（紀伊国屋書店）

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編
「ビジネス実務マナー検定 受験ガイド」3級・2級
（早稲田教育出版）

《授業時間外学修》

【事前学修】授業で進めるテキスト範囲を一読する（20分）

【事後学修】小テスト対策として学んだ範囲を復習する（20分）

資料プリント、課題を自宅学習する（20分）

認識不足の問題を専用のノートまとめて復習します。（30分）

《備考》

日々変化している社会の出来事に関心を持つこと。そのためには、新聞やTV、ネットなどでトレンドな時事ニュースに毎日接することが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	第1章 ビジネスを考える	ビジネスとは何か、ビジネスの定義を学び、異なる2つの事業活動の内容を知る。
2	キャリア形成の方向性を考える	キャリアプランシートで自己分析（関心ごとや好きなこと、どのような生き方、働き方がしたいかなど）
3	第2章 ビジネス環境を捉える	4つのメガトレンドについて （経済グローバル化・高度情報化の環境変化）
4	第2章 ビジネス環境を捉える	4つのメガトレンドについて （地球環境問題・少子高齢化の環境変化）
5	グループ発表と討議	メガトレンドからアプローチした現場のトレンドな問題点を提示する
6	第3章 ビジネス現場を捉える	ビジネス現場の環境変化 （これまでの働き方と現場環境を理解する）
7	第3章 ビジネス現場を捉える	ビジネス現場の環境変化 （オフィスの環境の移り変わりに伴う働き方の変化）
8	第4章 ビジネス実務の知識	ビジネス現場で求められる仕事の進め方と基本的な心構え
9	第4章 ビジネス実務の知識	ビジネス実務の4つのメガトレンド （サービス活動・表現活動）
10	第4章 ビジネス実務の知識	ビジネス実務の4つのメガトレンド （情報活動・組織活動）
11	第5章 ビジネス実務の基本	効果的に仕事を進めるマネジメントサイクル 仕事の特徴やステップアップのポイント
12	第5章 ビジネス実務の基本	サービス活動のポイント サービスの4要素 基本動作
13	第5章 ビジネス実務の基本	表現活動のポイント 口頭表現のこと 文書表現のこと
14	第5章 ビジネス実務の基本	表現活動の実際 敬語問題 電話応対 ビジネス文書
15	まとめ・総括	ビジネス環境を熟知し、そこに身をおくワーカーとしての知識や自覚を心得ている

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務演習Ⅰ				
担当者氏名	村田 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 1-16 (知識と理解) 心理学の諸領域に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

前期「ビジネス実務総論」に引き続き講座です。ビジネス現場で職業人として業務を遂行する上で理解し、実践できるための専門的スキルを深めます。演習の授業なので、単に知識習得のみならず、実践出来て身につけていることを目指します。「ビジネス実務マナー検定」にチャレンジすることで、ビジネス実務の定着を目指しています。より深い学びをしてください。

《テキスト》

全国大学実務教育協会編「ビジネス実務総論」紀伊国屋書店

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定受験ガイド」3級・2級 早稲田教育出版

《授業の到達目標》

1. ビジネスパーソンとして必要な資質を身につけている
2. ビジネス実務に必要な話し方（敬語）や対応ができる
3. ビジネス文書（メール含）を自分で書くことができる
4. ビジネス現場の交際に関する対処法を理解してできる
5. ビジネス倫理やビジネス法規のポイントを説明できる

《授業時間外学修》

「ビジネス実務マナー検定」にチャレンジすることで総合力を養います。そのため、毎週の課題があります。

【事前学修】課題を自宅学習する（60分）

【事後学修】「まとめノート」を作り復習する（30分）

《成績評価の方法》

1. 平常点（授業態度・発表）20%
2. 課題・小テスト 20%
3. 学期末テスト 60%

＜フィードバックの方法＞

課題や小テストについては講評の時間を設ける

《備考》

ビジネス実務マナー検定の内容は幅広く、ビジネス現場で求められる資質や組織の知識などの総合力が問われます。配布プリントは、その都度確実に理解するよう予習・復習が大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ビジネス現場演習	サービス活動（基本行動の立居振舞）
2	ビジネス現場演習	サービス活動（接遇・電話対応の実習）
3	ビジネス現場演習	表現活動（慶弔、贈答などのビジネスマナー）
4	ビジネス現場演習	表現活動（会議業務、スケジューリングなど）
5	ビジネス現場演習	情報活動（文書作成）
6	ビジネス現場演習	情報活動（出張業務など）
7	ビジネス現場演習	組織活動（組織形態や役割の復習）
8	ビジネス現場演習	組織活動（組織の部門の復習）
9	5章 ビジネスと情報活動	情報の収集、評価、加工・活用、整理・保管の意義や事例 （電子メール w w w の特徴）
10	5章 ビジネスと組織活動	組織の定義と種類 グループダイナミックスの特徴
11	5章 ビジネスと組織活動	チームワークにおける個人の役割 チームの問題解決プロセス
12	6章 ビジネス実務の活動	4つの基幹機能について （オペレーション活動の理解、開発・生産・流通のオペレーション）
13	6章 ビジネス実務の活動	4つの基幹機能について （マーケティング活動の理解、企画と営業部門の位置づけと活動）
14	6章 ビジネス実務の活動	人的資源管理法 （企業が進める教育や能力開発システム）
15	6章 ビジネス実務の活動	コストパフォーマンス （経理財務、決算書の見方、株式市場のキーワード）

《専門教育科目》

科目名	簿記基礎				
担当者氏名	吉田 智子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

企業の経理分野では、コンピューターを利用した合理化・効率化が飛躍的な進化を遂げてますが、コンピューターは計算・集計の道具であり、データをもとに分析し決定するのは、やはり簿記の知識を持った人であることに変わりはありません。この授業では、将来就職した後に必ず役立つ、簿記の基礎知識を体系的に学習します。

《授業の到達目標》

- ①「人間生活・オフィス情報コース」を選択している学生として最低限持っているべき基本的な簿記の知識と技術を身につける。
- ②日商簿記3級に合格できる知識を持つ。

《成績評価の方法》

- ①期末試験（60％）
 - ②平常点（受講態度、質問、小テスト、宿題を含む）（40％）
- 《課題へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

TAC簿記検定講座著「合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 10.0」（TAC出版）、TAC簿記検定講座著「合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 10.0」（TAC出版）

《参考図書》

蛭川幹夫「専門基礎ライブラリー 基本簿記」（実教出版）
蛭川幹夫他「専門基礎ライブラリー 基本簿記演習」（実教出版）
TAC簿記検定講座著「合格するための過去問題集 日商簿記3級」（TAC出版）

《授業時間外学修》

事前学修（10分）：事前にテキストに目を通しておくこと。
事後学修（60分）：テキストとレジュメを復習し、それを参考にトレーニング問題を解くこと。過去問題に取り組み、間違った問題を復習すること。

《備考》

事後学修が重要である。テキストとレジュメをしっかりと復習すること。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	簿記の基礎
2	日常の手続き(1)	簿記上の取引から仕訳について
3	日常の手続き(2)	帳簿の体系や帳簿の記入方法
4	日常の手続き(3)	試算表の作成
5	商品売買(1)	商品の購入と販売について
6	商品売買(2)	商品売買における返品・値引きや諸掛り、商品に関係する補助簿の記入方法
7	現金	簿記上の現金と現金過不足について
8	当座預金	当座預金の仕組みとその処理
9	小口現金	小口現金の仕組みと補助簿の記入方法
10	手形(1)	約束手形と為替手形
11	手形(2)	手形の裏書きと割引き、補助簿の記入方法
12	その他の期中取引(1)	日常的に使われる債権と債務の処理
13	その他の期中取引(2)	固定資産の購入、有価証券の売買
14	その他の期中取引(3)	個人商店での租税公課、純資産の引き出し、訂正仕訳、帳簿の体系
15	試算表の作成	簿記基礎のまとめと試算表の作成

《専門教育科目》

科目名	簿記応用				
担当者氏名	吉田 智子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

企業の経理分野では、コンピューターを利用した合理化・効率化が飛躍的な進化を遂げてますが、コンピューターは計算・集計の道具であり、データをもとに分析し決定するのは、やはり簿記の知識を持った人であることに変わりはありません。この授業では、将来就職した後に必ず役立つ、簿記の基礎知識を体系的に学習します。

《授業の到達目標》

- ①「人間生活・オフィス情報コース」を選択している学生として最低限持っているべき基本的な簿記の知識と技術を身につける。
- ②日商簿記3級に合格できる知識を持つ。

《成績評価の方法》

- ①期末試験（60％）
- ②平常点（受講態度、質問、小テスト、宿題を含む）（40％）

《課題へのフィードバックの方法》

期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

TAC簿記検定講座著「合格テキスト 日商簿記3級 Ver.10.0」（TAC出版）、TAC簿記検定講座著「合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.10.0」（TAC出版）

《参考図書》

蛭川幹夫「専門基礎ライブラリー 基本簿記」（実教出版）
 蛭川幹夫他「専門基礎ライブラリー 基本簿記演習」（実教出版）
 TAC簿記検定講座著「合格するための過去問題集 日商簿記3級」（TAC出版）

《授業時間外学修》

事前学修（10分）：事前にテキストに目を通しておくこと。
 事後学修（60分）：テキストとレジュメを復習し、それを参考にトレーニング問題を解くこと。過去問題に取り組み、間違った問題を復習すること。

《備考》

事後学修が重要である。テキストとレジュメをしっかりと復習すること。
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	試算表の作成(1)	前期の復習と試算表の作成
2	試算表の作成(2)	試算表の作成
3	決算の手続き(1)	決算のあらましと精算表の記入方法、有価証券の評価替え
4	決算の手続き(2)	現金過不足の整理と消耗品、売上原価の決算整理
5	決算の手続き(3)	固定資産の減価償却と売却
6	決算の手続き(4)	貸倒れの処理と貸倒引当金
7	決算の手続き(5)	繰延べ・見越しの決算整理と精算表の作成
8	決算の手続き(6)	帳簿の締め切りと繰越試算表の作成
9	決算の手続き(7)	財務諸表の作成
10	決算の手続き(8)	決算の手続きのまとめ
11	伝票式会計	伝票式会計について
12	総合問題演習(1)	基本例題
13	総合問題演習(2)	基本例題
14	総合問題演習(3)	基本例題
15	簿記応用のまとめ	全体の総復習と試験対策

《専門教育科目》

科目名	医療保険制度				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○　3-27（態度と志向性）高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎　3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

医療機関は健康保険法に基づき保険診療を行っている。この保険診療の仕組みや法律（健康保険法、保険医療機関及び保険医療養担当規則）について理解する。また我が国の様々な医療保障制度（医療保険制度、高齢者医療制度、公費負担医療制度、介護保険制度、労災保険）について学習する。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト1…医療保険制度等基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①保険診療の仕組みと、医療保障制度の各制度がどのような制度であるかを理解している。
②制度と年齢による一部負担金の違いを理解して窓口徴収が正確にできる。
③被保険者証からカルテの上書きへの転記が正確にできる。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各単元、冒頭の学習内容について目を通しておくこと。
事後学修：①授業で行う確認テストの復習をする（10分程度）
②授業範囲を繰り返し読み理解を深めること（20分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験　70％
②平常点（授業態度、確認テスト）30％
《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（10分程度）
期末試験：試験後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	医療保険制度の基礎知識	医療保険とは何か
2	医療保険の歴史・保険者と被保険者	医療保険の歴史、国民皆保険制度について学習。 保険者と被保険者との関係　被（受ける）…被保険者、被保険者証
3	保険料と保険給付	社保と国保の保険料納入方法の違い 保険給付（現物給付　入院時食事療養費　療養費の支給　高額療養費）について
4	給付率と負担率 療養担当規則	医療に要した費用のうち患者が負担するのが負担率 療養担当規則は医療機関、医師が診療を行う上での規則
5	医療保険制度の種類	社会保険　国民健康保険　退職者医療制度 基礎問題集で復習
6	保険者番号の構成	法別番号　都道府県番号　保険者別番号　検証番号
7	後期高齢者医療制度	1）保険給付…保険者　被保険者　適用開始日　保険料　被保険者証　一部負担金 2）保健事業
8	公費負担医療制度	生活保護法について
9	介護保険制度	保険者と被保険者・保険料　給付の種類　サービス費　自己負担　利用手続き 基礎問題集で復習
10	被保険者証の見方	被保険者証の見本で比較　相違点と特徴を見る
11	カルテの上書き練習・点検	転記の注意事項を確認しながら上書き練習・点検をする
12	窓口徴収	実際に計算しながら徴収金額を理解する
13	保険外併用療養費 試験対策	評価療養と選定療養について 医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする
14	まとめ・試験対策	医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする
15	まとめ・試験対策	医療事務技能審査試験の学科問題を使用して医療保険制度のまとめをする

《専門教育科目》

科目名	医療コミュニケーション				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 1-17（知識と理解）人間関係や対人援助に関する基本的な知識を修得している。 ○ 2-26（技能）人の話を傾聴し、共感的に応答する技能を身につけている。 ○ 3-32（態度と志向性）人のことばに真摯に耳を傾け、人の気持ちを理解し、人に誠実に向き合う態度を身につけている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

医療機関では総合的な患者サービスを重要視する方向に進んでいる。患者サービスによって病院全体の評価が大きく左右されることからメディカルスタッフにも、専門的な能力プラス患者接遇マナーが求められている。医療に携わる者として必要な窓口接遇マナーの基礎から、実践までを学習する。

《テキスト》

「医療事務講座 医科テキスト2　患者接遇マナー技能審査試験実技1 対応問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①敬語を正しく使い、挨拶とお辞儀がきちんとできる。
- ②電話での対応が適切にでき、受付窓口での患者さんの質問について、優しくていねいに正しく受け答えができる。
- ③医療人として守るべきことを理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各単元、冒頭の学習の必要性、内容について目を通しておくこと。（10分程度）
事後学修：毎回実施する患者接遇の実技問題を、添削箇所を確認し、復習する（15分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験　70%
- ②平常点（授業態度、確認テスト、提出物）30%
- 《試験のフィードバック方法》
- 確認テスト：返却時に解説（10分程度）
- 期末試験：試験後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	患者接遇の基本マナー	医療人として守るべきこと（守秘義務、個人情報保護法） 医事業務における個人情報保護の適切な取り扱い
2	患者接遇の基本マナー	望まれる医事担当者のあり方について 対応の基本（身だしなみ、姿勢、あいさつ、お辞儀、表情）
3	患者接遇の基本マナー	言葉遣いの基本（尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語） 好感をもたれる態度
4	患者接遇の基本マナー	電話対応の基本…窓口対応と電話対応の違いを踏まえ、電話対応の練習をする 患者接遇の基本マナーの練習問題
5	患者受付の実際	窓口対応…診療受付から会計窓口、薬の受け取りまでの流れ 院外処方せんについて
6	患者受付の実際	受付の事例 受付窓口　資格確認　予約　ご案内　順番　健康診断
7	患者受付の実際	受付の事例 診断書　医療費用　処方せんと診断書のロールプレイング
8	患者受付の実際 コミュニケーション	クレーム対応　患者受付の実際の練習問題 人間関係と日常の健康管理　職場のコミュニケーションの練習問題
9	患者接遇の実技	練習問題の実施 検査予約の変更　診断書の作成依頼
10	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 診察券紛失　負担割合の疑問
11	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 急病の子供が来院（医師不在）　診療明細書の疑問
12	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 予約患者の待ち時間の不満　高齢受給者証の使用について
13	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 電話再診料の疑問　紹介状
14	患者接遇の実技	技能審査問題集実技1 対応問題集の実施 退職後の保険　薬のみの処方
15	患者接遇の実技まとめ	受付窓口、会計窓口の応答範囲と独断で応答してはならない範囲 保険診療の基礎知識と、さまざまな場面での応答例を確認する

《専門教育科目》

科目名	医療事務管理特講				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

医療保険制度、診療報酬請求事務演習Ⅰ＆Ⅱ、医療コミュニケーションの総復習。医療事務技能審査試験の過去問題や、問題集を使用してメディカルクラークの資格取得を目指す。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト1～4」「医療事務講座医科スタディブック1～2」「技能審査問題集」「実技1対応問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

技能審査試験の問題を次の時間内に正確にできる。

実技1（患者接遇…2問）50分

学科（25問）60分

実技2（診療報酬請求事務…レセプト点検、外来3問・入院1問）70分

《授業時間外学修》

事前学修：患者接遇の問題を暗記してくる（30分程度）

事後学修：①学科で誤った問題をテキスト等参考資料で調べてやり直す（15分程度）

②点検問題の訂正方法を復習する（60分程度）

《成績評価の方法》

①平常点（提出物、確認テスト 授業態度）70%

②レポート 30%

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題A 学科（医療事務の一般知識…25問）
2	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題A 学科（医療事務の一般知識…25問）
3	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題A 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
4	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題A 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
5	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題B 実技1（患者接遇…2問）学科（医療事務の一般知識…25問）
6	技能審査試験問題 学科問題	技能審査問題集の問題B 学科（医療事務の一般知識…25問）
7	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題B 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
8	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題B 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
9	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題C 実技1（患者接遇…2問）学科（医療事務の一般知識…25問）
10	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題C 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
11	技能審査試験問題 実技1 学科問題	技能審査問題集の問題D 実技1（患者接遇…2問）学科（医療事務の一般知識…25問）
12	技能審査試験問題 実技2	技能審査問題集の問題D 実技2（レセプト点検…外来3問・入院1問）
13	技能審査試験過去問題	実技1…50分 学科60分 時間を計って実施 自己採点して間違えた箇所を直して復習
14	技能審査試験過去問題	実技2…70分 時間を計って実施 自己採点して間違えた箇所を直して復習
15	まとめ	技能審査試験（模擬試験）の実施①

《専門教育科目》

科目名	臨床医学各論Ⅴ				
担当者氏名	原武 大介				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-27（態度と志向性）高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。			

《授業の概要》

「臨床」とは「病床に臨む」こと、すなわち患者に接して実際に診察、治療を行うことを意味します。本講では、生命の維持に直接かわる循環器・呼吸器の代表的な疾患について、その特徴、診断、治療など、教科書的な知識のみならず臨床現場に即した知識の習得を目指します。

《テキスト》

「診療情報管理I」（診療情報管理士テキスト）

《参考図書》

適宜紹介します。

《授業の到達目標》

- 1 自分の体を構成する主要臓器の位置と機能を説明できる。
- 2 心臓や肺の主要疾患名をあげ、症状・治療が説明できる。

《授業時間外学修》

疑問を疑問のまま残さないようにしてください。授業で生じた疑問はまず自分で調べて解決するのが理想ですが、質問は常に受け付けます。1日5分でもいいので学習の時間をつくるようにしてください。

《成績評価の方法》

期末テスト(80%)、小テスト(20%)、出席（減点法）

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説書を配布する。

《備考》

毎回出席を確認します。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	循環器1	概要
2	循環器2	高血圧
3	循環器3	虚血性心疾患
4	循環器4	不整脈
5	循環器5	脳血管疾患
6	循環器6	その他の循環器疾患
7	呼吸器1	概要
8	呼吸器2	肺炎
9	呼吸器3	気管支喘息、COPD
10	呼吸器4	その他の呼吸器疾患
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目》

科目名	豪州医療福祉研修				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-26 (技能)人の話を傾聴し、共感的に応答する技能を身につけている。			

《授業の概要》

日本医療福祉実務教育協会が主催するオーストラリア医療福祉研修に参加し、ホームステイしながら、同国の医療福祉事情や歴史文化についての見識を深める。オーストラリアではボランティアを活用した地域福祉制度を発展させているが、この研修では実際の現場でのボランティア活動を体験し、医療と福祉の原点に触れ、医療や職業的倫理に関する知識を応用する基本的な技能を身につける。

《授業の到達目標》

- ①オーストラリアの医療福祉事情についての見識を深める。
- ②オーストラリアの歴史・文化・生活を理解する。

《成績評価の方法》

1. 研修に臨む態度 50%
2. レポート 50%

《課題へのフィードバック方法》

レポートについて講評の時間を設ける。

《テキスト》

「豪州医療福祉研修のしおり」(日本医療福祉実務教育協会)

《参考図書》

細井忠俊・バーウィック妙子「今日から使える！留学&ホームステイのための英会話」(アルク)

《授業時間外学修》

事前学修：「豪州医療福祉研修のしおり」にある日常会話集を声を出して練習する。(毎日30分)

- ・オーストラリアの歴史・文化・社会についての本を読む。(毎日30分)

事後学修：「豪州医療福祉研修のしおり」にある日常会話集を暗記するまで練習する。(毎日30分)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	(学内) 事前研修①	オーストラリア事情
2	(学内) 事前研修②	英会話
3	(学内) 事前研修③	英会話
4	(研修先) 英会話研修	日常生活、医療福祉分野など
5	(研修先) 英会話研修	日常生活、医療福祉分野など
6	(研修先) セミナー	オーストラリアの歴史・文化について学ぶ。
7	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
8	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
9	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
10	(研修先) セミナー	オーストラリア医療福祉事情について学ぶ。
11	(研修先) 見学	各種医療機関、福祉施設
12	(研修先) 見学	各種医療機関、福祉施設
13	(研修先) 見学	博物館、市役所庁舎
14	(研修先) ボランティア	地域ボランティア体験
15	(学内) 研修のまとめ	研修の反省等

《専門教育科目》

科目名	情報科学				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。

《授業の到達目標》

1. 情報機器とシステム、ネットワークの活用ができる。
2. システム的な考え方や論理的な思考力、問題解決手法に関する知識を理解している。

《テキスト》

「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成30-31年度版」富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)

《参考図書》

滝口直樹 著 「ゼロからはじめる ITパスポートの教科書」
とりい書房

《授業時間外学修》

事前学修：各章の内容を事前に予習する。（10分程度）
事後学修：各章の章末問題を解く。（20分程度）

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%,
 2. 課題提出 20%,
 3. 期末試験 60%。
- 《学生へのフィードバック方法》期末テスト後に解説を行う。

《備考》

本講義は1年後期科目「情報管理論」とセットにして履修することが望ましい。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コンピュータシステム(1)	コンピュータの構成要素(1)：五大装置
2	コンピュータシステム(2)	コンピュータの構成要素(2)：記憶メディア
3	コンピュータシステム(3)	システム構成要素
4	コンピュータシステム(4)	ソフトウェア（1）：基本ソフトとファイル管理
5	コンピュータシステム(5)	ソフトウェア（2）：応用ソフトについて
6	コンピュータシステム(6)	ハードウェアについて
7	理解度確認	コンピュータシステムに関する理解度チェック
8	技術要素（1）	ヒューマンインタフェース、 マルチメディア
9	技術要素（2）	データベースについて
10	技術要素（3）	ネットワークについて
11	技術要素（4）	セキュリティ（1）：情報資産と情報セキュリティ
12	技術要素（5）	セキュリティ（2）：ネットワーク情報セキュリティ
13	基礎理論（1）	離散数学、応用数学と情報理論
14	基礎理論（2）	アルゴリズムとプログラミング
15	まとめ	章末問題、期末試験について

《専門教育科目》

科目名	情報管理論				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

高度情報化社会において、情報技術を活用できる人材が欠かせない。本講義では社会人として備えておくべき共通の情報基礎として、情報機器及びシステムの理解と活用、担当業務の理解と関連問題の解決を図り、安全に情報の収集と応用を行うことや、上位者の指導の下業務分析及びシステム化支援を行うなどの役割の学習を重視している。科目はコンピュータシステムと情報の基礎を習得し、ITパスポート資格試験を目指す。

《授業の到達目標》

1. 情報機器とシステム、ネットワークの活用ができる。
2. システム的な考え方や論理的な思考力、問題解決手法に関する知識を理解している。

《テキスト》

「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成30-31年度版」 富士通エフ・オー・エム株式会社 (FOM出版)

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：各章の内容を事前に予習する。(10分程度)

事後学修：各章の章末問題を解く。(20分程度)

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%,
 2. 課題提出 20%,
 3. 期末試験 60%。
- 《学生へのフィードバック方法》 期末テスト後に解説を行う。

《備考》

本講義は1年前期の科目「情報科学」とセットにして履修することが望ましい。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、ITパスポート試験について
2	企業と法務（1）	企業活動、業務の把握
3	企業と法務（2）	資産管理について
4	企業と法務（3）	取引関連法規と標準化
5	経営戦略（1）	経営戦略マネジメントについて
6	経営戦略（2）	技術戦略マネジメントについて
7	システム戦略	システム戦略とシステム企画
8	中間確認テスト	中間確認テストと解説
9	開発技術	システム開発技術とソフトウェア開発管理技術
10	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント
11	サービスマネジメント	サービスマネジメント
12	ITパスポート試験対策（1）	CBT試験模擬（1）
13	ITパスポート試験対策（2）	CBT試験模擬（2）
14	総合確認問題	理解度チェック問題
15	まとめ	期末試験

《専門教育科目》

科目名	画像処理				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-17（知識と理解）人間関係や対人援助に関する基本的な知識を修得している。 ◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 2-25（技能）自分自身や他者の心理や行動について理解する視点を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

現在の仕事では、単なるワープロや表計算ソフトを使うだけでなく、写真の加工や修正など、画像処理技術も求められるようになった。例えば、ウェブデザイン、チラシ作成やポスター作りなどでは、画像処理ソフトを用いて写真を美しく見せたり、目的に合った画像に仕上げるのがよくある。この科目はPhotoshopとIllustratorの基本機能と使い方、図形オブジェクトと文字、写真加工と合成などの基礎技術を実践的に学ぶ。

《授業の到達目標》

- 1. Photoshopの基本機能及び操作の基本技能を理解し、作品作成ができる。
- 2. Illustratorの基本機能及び操作の基本技能を理解し、作品作成ができる。

《成績評価の方法》

- 1. 受講態度 20%,
 - 2. 課題提出 20%,
 - 3. 期末作品 60%。
- 《学生へのフィードバック方法》
課題提出後に検討会を行う。

《テキスト》

ピクセルハウス 著 「Illustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書」 技術評論社出版

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修： ほぼ毎回は演習課題があり、事前にしっかり教科書を予習すること。（20分程度）
事後学修： 理解の確認として提出課題もあるので、締切まで完成して提出すること。（20分程度）

《備考》

サンプルや補充内容のデジタルファイルを配布する場合があるので、USBメモリと併用する必要がある。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	Illustrator&Photoshopの基本	Illustrator&Photoshopの基本機能、画面構成、解像度・カラーモード・色空間などの基本概念
2	Photoshopの基本	Photoshopの基本画面、基本機能及び基本操作について
3	Photoshopの基本操作（1）	覚えておきたい機能
4	Photoshopの基本操作（2）	レイヤー操作と色調補正
5	Photoshopの基本操作（3）	選択範囲の作成
6	Photoshopの基本操作（4）	色の設定とペイントの操作
7	Photoshopの基本操作（5）	レイヤーマスクの使用
8	Illustratorの基本操作（1）	図形や線を描く、グラフ、画像トレース
9	Illustratorの基本操作（2）	オブジェクトの選択と基本的な変形
10	Illustratorの基本操作（3）	色と透明度の設定
11	Illustratorの基本操作（4）	オブジェクトの編集と合成
12	Illustratorの基本操作（5）	文字、線の設定、文字編集とレイアウト
13	Illustrator&Photoshopの連携	Illustratorへの画像配置、Photoshop用の画像を書き出す
14	総合演習（1）	チラシやポスター作製、Web再利用とDTP印刷
15	総合演習（2）	学習成果の評価に、チラシやポスター作品の制作、レポートのまとめ

《専門教育科目》

科目名	デザイン論				
担当者氏名	河野 謙				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

色彩に対する幅広い知識をベースに、カラーコーディネートする力を身につける。

●科目設計

1. 色彩の基本法則（光、物体および眼（視覚）の特性と色の関係について解説する） 2. 色彩の利用に関する基礎知識（色彩の働きについて理解を深める） 3. 色彩の応用 4. まとめ（快適生活の色彩術）

《授業の到達目標》

- ①色彩の基本法則が説明できる。
- ②その利用に関する基礎知識を自分の言葉で述べるができる。
- ③将来遭遇すると思われる様々な色彩工学的応用問題を解くことができる。

《成績評価の方法》

1. 講義中のビジュアル課題および小テスト（50%）
2. 平常点（授業態度）（50%）

《課題・小テストのフィードバック》

小テスト返却時に評価・解説を行う

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業時間外学修》

学習ノートを準備し、事前事後の内容を記す。

事前学修／次回用に配布する授業内容プリントを読み、不明の語句等を調べておくこと。
事後学修／随時、授業中に前回授業内容の小テストを行うので授業内容を復習し、今回授業の要点を記すこと。（60分程度）

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	1 色彩の基本法則	光（光と色の関係について知る）
2	1 色彩の基本法則	視覚（モノの色と見え方について知る）
3	1 色彩の基本法則	色彩（色の分類について知る）
4	2 色彩のサイエンス	色の見え方の法則性
5	2 色彩のサイエンス	色の持つ視覚効果
6	2 色彩のサイエンス	色の持つ心理的効果
7	2 色彩のサイエンス	色彩調和 1（配色の基本的な考え方）
8	2 色彩のサイエンス	色彩調和 2（明度／色相／彩度による配色）
9	3 色の分類	表色系（マンセル／PCCS）
10	4 色彩の利用技術	色彩の機能的効果を知る（識別、危険察知、見易さ、わかりやすさ）
11	4 色彩の利用技術	色彩の美的・情緒的効果を知る（イメージへの働きかけ、心地よさ、豊かな環境づくり）
12	5 色彩と生活	健康と色彩
13	5 色彩と生活	食と色彩
14	5 色彩と生活	ファッションと色彩
15	5 色彩と生活	インテリアと色彩

《専門教育科目》

科目名	ウェブデザイン I				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

インターネットに関する基礎知識、ホームページ作成のための基本技術を学習します。授業では、HTML、CSSについて段階的に学習しますので、初めての人も無理なく習得することができます。8月にウェブクリエイター初級試験を受験できます。

《テキスト》

「Webクリエイター能力認定試験 (HTML4.01) <初級> 公認テキスト & 問題集 改訂3版」FOM出版

《参考図書》

「Webクリエイター能力認定試験初級問題集」ウィネット

《授業の到達目標》

1. HTMLとCSSの基本について理解している。
2. Webクリエイター能力認定試験初級に合格できる技術力を身につけている。もしくは、同等の技術を身につけている。

《成績評価の方法》

期末試験60%、平常点（受講態度・課題の提出状況と完成度）40%の割合で評価する。期末試験・平常点のいずれかが基準に満たない場合、単位は認定されない。
《フィードバック方法》試験（試験60分・講評30分）及び課題について講評の時間を設ける。

《授業時間外学修》

事前学修（30分）

- ・事前にテキストに目を通しておくこと。

事後学修（60分）

- ・授業で新たに学習したタグやスタイルをノートに整理する。
- ・授業で学習した内容を、もう一度操作して確認する。

資格試験のための練習に取り組む。

《備考》

普段からWebページを見るときに、どんなふうにつけてあるか考えながら見るようにしてみてください。
タイピングを練習し少しでも入力速度を向上しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	インターネットの基礎知識、資格試験の内容の説明、基本ツールの使い方
2	HTMLの記述	一般定義、仕切り、文字装飾、HTMLとCSSの切り分け、HTMLの記述、段落、改行、水平線、ヘッダー
3	HTMLの記述	イメージ、マルチメディア、リスト、作表、リンク
4	HTMLの記述	ここまでの復習として、練習問題（5問程度）を各自で作成
5	CSSの基本	CSSの作成方法、その他一般知識、テキスト装飾、フォント
6	CSSの基本	背景、ボックス、
7	CSSの基本・試験対策（規定問題）	配置、疑似クラス、解説・規定問題1
8	試験対策	規定問題2
9	試験対策	規定問題3
10	試験対策（自由問題）	解説・自由問題1（前半）
11	試験対策	解説・自由問題1（後半）
12	試験対策	自由問題2
13	試験対策	自由問題3
14	試験対策	規定問題3
15	試験対策	最新問題の傾向と対策

《専門教育科目》

科目名	データベース基礎				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		☐ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ☐ 3-28 (態度と志向性)専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

アクセスを利用してデータベースの基本概念やデータの処理方法を学習し、さまざまなデータを効率よく利用、管理する方法を学びます。

希望者は2月に実施される情報処理技能検定試験（データベース）3級を受験できます。

《テキスト》

「Access®2010クイックマスター」ウィネット

《参考図書》

「情報処理技能検定試験 データベース模擬問題集 3級」
日本情報処理検定協会

《授業の到達目標》

1. アクセスの基本操作ができる。
2. データの流れを理解している。
3. 身近な問題をデータベースを使って処理をするために必要な考え方を身につけている。

《授業時間外学修》

事前学修：予定範囲についてテキストを読む（30分）
事後学修：授業で学習した範囲について、もう一度同じ操作をして確認する（60分）

《成績評価の方法》

中間試験30%、期末試験30%、平常点（授業態度及び課題提出状況と完成度）40%で評価し、3項目のいずれかが基準に満たない場合、単位は認定されない。
《試験・課題へのフィードバック方法》課題はコメントを返却し、試験は試験後に解説する（試験60分・解説30分）。

《備考》

欠席した場合には、欠席日の授業範囲を必ず次週までに勉強しておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	データベースの概要、アクセスの概要
2	テーブルの作成	テーブルの概要、作成、インポート
3	クエリーの作成	選択クエリの作成、演算フィールドの作成
4	フォームの作成	フォームウィザードの利用とフォームの編集
5	レポートの作成	レポートの作成と編集
6	マクロの作成	リレーションシップの作成、マクロの登録
7	復習 1	テキスト第1部の復習
8	データベース作成演習 1	会員マスターの作成、クエリの作成
9	データベース作成演習 2	リレーションシップの作成、集計クエリ、フォーム、レポート
10	データベース作成演習 3	過去データの処理、マクロによる自動処理
11	練習問題 1	販売管理データベース 1 の作成（テーブルの作成からレポートまで）
12	練習問題 2	販売管理データベース 2 の作成（テーブルの作成からレポートまで）
13	確認テスト	確認テスト
14	検定解説	検定試験 3 級の解説 1
15	検定解説	検定試験 3 級の解説 2

《専門教育科目》

科目名	アウトドア演習				
担当者氏名	鈴木 理				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

健康の維持・増進のためには、運動、栄養、休養をライフスタイルの中にバランスよく取り入れていくことが求められている。

そこで本科目では、学外の施設を利用し、健康管理の方策を主に運動・休養面から捉え、積極的な健康づくりのための実践例として体験・学習したい。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

1. 健康管理上の運動の必要性を修得する。
2. 健康管理上の積極的休養の必要性を修得する。
3. 健康管理上の運動と積極的休養の実践方法を修得する。

《授業時間外学修》

事前学修：運動と休養の意義、具体的方法に関わる調べ学習（60分程度）。

事後学修：毎日10分（＋10）程度の運動実践。

《成績評価の方法》

受講状況（50％）とレポート課題（50％）による。

《フィードバックの方法》

レポート返却にともない、講評を行う。

《備考》

夏期宿泊研修型集中授業
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	ウェルネス 健康管理からみた運動と休養の必要性
2	演習Ⅰ	身体活動 ハイキング、森林浴、ストレッチングなど
3	演習Ⅱ	身体活動 ハイキング、森林浴、ストレッチングなど
4	演習Ⅲ	環境教育 自然観察、ネイチャーゲームなど
5	演習Ⅳ	環境教育 自然観察、ネイチャーゲームなど
6	演習Ⅴ	休養 温浴、リラクゼーションなど
7	演習Ⅵ	グループワーク 問題解決学習など
8	まとめ	まとめ・レポート
9	－	－
10	－	－
11	－	－
12	－	－
13	－	－
14	－	－
15	－	－

科目名	理数基礎A				
担当者氏名	鈴木 理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

本科目は、理科や数学といった科目を苦手としてきた学生を対象として、いわばこれまでの復習を行い、知識の掘り起しをねらうものである。前半は算数・数学に関わる懐かしい話題を、後半は理科分野の中から主に化学、生物に関する話題をはじめ、データを読み取る力（Data-Based Thinking）の問題にも触れる予定。本科目を受講することで、今後の専門教育への導入がスムーズになれば幸いである。

《授業の到達目標》

1. 日常生活上、必要とされる数学の基本的な計算、数式を理解している。2. 化学、生物分野を中心とした生活上の理科の基本を理解している。3. 各種データに見られる数字情報を誤解なく、ロジカルに認識できる。

《成績評価の方法》

テストの結果を重視（中間試験40％、期末試験40％）するが、平常点（受講態度・提出物・小テストなど、20％）も加味し、総合的に評価する。

《フィードバックの方法》

テスト実施後もしくは翌週に解説（30分程度）を行う。

《テキスト》

特になし。
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

1. 小宮山博仁 著「大人に役立つ算数」（文芸春秋）
2. 西口正 著「大人のお勉強 算数編」（PHP研究所）
3. 仲田紀夫 著「おもしろ数学」（三笠書房）

《授業時間外学修》

1. 配布された資料をもとにした復習（15分程度）
2. その他適宜授業中に提示する。

《備考》

授業後半では、5～6人でのグループワークを取り入れる予定。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 算数・数学①	授業のすすめ方 算数キホンのキ～計算が速くてうまくなる
2	算数・数学②	割合、比率、分数など ～賢いショッピングのために…
3	算数・数学③	平均算、和差算 ～テストの点数はいくつになるか？
4	算数・数学④	鶴亀算 ～懐かしい「連立方程式」の登場です
5	算数・数学⑤	数や単位というもの① ～数字の世界って、意外とあいまい
6	算数・数学⑥	数や単位というもの② ～数字の世界って、意外とあいまい
7	算数・数学⑦	前半まとめ
8	理科①	水溶液の作り方 ～調理人には切っても切れない科学です
9	理科②	エネルギーと代謝 ～我々は何からエネルギーをとりいれ、どのように消費するのか？
10	理科③	力学 力はどの方向に向くのか
11	Data-Based Thinking①	数字を扱う各種データの見方
12	Data-Based Thinking②	統計情報のウソホント ～ロジカルに考えよう①
13	Data-Based Thinking③	統計情報のウソホント ～ロジカルに考えよう②
14	客観的情報伝達	グループワーク（情報をかたちに）
15	客観的情報伝達 まとめ	グループワーク（情報をかたちに）、まとめ

科目名	統計学				
担当者氏名	吉田 誉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ○ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

統計学的推論、検定の計算処理は、コンピュータを用いて多く行われている。しかし、どの方法を用いるのか、得られた結果をどのように解釈するのかという判断は、自分自身で行う必要がある。本講義では、具体的な例を通して、統計学の基礎を学ぶ。

《テキスト》

①必要に応じて配布プリントがある。

《参考図書》

※統計学・統計処理などの書籍はたくさんあるので、ご自身で一番読みやすいものを見つけて購入または図書館などで借りて学習に役立てて下さい。

《授業の到達目標》

- ①数値に対する処理方法ができる。
- ②統計解析の概念と処理方法を理解できる。
- ③関数電卓を用いて簡単な統計処理ができる。
- ④コンピュータ上で統計処理ができる。

《授業時間外学修》

- ①配布した統計の演習問題を解いておくこと。
- ②関数電卓が扱えるようにしておくこと。
- ③表計算ソフトウェア(Excelなど)が使えるようにしておくこと。
- 事前学修：プリントを読んでおくこと(20分程度)。
- 事後学修：プリントに講義で学んだことを追記して読み直す(20分程度)。

《成績評価の方法》

- ①期末時に実施する定期試験またはレポート課題(90%)
- ②平常点(10%)
- 《学生へのフィードバックの方法》
- 講義終了後にレポートの内容に対して説明をする。

《備考》

講義のほかに、PCを使った演習などがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	数値の扱い方	四捨五入と四捨六入、有効数字、小数点、まるめと総和・平均値
2	処理の流れ	平均値～偏差～偏差平方和～分散～標準偏差（偏差値）
3	基準値	正規分布（標準正規分布）
4	代表値	平均値・中央値・最頻値・パーセント・クォンタイル・歪・尖度・標準偏差）とデータ分類（尺度）
5	母集団と標本	大数の定理、中心極限の定理、サンプル、Z分布、t分布
6	推定	区間推定と点推定
7	検定①	パラメトリック 母平均 1 標本検定
8	検定②	パラメトリック 母比率 1 標本検定
9	検定③	パラメトリック 母平均 2 標本検定
10	検定④	パラメトリック 母比率 2 標本検定
11	検定⑤	ノンパラメトリック 適合度 1・2 標本検定
12	検定⑥	ノンパラメトリック 独立性 1・2 標本検定
13	検定⑦	ノンパラメトリック その他
14	度数分布	ヒストグラム・棒グラフ
15	相関	正負の相関・無相関、回帰直線

《教養科目 一般教養》

科目名	教養基礎				
担当者氏名	水野 敦子、丸川 浩、鈴木 理				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間生活に関わる基本的な知識を修得するため、中学・高校で学んだ知識から、社会に出て行くために必要な基礎的な教養までを勉強する。国語、数学、英語、理科、社会、時事問題の6教科を扱い、授業は学生が問題を解き、それを教員が解説していくという形式で進めていく。就職試験、公務員試験、四年制大学への編入試験を目指す学生はもちろんのこと、社会人としての一般常識を学びたいと思う学生も受講してほしい。

《授業の到達目標》

①漢字、熟語、故事成語など国語の基本的な語彙力を習得する。②数学的知識の応用ができる。③理科一般の基本的な知識を習得する。④英語の文法や語彙・熟語の基本的な知識を習得する。⑤英語の国際時事略語や英語表示などを理解する。

《成績評価の方法》

1. 小テスト 30%
2. 期末試験 70%

《試験へのフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

プリントを配付する。

《参考図書》

随時紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：

- ・課題について調べる。（30分）
- ・日々の社会的出来事に関心を抱き、新聞を読んだり、TVニュースを見る。（30分）

事後学修：課題をもう一度やる。（20分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	国語語彙問題①	言語能力問題
2	国語語彙問題②	四字熟語①
3	国語語彙問題③	四字熟語②
4	国語語彙問題④	現代社会用語
5	国語語彙問題⑤	まとめ、小テスト
6	数学①	虫食い算、整列
7	数学②	仕事算、水槽算
8	数学③	旅人算、通過算、流水算
9	理科①	物理、化学、生物、地学
10	理科②	理科一般常識、数学・理科まとめ、小テスト
11	英語①	国際時事略語、英語のことわざ、英語表示
12	英語②	ビジネス英語、カタカナ英語
13	英語③	英文法
14	英語④	熟語、構文
15	英語⑤	まとめ、小テスト

《教養科目 一般教養》

科目名	社会学				
担当者氏名	相田 美穂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。				
	◎ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。				
	◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。				
	◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。				
	○ 2-19 (技能) 情報処理に関する基本的な技能を身につけている。				

《授業の概要》

社会学は、身の回りの身近な事柄を対象とするものです。講義でとりあげるのは、おたくを中心としたサブカルチャー、恋愛、性の商品化、ウソの4つです。講義の目的は、「社会学でのものの見方」から身近な事柄を見直すことで、今までと異なった見方で社会の仕組みを考え、自分の行動を選択できるようになるということです。なお、講義は受講者の皆さんの関心や理解に応じて進めていきます。

《授業の到達目標》

- ①講義を通じて学んだ「社会学のものの見方」を通じて、身近な事柄を捉えることができる。
- ②身近で起こっている事柄に関心を持つことができる。
- ③身近な事柄について、「社会学のものの見方」を通して問題を発見することができる。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、提出物と講義への参加（50％）を基準に、総合的に評価する。
期末レポートおよび提出物について、講評の時間または講義内で解説を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	講義ガイダンス	講義の目的、進め方、履修上の注意事項について。
2	サブカルチャーとは	サブカルチャーをめぐる考え方を学習します。
3	おたくイメージ	おたくイメージを、映像資料を通じて読み解きます。
4	おたくイメージの変遷	おたくイメージの形成と移り変わりについて、資料を通じて学びます。
5	おたくをめぐるジェンダー	おたくイメージとジェンダー（性別）のかかわりについて考えます。
6	恋愛の定義	恋愛を社会学のものの見方で捉えるための定義づけをします。
7	恋愛する資格	恋愛する資格とは何かを考えていきます。
8	セックスとジェンダー	性をめぐる考え方を学びます。
9	性をめぐる社会のまなざし	映像資料を用いて、性が社会の中でどのように捉えられているのかを読み解きます。
10	性の商品化をめぐる法律	性の商品化を規制する法律が、性商品の多様化を生み出した経緯を学びます。
11	性商品の消費者／労働としての性	商品化された性の買い手と売り手のそれぞれが置かれている状況について学びます。
12	「ウソつき」とはどんな人？	ウソはよくない／うまくウソをつけ、という考え方が、それぞれどこから生じているのか考えます。
13	ウソは解釈によって生まれる	ウソについて、だます人／だまされる人／観察者の三つの視点から捉えていきます。
14	ウソが社会をつくる	信じるからだまされる／だまされるから社会が作られる、という考え方を学びます。
15	実社会の中でのウソ	実社会で起こったウソをめぐる現象について、これまで学習した内容を踏まえて考えます。

《テキスト》

中根光敏『浮気な心に終わらない旅を——社会学的思索への招待』松籟社

《参考図書》

講義内で指示します。

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：次回講義までに、テキストの該当する章に芽をとoshi、わからないことは調べたり、質問できるように準備をする。
事後学修（60分）：講義で学んだ章を整理し、身近な事柄との関連について自分の考えをまとめる。

《備考》

講義では映画やテレビ番組などの視聴覚資料を用います。受講者の理解や関心に応じて、シラパスの内容を変更する場合や、グループ学習を行うことがあります。

《教養科目 一般教養》

科目名	こころと行動				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間の行動の背景には様々なこころの動きがある。モノがあふれる現代、人々の関心は内面へと向い心理学に対する関心もますます高まっている。本講義では、日常的なトピックスからこころの深層の世界までさまざまな題材を取り上げながら、心理学についての理解を深める。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①心理学の基礎的・一般的な知識を習得し、説明することができる。
- ②他者の言動や心理を理解するための視点を持つ。
- ③自分自身のこころの動きや行動、発達過程を内省する意識を持つ。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. 試験（70%）
2. 平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《試験のフィードバックの方法》

期末試験後、解説を行う（試験60分、解説30分）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 心理学とは？	「心理学」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	感情・情動	感情や情動が生起するプロセスや機能等について学修する。
3	感覚・知覚	感覚・知覚の種類や過程等について学修する。
4	記憶の心理学	記憶の種類やプロセスについて学修する。
5	学習心理学	連合理論、条件づけ、認知理論、行動の学習や消去のプロセスについてなど概説する。
6	こころの発達（1）	乳児期～学童期の心身の発達について学修する。
7	こころの発達（2）	青年期～高齢期の心身の発達について学修する。
8	対人認知と印象形成	対人認知の過程や諸要因について学修する。
9	集団と組織の理解	集団や組織が個人の認知・行動に及ぼす影響等について学修する。
10	欲求・動機づけ	欲求や動機づけの種類や関連要因について学修する。
11	パーソナリティ・性格	パーソナリティに関する諸理論やパーソナリティ検査等について学修する。
12	知能と創造性	知能に関する理論や知能検査、創造性や創造的思考について学修する。
13	ストレスと適応	ストレスが心身に与える影響やストレスへの対処、個人の環境に対する適応に関する諸問題について学修する。
14	心理学的支援と心理臨床	今日の社会における心理学的支援の意義や関係する専門職、臨床心理行為の特色について学修する。
15	まとめ	「心理学」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

科目名	生活と化学				
担当者氏名	矢野 卓雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

我々の周りには様々な物質が存在し、役立つ物もあれば危害を加える物もある。これらの複雑多岐にわたる物質も、基本となる数十種類の元素からなり、この組み合わせり方によりその物質の性質は決まってくる。この講義では、生涯役立つ化学の学識を習得するために、無機化学、有機化学、生物化学、栄養化学、食品化学などの分野の実生活に関連した事項を例に挙げながら説明する。

《授業の到達目標》

- ① 身の回りの化学物質の名称や起源、性質を説明できる。
- ② 有用物質の特性や利用方法を説明できる。
- ③ 有害物質の特性や対処方法を説明できる。

《成績評価の方法》

- ① 平常点（受講態度、レポート、小テスト）20%
- ② 期末試験（80%）記述式
《試験のフィードバック方法》小テストについては次回の講義にて、期末試験については期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水崎幸一著
「食を中心とした化学」東京教学社

《参考図書》

指定しない

《授業時間外学修》

事前学修・テキストを読み、自力では理解できない部分を明確にしておくこと。（20分程度）
事後学修・学習した内容をその日のうちに復習し、理解しておくこと。（45分程度）・復習で理解できなかった内容は、次回の講義で質問し、理解するまで指導を受けること。

《備考》

授業中に重要な事項を示すので、重要事項は100%理解すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	身近な化学物質 1 有機化学物質	講義の概要、身近な化学物質、アルコール、メタンガス、プロパンガス、など
2	身近な化学物質 2 水	役割、水分子、極性、水素結合
3	物質の成り立ち	元素記号、原子の構造、電子配置
4	原子構造と特性	電子配置、原子の安定化、イオン
5	物質の構造	構造式、化学結合
6	物質の変化	反応、熱、栄養価、触媒、酵素
7	化学反応	反応速度、化学平衡
8	物質の状態	固体、液体、気体、気液平衡
9	濃度	溶解、濃度
10	溶液の性質	溶解度、浸透圧
11	光線	電磁波、紫外線、吸収剤、反射剤、環状炭化水素
12	電解質	酸、塩基
13	コロイド	タンパク質、脂質、糖質
14	官能基	アミン、アミド、異性
15	生物の中の化学物質	核酸、旨味物質、ビタミン、ミネラル まとめ

《教養科目 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅠ				
担当者氏名	石永 正隆、水野 敦子、高田 晃治、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

この授業は、初年次教育として、学園の沿革、地域の学習、地域連携等、本学の学生として充実した学生生活を過ごすための学習面と生活面のガイダンスで構成されています。学生としての責任ある行動や心構えを学び、個々の目標に沿った学生生活を送る指針としていただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。（15分）
 事後学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。（1時間程度）

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューター、或いは、学科の授業担当者がチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講する。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー（学科①）	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使って説明する。ポータルサイトに今期の目標やキャリアチャートなどを入力する。
2	セミナーについて、レポートの書き方と読書の勧め	セミナーレポートを書く上での要領を学ぶ。図書館の利用方法と読書の大切さについて
3	学園の沿革と建学の精神（学長）	学園の創立からの歴史を振り返り本学の建学の精神と教育目標について話す。実践目標愛優輝について事例を上げ、目標に近づけるよう学生生活を過ごすことを勧める。
4	大学生活の過ごし方（カウンセリングルーム堀内先生）	大学生が直面する悩みについて考える。また、カウンセリング・ルームの利用方法について学ぶ。
5	選挙の仕組みと重要性について学ぶ	選挙権を行使するに当たり必要な基礎知識としてその仕組みと重要性について実際にそこに関わっている選挙管理委員会の方から学ぶ。
6	消費者教育	
7	地域理解 ①廿日市市 ②宮島学	廿日市市・宮島の歴史文化・風土などに触れ、地域の特性に詳しい行政担当者・観光協会担当者から具体的な情報を聞き、どう地域貢献に繋げるかを学ぶ。
8	社会貢献（献血活動を通じて）	社会人として必要な社会貢献の意識を日頃血液センターで実際に献血活動に関わっている方の話を通して学ぶ。
9	防災・自助と共助を学ぶ	個々の備えと助け合いが必要な防災についてや、具体的な佐方地区の防災体制について、地域の防災担当や自治会の方から学ぶ。
10	青少年犯罪の被害者にならないために	青少年犯罪の現状を知り、被害者にならない為に日頃から意識することや、実践的な対処法を現場の警察の方から学ぶ。
11	情報倫理（個人情報と守秘義務）	職務上知った「秘密を守る」ことや、「個人情報を開示しない」といった、個人の権利や利益を守るための法律上の義務について、一緒に考える。
12	命を考える	人として、今後母親としてそれぞれの視点から「命」や「命を授かる」といったことを日頃人の生死にかかわる仕事をされている助産師の方から体験談を通して考え学ぶ。
13	平和を考える	被爆体験者の方からの体験談を通して「平和について」学び、今後、自分がどのように平和と関わっていけるかについて考える。
14	進路について考える	本学の就職に関する現状の説明及び就職に向けて今後取り組むべきことを就職指導部担当より学ぶ。
15	コミュニケーションアワー(学科②)	期末試験対策と夏季休暇中の有意義な過ごし方について、ポータルサイト入力（今期の反省、キャリアチャート）

《教養科目 一般教養》

科目名	フレッシュマン・セミナーⅡ				
担当者氏名	石永 正隆、水野 敦子、高田 晃治、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-27（態度と志向性）高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。			

《授業の概要》

この授業では、自己の適性に合った卒業後の進路選択の方法、就職活動の仕方や試験対策、就職の心構えなどを学ぶ。卒業後の進路は、就職、4年制大学への編入、専攻科や専門学科への進学など多岐にわたっている。授業を通して、で自分が進みたい進路や自分の適性に合った業種・職種を早く見つけ、個々の目的に向かって進んでいただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。（15分）
事前学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。（1時間程度）

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューターがチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講してください。
主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー(学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使用して説明する。ポータルサイトに、今期の目標、キャリアチャートなどを入力する。
2	自分と向き合う	自分と向き合い、自分自身について考える。(カウンセリングルーム 堀内先生)
3	女性の体と病気	生涯を通し女性として知っておきたい体と病気の基礎知識とその予防や対処について医療現場で活躍されている女性医師の話を通して学ぶ。
4	(就職対策講座①) 就職ガイダンス	次年度本格化する就職に向けた準備として「就職のてびき」の内容に基づいた就職活動に向けてのポイントを就職指導部担当者より学ぶ。
5	(就職対策講座②) 環境ホルモンとその影響	現在自分を取り巻く地球環境がどのようになっているのかについて、特に環境ホルモンとその影響について専門の研究者から学び自分が今後出来ることは何かについて考える
6	(就職対策講座③) 国際情勢を知る	現在自分を取り巻く国際情勢がどのようになっているのかに関心を持ち国際貢献とは何かについて理解するポイントを外務省担当職員から学ぶ。
7	(就職対策講座④) 国内情勢と新聞の読み方	現在自分を取り巻く国内情勢がどのようになっているのかに関心を持ち国内の政治や経済などに理解を深めるポイントを新聞の読み方と共に新聞記者経験者から学ぶ。
8	(就職対策講座⑤) 就職のための身だしなみ	就職活動に大切な第一印象の対策として重要なスーツの着こなしやヘアメイクの専門家の方から実践的に学ぶ。
9	(就職対策講座⑥) 自己分析① 職務適性テスト	適性診断テストの実施を通して就職活動を意識し、今後の自己の方向について改めて考えるきっかけとする。
10	(就職対策講座⑦) 自己分析② 自己PR	自己分析①で行った適性診断テストの内容や多方面からの自己の振り返りを行い、自己理解について考える。
11	(就職対策講座⑧) 人との出会いを考える	ヴィオラ奏者から、実際に演奏を聴き、留学や国内外でのコンサートを通じて世界中の方との出会いと、人間関係の大切さを経験談から学ぶ。
12	(就職対策講座⑨) イマジマップ 自分のビジョン	現状の自分を知り、そこからキャリアやライフビジョンをイメージしていく力をイメージマップを作りながら実践的に学ぶ。
13	(就職対策講座⑩) 就職活動体験報告	就職活動を終え内定を得た各学科コースの2年生から就職活動の現状やポイント、又反省点などについての発表を聞き、今後の就職活動について学ぶ。
14	(就職対策講座⑪) インターネットによる就職活動	次年度の就職活動に向けインターネットによる就職活動の方法を学ぶ。(情報センター 章先生)
15	コミュニケーションアワー(学科②)	期末試験対策や、休暇中の学生生活にかかわる諸連絡および新2年生における学生生活と学修習慣について学ぶ。

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)

ボランティア活動時間 (70%)

《成績のフィードバック方法》

活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介

「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)

活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。

事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)

ボランティア活動時間 (70%)

《成績のフィードバック方法》

活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介

「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)

活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。

事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 一般教養》

科目名	母と子の健康				
担当者氏名	井上 富美江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9 (知識と理解) 人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 1-10 (知識と理解) 生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

一人の女性として、自分の身体の構造を知り、ライフステージ各期の身体の変化と起こりうるさまざまな疾患について学ぶ。また社会問題である性感染症について知り、正しい予防法と避妊法の知識を深めてもらう。

妊産婦・新生児から小児までの健康・疾患を知り、母子を取り巻く環境について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① 女性の身体構造とその機能を理解している。
- ② 避妊・性感染症予防に必要な知識を説明できる。
- ③ 女性のライフステージと健康障害について理解できる。
- ④ 妊娠・出産・小児の健康課題を知り、理解できる。

《成績評価の方法》

① 平常点30% (授業態度10%・レポート20%)

② 期末試験 (70%)

《試験のフィードバック方法》

期末試験終了後に解説する。(試験60分・解説30分)

《テキスト》

谷田恭枝 著「新版 女性と生命」東海大学出版部
その他、プリント・映像資料

《参考図書》

ラーシュ ハンベルイェル著「誕生の神秘」小学館
木原 秀樹著「240動画でわかる赤ちゃんの発達地図」メディカ出版
「ウィメンズ・メディカ」小学館
深沢友紀著「産声のない天使たち」朝日新聞出版

《授業時間外学修》

- ・事前学修 (30分程度) : テキストに目を通して、わからない言葉があれば調べておく。
- ・事後学修 (15分程度) : 街中での妊婦や子供の様子や行動、母子関連のニュースに関心を持ち、自分の考えを整理しておく。

《備考》

授業の具体的な内容・進度は授業計画に沿いながら適宜調整していく。

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	OR・母子保健	講義の進め方の説明・母子保健の意義と歴史、現状など
2	女性の生理的特徴①	女性の身体の構造
3	女性の生理的特徴②	女性の身体の働き
4	女性のライフステージと関連疾患①	女性のライフステージ：思春期～月経のトラブルと炎症
5	女性のライフステージと関連疾患②	成熟期：避妊法と性感染症予防
6	女性のライフステージと関連疾患③	成熟期：不妊症と妊娠中絶
7	女性のライフステージと関連疾患④	更年期：がん・更年期、子宮の疾患など
8	女性の関連疾患⑤ 妊産婦の健康上の問題①	乳がん／妊娠の成立
9	妊産婦の健康上の問題②	胎児の発育
10	妊産婦の健康上の問題③	妊娠期の異常・分娩の3要素
11	妊産婦の健康上の問題④	分娩期各期・産褥期の異常
12	新生児	新生児の発達と生理的变化
13	成長と発達	小児期の成長と発達、栄養（離乳食）・生活
14	小児の疾患・事故	小児期の疾患・感染症とその予防、事故と虐待
15	妊産婦の健康上の問題⑤	生命誕生・出産（DVD）

《教養科目 一般教養》

科目名	体育				
担当者氏名	室田 杏奈				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

ジャズダンスをはじめ、様々なダンスの基礎的実技を主体とする。
 まず身体の柔軟性・体力を身に付け、自己表現及び芸術的感性を育む。また音楽とダンスによる効果としてストレス解消、心のみずみずしさやリフレッシュなど自己開発を促す。
 さらには最新版の人気アーティストの曲による振り付けも行い、このクラスの魅力としていく。

《テキスト》

なし

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①リズム、ステップを理解している。
- ②短い振り付けを覚えることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業で前回授業の振付を全員で踊ってもらうので、練習をしてくる。（10分～15分程度） 事後学修：毎週振付が進むので当日進んだ部分を自宅で練習する（10分～15分程度）

《成績評価の方法》

- ①授業態度（80％）
 - ②体力テスト・ダンスの表現力（20％）
- 〈課題へのフィードバック方法〉
 実技後その内容について講評の時間を設ける。

《備考》

動きやすい服装、上履き専用のスニーカーを準備すること

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ストレッチ	ウォームアップから始める
2	ストレッチ	体の伸ばしている部分を理解、学ぶ
3	基本テクニック	体幹を鍛える
4	筋肉トレーニング	腹筋・背筋・側筋などを鍛える
5	アイソレーション	体を部分的に動かしていく
6	アイソレーション	応用した動きを覚える
7	リズムトレーニング	基本的な動き
8	リズムトレーニング	応用した動き
9	テクニック	ターン・ジャンプなどダンスに必要な技術を身につける
10	クロスフロー	ステップを踏む
11	コンビネーション	短い振り付けを覚えていく
12	コンビネーション	さらに振り付けを足していく
13	コンビネーション	構成を取り入れていく
14	コンビネーション	グループに分かれて練習する
15	前期のまとめ	前期に学んだことの確認

科目名	日本事情Ⅰ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

本学に入学した外国人留学生の授業である。本学における専門的な授業の理解や単位の取得を効果的に進めるためには、日本語をマスターするだけでなく、日本の生活環境・習慣の違いを理解することが重要である。この授業は伝統文化から現代社会び、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。

《テキスト》

テキスト：プリントを使用する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

- ①日本の文化と自国の文化の違いについて理解することができる。
- ②日本の生活環境・習慣について理解できる。
- ③講義の内容を理解し、適切な日本語で内容をまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておき、関連した資料を読む。（30分）
事後学修：授業で配付されたものを復習する。（20分）

《成績評価の方法》

1. レポート（提出状況、内容）70%
2. 平常点（受講態度）30%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートは担当者がチェックして返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関わることについて説明する。
2	心構え	留学生としての心構えを説明する。
3	異文化間コミュニケーション①	「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて考える。
4	異文化間コミュニケーション②	「外国人が日本人によく聞く質問」から、異文化間コミュニケーションについて考える。
5	こころのケア①	留学生のこころのケアについて解説する。
6	こころのケア②	留学生のこころのケアについて解説する。
7	日本の医療事情	「病気になった時はどうすればいいか」ということから日本の医療事情を解説する。
8	日本の病院	日本の病院の制度などを解説する。
9	日本のIT事情	日本のIT化の現状を解説する。
10	日本の伝統工芸	日本の伝統工芸について解説する。
11	日本の伝統文化	能・狂言・茶道などの日本の伝統文化について解説する。
12	日本の伝統食	日本古来からの伝統食を解説する。
13	日本人の食生活①	日本人の食生活を解説する。
14	日本人の食生活②	日本人の食生活を解説する。
15	まとめ	受講した感想、日本社会について話し合う。

《教養科目 一般教養》

科目名	日本事情Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

本学に入学した外国人留学生の授業である。
「日本事情Ⅰ」に引き続いて、日本に関するさまざまな事情を
学び、人間生活に関わる基本的な知識を修得する。

《テキスト》

テキスト：プリントを使用する。

《参考図書》

授業の中で紹介する。

《授業の到達目標》

- ①日本の文化と自国の文化の違いについて理解することができる。
- ②日本の生活環境・習慣について理解できる。
- ③講義の内容を理解し、適切な日本語で内容をまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておき、関連した資料を読む。（30分）
事後学修：授業で配付されたものを復習する。（20分）

《成績評価の方法》

1. レポート（提出状況、内容）70%
2. 平常点（受講態度）30%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートは担当者がチェックして返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の目的、内容、成績評価の方法など受講に関わることについて説明する。
2	異文化間コミュニケーション①	留学生自身が日本社会で不思議だと思ったことから、異文化間コミュニケーションについて考える。
3	異文化間コミュニケーション②	留学生自身が日本社会で不思議だと思ったことから、異文化間コミュニケーションについて考える。
4	日本の健康事情①	日本人の健康問題における現状を解説する。
5	日本の健康事情②	日本人の健康問題における現状を解説する。
6	こころのケア①	留学生のこころのケアについて考える。
7	こころのケア②	留学生のこころのケアについて考える。
8	日本の病院	日本の病院の制度などを解説する。
9	日本のIT事情	日本のIT化の現状を解説する。
10	日本の伝統工芸	日本の伝統工芸について解説する。
11	日本の伝統文化	能・狂言・茶道などの日本の伝統文化について解説する。
12	日本の伝統食	日本古来からの伝統食を解説する。
13	日本人の食生活	日本人の食生活を解説する。
14	日本のポップカルチャー	日本のアニメやポップスなどのポップカルチャーについて解説する。
15	まとめ	受講した感想などについて話し合う。

科目名	英語 I				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。			

《授業の概要》

スポーツ用品メーカーを舞台にして、アメリカ人と日本人の同僚が会社の内外で様々なことを体験する様子が描かれたテキストを使用する。英語でのコミュニケーション能力を養うために、高校までに学んだ基本的な文法事項を復習しながら、英語を聞き、読み、話し、書く活動を行い、簡単な日常会話や自分自身のことを英語で表現できるようにする。各ユニットは2回の授業で行う。

《授業の到達目標》

- ①英語の文法を理解し、英語と日本語の違いが分かるようになる。
- ②簡単な日常英会話ができるようになる。
- ③英語で自分のことを言えるようになる。

《成績評価の方法》

1. 期末試験 50%、2. 中間試験 20%、3. 課題 20%、4. 学修ノート 10%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《テキスト》

Robert Hickling, Misato Usukara 「English First Basic」
（金星堂）

《参考図書》

井上謙一他「続 授業で使える英語の歌 20」（開隆堂）
その他の参考図書については適宜紹介する。

《授業時間外学修》

学修ノートを準備し、事前・事後学修の内容を記す。
事前学修（20分）：教科書を読み、知らない単語の意味を調べる。
事後学修（30分）：課題をする。会話やリーディングの読みの練習をする。

《備考》

学修ノートには、事前学習で調べたことと、授業中に重要だと思ったことを記す。学修ノートは期末試験終了後に提出してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス Pre-Unit、発音練習	授業の進め方、成績評価の方法、勉強の仕方を説明する。 英語と日本語の語順の違い、発音の違いを学ぶ。
2	Unit 1 動詞の現在形①	be動詞と一般動詞の現在形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
3	Unit 1 動詞の現在形②	be動詞と一般動詞の現在形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴いて動詞の現在形について確認する。
4	Unit 2 代名詞①	代名詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
5	Unit 2 代名詞②	代名詞について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴いて代名詞について確認する。
6	Unit 3 時を表す前置詞①	時を表す前置詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
7	Unit 3 時を表す前置詞②	時を表す前置詞について、リーディングとライティングを学ぶ。 英語の歌を聴いて時を表す前置詞について確認する。
8	中間試験 Unit 4 基本5文型①	中間試験を行う。 英語の基本5文型について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
9	Unit 4 基本5文型②	基本5文型について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴きながら基本5文型を確認する。
10	Unit 5 動詞の過去形①	過去形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
11	Unit 5 動詞の過去形②	過去形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴きながら過去形を確認する。
12	Unit 6 進行形①	進行形について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
13	Unit 6 進行形②	進行形について、リーディングとライティングをしながら学ぶ。 英語の歌を聴きながら進行形を確認する。
14	Unit 7 未来形①	willと be going toの細かいニュアンスの違いについて、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
15	Unit 7 未来形②	willと be going toの細かいニュアンスの違いについて、リーディングとライティングをしながら学ぶ。英語の歌を聴きながら、未来形について確認する。

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。			

《授業の概要》

前期に引き続き、スポーツ用品メーカーを舞台に、アメリカ人と日本人の同僚が会社の内外で様々なことを体験する様子が描かれたテキストを学ぶ。英語でのコミュニケーション能力を身につけるためには、地道な努力が必要であるので、授業での様々な活動に積極的に参加し、課題を着実にこなしてもらいたい。各ユニットは2回の授業で行う。

《テキスト》

Robert Hickling, Misato Usukara「English First Basic」
（金星堂）

《参考図書》

井上謙一他「続 授業で使える英語の歌 20」（開隆堂）
その他の参考図書については適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①英語の文法を理解し、英語と日本語の違いが分かるようになる。
- ②簡単な日常英会話ができるようになる。
- ③自分のことを英語で表現できるようになる。

《授業時間外学修》

学修ノートを準備し、事前・事後学修の内容を記す。
事前学修（20分）：教科書を読み、知らない単語の意味を調べる。
事後学修（30分）：課題をする。会話やリーディングの読みの練習をする。

《成績評価の方法》

1. 期末試験 50%、2. 中間試験 20%、3. 課題 20%、
4. 学修ノート 10%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

学修ノートには、事前学習で調べたことと、授業中に重要だと思ったことを記す。学修ノートは期末試験終了後に提出してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	Unit 8 助動詞①	助動詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
2	Unit 8 助動詞②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて助動詞について確認する。
3	Unit 9 to不定詞・動名詞①	to不定詞・動名詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
4	Unit 9 to不定詞・動名詞②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて、to不定詞・動名詞について確認する。
5	Unit 10 現在完了①	現在完了について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
6	Unit 10 現在完了②	助動詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて現在完了について確認する。
7	中間試験 Unit 11 接続詞①	中間試験を行う。 接続詞について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
8	Unit 11 接続詞②	接続詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて接続詞について確認する。
9	Unit 12 比較①	比較表現について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
10	Unit 12 比較②	比較表現について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて比較表現について確認する。
11	Unit 13 受動態①	受動態について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
12	Unit 13 受動態②	受動態について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて受動態について確認する。
13	Unit 14 分詞（現在分詞・過去分詞）①	分詞による修飾表現について、リスニング、会話練習、文法問題をしながら学ぶ。
14	Unit 14 分詞（現在分詞・過去分詞）②	分詞について、リーディングとライティングをしながらを学ぶ。 英語の歌を聴いて分詞について確認する。
15	Unit 15 関係代名詞・関係副詞	関係詞について、リスニング、ライティング、リーディング、会話練習をしながら学ぶ。

科目名	中国語 I				
担当者氏名	劉 鳴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

中国語は日本語に似ているところが多いですが、外国語です。発音は一番難しいとされているので、初心者はず発音を習得しておきましょう。発音を練習すると同時に、中国語で簡単な挨拶表現を習得していきましょう。授業中はビデオなどで中国事情を紹介したりして、楽しい授業をしていきましょう。

《テキスト》

日中学塾編「わかりやすい入門中国語」(株)広瀬印刷

《参考図書》

授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① テキストの発音編における単語が正しい発音で読むことができる。
- ② 簡体字の書き方を記憶している。
- ③ 物事を判断する表現ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業前に新しい授業内容を予習すること。(20分程度)
 事後学修：中国語の発音をよく練習し、新しい単語と言葉を暗記すること。(60分程度)

《成績評価の方法》

- ① 平常点(小テスト、授業課題など) 30%
 - ② 中間試験30%、期末試験40%
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する。
 試験60分・解説30分

《備考》

中国語を覚えるため、日常会話の練習が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	中国語と簡体字	中国語の特色、簡体字の様態と書き方
2	声調	四つの声調の習得
3	基本母音	六つの基本母音の習得
4	子音	子音は21個ある
5	声調変化	話し言葉における声調変化
6	複合母音	日本語よりずいぶん多い
7	鼻音	nとngは発音が違う
8	中間まとめ	中国語発音のまとめ、中間試験(1～7)
9	語順と文法	基本的構造「我読書」(SV0)を習得
10	品詞の分類	文法を知る第一歩は品詞を知ること
11	判断を示す表現	「私は日本人です」
12	疑問を示す表現	「これは何ですか?」
13	よく使われる挨拶用語	「こんにちは」「どういたしまして」
14	名前の聞き方	「あなたの苗字は何ですか?」
15	期末まとめ	9～14回までの中国語文法と表現のまとめ

科目名	中国語Ⅱ				
担当者氏名	劉 鳴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-28 (態度と志向性) 専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33 (総合的な学習経験と創造的思考力) これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

引続き一歩踏み込んだ勉強をしましょう。発音を練習しながら、日常生活に使われる言葉を中国語で表現してみましょう。基本動詞、形容詞などの使い方を習得しましょう。授業中はまたビデオなどで中国事情を紹介したりして、楽しい授業をしていきましょう。

《テキスト》

日中学塾編「わかりやすい入門中国語」(株)広瀬印刷

《参考図書》

授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ① テキストの会話文が正しい発音で読むことができる。
- ② 習った文型で簡単な文を作ることができる。
- ③ 簡単な自己紹介と挨拶ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：授業の前に新しい内容を予習すること。(20分程度)
 事後学修：習った中国語の言葉を使って会話を練習すること。(60分程度)

《成績評価の方法》

- ① 平常点(小テスト、授業課題など) 30%
 - ② 中間試験30%、期末試験40%
- 《試験のフィードバック方法》
 期末試験終了後に解説する
 試験60分、解説30分

《備考》

中国語を覚えるため、日常会話の練習が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	歳の聞き方	「あなたはおいくつですか？」
2	数字と家族の呼び方	「おじいちゃんの年は？」
3	時刻の言い方	「今日は何曜日ですか？」
4	形容詞の使い方	「今日の天気はいかがですか？」
5	動作の表現	「あなたは毎日何時に起きますか？」
6	所在の表現	「あなたは家にいますか？」
7	完了の表現	「どこに行きましたか？」
8	中間まとめ	1～7回の授業内容のまとめ、中間試験
9	命令、請求の表現	「どうぞ、お入りください」
10	禁止命令の表現	「行かないでください」
11	お金の言い方	「これはいくらですか？」
12	可能の表現	あなたは運転できますか？」
13	受身の表現	「私は先生にしかったです。」
14	使役の表現	「お父さんは遊びに行かせてくれません。」
15	期末まとめ	9～14回の授業内容のまとめ

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅰ				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○　2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎　3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

我が国の診療報酬は点数単価方式といって、診療料、投薬料、注射料など診療行為ごとに点数が定められています。これらの点数は、診療報酬点数表としてまとめられています。この授業では、診療行為ごとに定められた点数の算定方法と診療報酬明細書への記載要領、明細書の点検を学習します。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト3・・・診療報酬点数算定」「テキスト4・・・診療報酬明細書」「スタディブック1・・・慣用点数早見表」「スタディブック2・・・診療報酬点数表」「基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①点数の算定方法・算定条件を理解している。
- ②薬剤料、特定保険医療材料料（酸素等）の計算ができる。
- ③診療報酬明細書の記載要領を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの各診療行為について、冒頭の学習内容に目を通しておくこと。（10分程度）
事後学修：①確認テストの復習（10分程度）
②基礎問題集の問題を、テキスト等参考資料を調べながら解く（20分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験　70%
 - ②平常点（授業態度　確認テスト　提出物）30%
- 《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（10分程度）
期末試験：試験終了後に解説を行う

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	初診料　再診料 外来診療料	初診料　再診料　外来診療料　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
2	投薬	薬剤料　調剤料　処方料　調剤技術基本料　処方せん料 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
3	注射	薬剤料　注射実施料　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
4	処置 1	一般処置　救急処置　皮膚科処置　泌尿器科処置　産婦人科処置　眼科処置 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
5	処置 2 リハビリテーション	耳鼻咽喉科処置　整形外科的処置　栄養処置　ギプス　リハビリテーション （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
6	精神科専門療法 放射線治療　手術	精神科専門療法、放射線治療　（算定方法、明細書の記載要領と点検）練習問題 手術点数の検索　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
7	輸血 麻酔	保存血液輸血、自家採血輸血、自己血貯血、自己血輸血　保存血液代 麻酔、神経ブロック（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
8	検体検査 1	採取料　検体検査判断料　検体検査実施料…尿・糞便等検査、血液検査 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
9	検体検査 2	検体検査実施料…生化学的検査 1　生化学的検査 2　免疫学的検査　微生物学的検査 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
10	生体検査 1	呼吸循環機能検査等　超音波検査等　監視装置による諸検査　脳波検査等　神経・筋検査　耳鼻咽喉科科学的検査　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
11	生体検査 2	眼科学的検査　負荷試験等　内視鏡検査　その他の検査 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
12	病理診断 入院料	病理診断・判断料　病理標本作製料（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題 入院料、入院時食事療養費　（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
13	画像診断	エックス診断料　コンピュータ断層撮影診断料 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
14	医学管理	特定疾患療養管理料　特定疾患治療管理料　その他の医学管理料（診療情報提供料、薬剤情報提供料）（算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題
15	在宅医療	在宅患者診療・指導料　在宅療養指導管理料 （算定方法、明細書の記載要領と点検）　練習問題

《職業に関する科目》

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅱ				
担当者氏名	浜咲　こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○　2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎　3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

診療報酬請求事務演習Ⅰ（点数表の算定）で学習したことを基にして、カルテと診療報酬明細書を突き合わせて点検を行う。誤りを発見できる眼を養っていく。

《テキスト》

「医療事務講座医科テキスト3…診療報酬点数算定」「テキスト4…診療報酬明細書」「スタディブック1…慣用点数早見表」「スタディブック2…診療報酬点数表」「基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

①診療報酬明細書（レセプト）の記載要領を理解し、迅速かつ正確な点検（誤りの発見）ができ、さらに正しく訂正することができる。

《授業時間外学修》

事前学修：スタディブック1の各診療行為点数の参照ページを確認しておくこと（10分程度）
事後学修：①確認テストの復習（10分程度）
②授業中に実施した点検問題の間違い個所の復習（20分程度）

《成績評価の方法》

①期末試験　70％
②平常点（授業態度、確認テスト、提出物）30％
《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（5分程度）
期末試験：試験終了後に解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	明細書点検	医事システムにおける保険請求　点検にあたって
2	明細書点検 基礎（外来）	カルテとの照合（外来） 外来の点検手順　点検ポイント
3	明細書点検 基礎（入院）	カルテとの照合（入院） 入院の点検手順　点検ポイント
4	明細書点検 カルテ1	カルテとの照合（外来） 上書き　外来栄養食指導料　生化学的検査　検査の重複算定　練習問題
5	明細書点検 カルテ2	カルテとの照合（外来） 特定薬剤治療管理料　投薬（外用薬、特定疾患処方加算）検査　練習問題
6	明細書点検 カルテ3	カルテとの照合（外来） 時間帯の加算　薬剤情報提供料　整形外科的処置　画像診断　緊急時の加算　練習問題
7	明細書点検 カルテ4	カルテとの照合（外来） 在宅自己注射指導管理料　耐糖能精密検査と含まれる検査　練習問題
8	明細書点検 カルテ5	カルテとの照合（外来） 外来診療料　悪性腫瘍特異物質治療管理料と腫瘍マーカー　病理　練習問題
9	明細書点検 カルテ6	カルテとの照合（外来） 6歳未満のカルテ　休日加算　手術　ギプス　練習問題
10	明細書点検 カルテ7	カルテとの照合（入院） 即日入院　届出医療機関の時間帯の加算　手術料　緊急時の加算　練習問題
11	明細書点検 カルテ8	カルテとの照合（入院） 食事療養費　薬剤管理指導料　手術時の注射実施料　生（Ⅰ）入院時初回加算
12	明細書点検 カルテ9	明細書のみでの点検（外来）…点検要領、点検手順、明細書の訂正 てんかん指導料　2種類の特定薬剤治療管理料　熱傷処置
13	明細書点検 カルテ10	明細書のみでの点検（入院） 即日入院での初診料算定　食事療養費　検査の算定もれ
14	まとめ①	技能審査試験（実技2…レセプト点検）の過去問題を実施
15	まとめ②	技能審査試験（実技2…レセプト点検）の過去問題を実施

人間生活学科

人間心理コース

2年

科目名	人間関係論				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-17（知識と理解）人間関係や対人援助に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

人間関係は我々の生活の基本であり、人間が人間として生きていくために不可欠な要素である。本講義では、日常生活で経験する様々な人間関係を取り上げながら、これまでの研究による知見を紹介し、心理学的観点からその意味を検討していく。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①人間関係で生じる諸現象を心理学の概念を用いて説明できる。
- ②人間関係の発達過程を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
2. 平常点（学修態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：人間関係論とは？	「人間関係論」という学問領域について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	自己と他者	「自己」と関連する諸概念、二者関係における対人認知や印象形成の過程と諸要因について学ぶ。
3	人間関係の発達(1)：乳児期	乳児期における人間関係、母子関係とその発達過程について学ぶ。
4	人間関係の発達(2)：幼児期～学童期	幼児期ならびに学童期における人間関係の発達過程について学ぶ。
5	人間関係の発達(3)：青年期・成人期・高齢期	青年期、成人期、高齢期（老年期）における人間関係の発達過程について学ぶ。
6	恋愛関係の心理学	恋愛関係および恋愛行動にかかわる理論や要因について学修する。
7	家族関係の心理学(1)	家族関係について心理学的観点から概説する。
8	家族関係の心理学(2)	現代社会における家族を取り巻く環境、困難や支援のあり方について学ぶ。
9	地域社会とコミュニティ(1)	地域社会、コミュニティ、ソーシャルサポートと関連する諸概念について学ぶ。
10	地域社会とコミュニティ(2)	近年のコミュニティの現状、問題点などを検討する。
11	地域社会とコミュニティ(3)	コミュニティにおける支援活動、自助グループ等について学ぶ。
12	集団力学	集団が個人および集団相互に与える心理学的影響について学ぶ。
13	組織の心理学	組織の持つ性質、問題点、リーダーシップの機能等について学ぶ。
14	「さよなら」の心理学	人間関係の終焉としての「別れ」「喪失」について考察する。
15	まとめ	「人間関係論」について授業を通じて学んだことを振り返り、確認する。

《専門教育科目》

科目名	文章表現とコミュニケーションⅡ				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解) 人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能) 生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			

《授業の概要》

人と人とのコミュニケーションの重要な手段であることば。その中でも、話しことばではなく、書きことばによるコミュニケーションの方法を学ぶ。本授業では、いわゆる「うまい」文章の書き方を目指すのではなく、書き手の意思を、なるべく正確に、誤解の少ないように、読み手に伝えるための基本的な技術を、実際に「書く」ことをとおして学んでいく。そのうえで、エッセイの書き方を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ① あらすじ、要約の要領を理解し、書くことができる。
- ② 文章構成法の基本を理解し、適切な構成で文章を書くことができる。
- ③ 日常生活、過去の体験をエッセイを書くことができる。

《成績評価の方法》

1. 毎回の提出物（70％）
2. 平常点（30％ 授業態度 発問への応答）

《提出物のフィードバック方法》

提出物について、授業時間内で、適宜、個人指導、全体講評を行う。

《テキスト》

プリントを使用する。

《参考図書》

近藤勝重「書くことが思いつかない人のための文章教室」（幻冬社新書）など
 その他は、授業をとおして、適宜、紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：必要に応じて、適宜、指示するので、次回授業の文章のテーマに関して、予め下調べをしておく。（30分）
 事後学修：必要に応じて、授業内容の確認プリント・補充プリントを渡すので、その練習問題を解く。（20分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	授業案内
2	文章表現力のためのレッスン①	4コマ漫画を文章で説明する。
3	文章表現力のためのレッスン②	ストーリー漫画のあらすじを書く。
4	読解力と表現力①	小説の読解とあらすじ
5	読解力と表現力②	作品の紹介文を書く。
6	読解力と表現力③	要約と反論
7	エッセイの書き方①	私の好きな○○
8	エッセイの書き方②	状況の説明
9	エッセイの書き方③	人物の描写 写真をもとに
10	エッセイの書き方④	描写と説明
11	エッセイの書き方⑤	場面の描写
12	エッセイの書き方⑥	困難と克服
13	文章構成法①	意見文 比較・対照の構成
14	文章構成法②	意見文 こんなモノじゃない
15	まとめ	文章を書く喜び

《専門教育科目》

科目名	カウンセリング				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-26（技能）人の話を傾聴し、共感的に応答する技能を身につけている。			

《授業の概要》

学生生活を送る中で、人間関係や進路、学業などで、さまざまな問題や悩みが生じるのは誰にでもあり得ることである。この授業では、カウンセリングの基本的な考え方や技法を学習することを通じて、上記のような問題が生じたときに仲間同士で支え合い、問題解決を目指すピアヘルピングの技術を習得することを目指す。また、ピアヘルパーとしての役割や倫理、限界などについても学ぶ。

《授業の到達目標》

- ①ピアヘルピングの基本的な理念や技法に習熟している。
- ②ピアヘルパーとしての役割や倫理を理解している。
- ③カウンセリングの基本的な理論に関する知識を有している。

《成績評価の方法》

1. 試験（70％）
2. 平常点（学習態度（15％）及び講義中の提出物（15％））

《試験のフィードバックの方法》

期末試験後、解説を行う（試験60分、解説30分）。

《テキスト》

日本教育カウンセラー協会（編）「ピアヘルパーハンドブック」（図書文化）

《参考図書》

日本教育カウンセラー協会（編）「ピアヘルパーワークブック」（図書文化）

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。

事後学修：テキストや参考書、授業で配布されたプリントをもとに繰り返し学習し、ピアヘルパー資格取得を目指すこと（20分程度）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する。

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	導入	授業に関するオリエンテーションを行う。ピアヘルパーおよびピアヘルピングについて概説する。構成的グループエンカウンターของกลุ่มワークを体験する。
2	カウンセリングの定義・略史・種類	カウンセリングの定義・略史・種類について学修する。
3	ピアヘルピングの関係領域	ピアヘルピングの関係領域について学修する。
4	ピアヘルピングのプロセス	ピアヘルピングのプロセスについて学修する。
5	ピアヘルパーのパーソナリティ	ピアヘルパーに求められる資質について学習する。また、近年のカウンセリングの動向について学修する。
6	ピアヘルピングの言語的技法（1）	ピアヘルピングの言語的技法として、「受容」「繰り返し」「明確化」について学習する。
7	ピアヘルピングの言語的技法（2）	ピアヘルピングの言語的技法として、「支持」「質問」について学習する。
8	ピアヘルピングの非言語的技法	ピアヘルピングの非言語的技法について学修する。
9	諸問題への対処法	対話の中で生じがちな具体的な諸問題への対処法を学ぶ。また、ピアヘルパーとして可能な支援法の手段・方法について学ぶ。
10	ピアヘルパーの心がまえ	ピアヘルピングとしての基本的な心がまえ、態度を学ぶ。
11	ヘルピングスキルの上達法	ヘルピングスキルの上達法について学ぶ。
12	ピアヘルパーの倫理	ピアヘルパーとしての倫理について学ぶ。
13	ピアヘルパーの活動領域（1）：学業・進路	学業および進路領域におけるピアヘルピングの留意点について学ぶ。
14	ピアヘルパーの活動領域（2）：友人・グループ	友人およびグループ領域におけるピアヘルピングの留意点について学ぶ。
15	ピアヘルパーの活動領域（3）：関係修復・心理	関係修復および心理領域におけるピアヘルピングの留意点について学ぶ。

《専門教育科目》

科目名	カウンセリング演習				
担当者氏名	更科 友美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ○ 2-25 (技能)自分自身や他者の心理や行動について理解する視点を身につけている。 ○ 2-26 (技能)人の話を傾聴し、共感的に応答する技能を身につけている。 ○ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 3-32 (態度と志向性)人のことばに真摯に耳を傾け、人の気持ちを理解し、人に誠実に向き合う態度を身につけている。			

《授業の概要》

この授業では、基本的なソーシャルスキルやストレスマネジメントの力を高めながら、カウンセリングやピアヘルピングの技法を体験的に学ぶことを目標としている。具体的には、支え合う場をつくる力、自分や他者の内的体験に関心をもつ姿勢、イメージや体験を表現する力、他者の語りを受容的に聴く力、現実的な助言やつなぎをする力等を磨き、実生活に活かしていくことをめざしている。

《授業の到達目標》

- ①基本的なコミュニケーションや心理的な健康管理のスキルが身についている。
- ②カウンセリングの応答技法を用いることができる。
- ③ピアヘルパーの知識が体験と結びついている。

《成績評価の方法》

- ①平常点（受講態度、提出物）10%
- ②実技（個人ワーク、グループワーク）60%
- ③試験（期末試験）30%
- 《試験のフィードバック方法》
- 期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

適宜資料を配布

《参考図書》

- ・日本教育カウンセラー協会（編）「ピアヘルパーハンドブック」図書文化

《授業時間外学修》

事前学修（10分程度）：前回のプリントを読み返す。
事後学修（30分程度）：①授業のプリントを読み返して大事な箇所に線を引いたり、エクササイズの体験を振り返る。②「ピアヘルパー」の学習をする際に、授業で学んだ内容とつなげて理解を深める。

《備考》

知識的な学習だけでなく実技練習に重きを置きます。欠席しないようにしてください。授業で練習したスキルは、日常生活でも用いるよう心がけてください。 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	基礎スキル1 自己表現と他者受容	内的世界を表現し、他者から受容される体験を深める。仲間づくりのスキルを高める。
2	基礎スキル2 ストレスマネジメント	ストレスコーピングのスタイルを自覚し、リラクゼーション技法の練習を行う。
3	基礎スキル3 気持ちの言語化	自分の感覚や相手の気持ちを、言葉で表現する練習を行う。
4	基礎スキル4 アサーション	自分の気持ちの伝え方の癖を自覚し、適応的な自己主張のしかたを体験的に学ぶ。
5	応答スキル1 リレーション・傾聴	リレーション（信頼関係）を築くために必要な心がまえと、傾聴姿勢の基本を学ぶ。
6	応答スキル2 受容・繰り返し	相手の話を歪めずに受けとめる「受容」と「繰り返し」の技法を学び、練習する。
7	応答スキル3 共感	相手の感情を的確に映し返す「共感」の技法を学び、練習する。
8	応答スキル4 質問	話を引き出す「開かれた質問」と「閉ざされた質問」の技法を学び、練習する。
9	応答スキル5 明確化	話の要点に焦点をあてる「明確化」の技法を学び、練習する。
10	応答スキル6 要約	話をまとめて全体を見渡す「要約」の技法を学び、練習する。
11	応答スキル7 支持・助言	相手を認めて力づける「支持」、選択肢を広げる「助言」の技法を学び、練習する。
12	実践スキル1 リフレーミング	物事の肯定的な側面に焦点をあてる「リフレーミング」と、肯定的な資質を見つける「リソース」の考え方を学び、練習する。
13	実践スキル2 緊急支援	身近な人が心理的に深刻な事態に陥った際の「緊急支援」の方法について学ぶ。
14	実践スキル3 リファーマ	適切な相談先へつなぐ「リファーマ」の技法を学び、社会資源の利用のしかたを学ぶ。
15	実践スキル4 エンカウンターグループ	エンカウンターグループを体験し、仲間との支え合いの中で自己肯定感を高める。

《専門教育科目》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-25 (技能)自分自身や他者の心理や行動について理解する視点を身につけている。			

《授業の概要》

臨床心理学は何よりも実践的な心理学である。心理臨床の現場は人と人との出会いの中にあり、関係性の中で経験が積み重ねられ、新たな発見が生まれ続ける。本講義では臨床心理学の諸理論および心理臨床の実践を紹介すると共に、人間を理解すること、困難を抱えながらも自分らしく生きていくこと、人格の成長と成熟といったことについても考えていきたい。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

講義中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①臨床心理学の基礎的な理論と概念について説明できる。
- ②心理的な問題を理解する基本的な視点を学修している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：授業で配布されたプリントならびに授業で紹介された文献等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
2. 平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション：臨床心理学とは？	臨床心理学および臨床心理行為について概説する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	臨床心理学の理論(1)：精神分析学	精神分析学の基本的な考え方や諸概念を学修する。
3	臨床心理学の理論(2)：分析心理学	分析心理学（ユング心理学）の基本的な考え方や諸概念を学修する。
4	臨床心理学の理論(3)：認知行動療法	認知行動療法に関する基本的な考え方や諸概念を学修する。
5	臨床心理学の理論(4)：人間中心アプローチ	人間中心アプローチ、クライエント中心療法に関する基本的な考え方や諸概念を学修する。
6	臨床心理学の理論(5)：様々な心理療法	森田療法、内観療法、動作法といった心理療法の基本的考え方や実践について紹介する。
7	臨床心理アセスメント	臨床心理アセスメントの意義、方法等について学修する。
8	子どもの心の問題	子どもに生じやすい心身や行動の問題について学修する。
9	思春期・青年期の心の問題	思春期・青年期において生じやすい心身や行動の問題について学修する。
10	臨床心理学的理解と支援(1)：発達障害	発達障害の種類や特徴、理解と支援に必要な観点を学ぶ。
11	臨床心理学的理解と支援(2)：神経症	「神経症」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
12	臨床心理学的理解と支援(3)：パーソナリティ障害	「パーソナリティ障害」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
13	臨床心理学的理解と支援(4)：精神障害	「精神障害」について、統合失調症を中心に概説し、理解を深め、支援の事例について学ぶ。
14	臨床心理学的理解と支援(5)：「うつ」について	「うつ」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。
15	臨床心理学的理解と支援(6)：高次脳機能障害	「高次脳機能障害」に対する理解を深め、支援の事例について学ぶ。

科目名	心理学実験・査定実習				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 2-25（技能）自分自身や他者の心理や行動について理解する視点を身につけている。			

《授業の概要》

心理学はその歴史の中で、人間の心のはたらきを科学的・実証的に解明することを目指して研究が積み重ねられてきた。本授業では心理学に関する基礎的な実験や調査、心理検査を体験的に学び、人の心を実証的に理解する視点を養う。また、心理学研究のレポートの書き方を学ぶことを通じて、事実を簡潔かつ正確に文章化する力、エビデンスに基づいて論理的に考える力を培う。

《授業の到達目標》

- ①一定の手続きに基づいて心理学的なデータを得て、適切に分析し、論理的に考察することができる。
- ②実験や調査、査定の一連のプロセスを、レポートとして執筆・報告することができる。

《成績評価の方法》

- 1. 平常点（授業態度50%）
- 2. レポート（50%）

《フィードバックの方法》

レポートの添削指導を通じてフィードバックを行う。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

西口利文・松浦 均（編）「心理学実験法・レポートの書き方」（ナカニシヤ出版）

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する文献を検索し、読解しておくこと（20分程度）。
事後学修：実験・実習で得られたデータを整理・分析し、考察すること（20分程度）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション:心理学実験と心理査定	授業に関するオリエンテーションを行う。心理学実験、心理調査、心理査定について概要を学ぶ。
2	心理学研究法とレポートの書き方	心理学の様々な研究法を学ぶ。心理学の研究レポートの一般的な書き方を学ぶ。
3	心理学実験①	心理学の基礎的な実験についてガイダンスを受け、実験に取り組む。
4	心理学実験②	心理学実験で得られたデータを整理、分析し、その結果について考察する。
5	心理学実験③	心理学実験の一連の過程や自身の考察を、先行研究を踏まえてレポートとしてまとめる。
6	心理調査法①	心理調査の目的や特徴、尺度や質問紙の基礎について学ぶ。
7	心理調査法②	調査項目を考えて質問紙を作成し、調査を実施する。
8	心理調査法③	調査結果について集計・分析し、その結果を考察した上で、レポートとしてまとめる。
9	心理査定（質問紙法①）	心理査定および心理検査について概要を学ぶ。質問紙法によるパーソナリティ検査を体験する。
10	心理査定（質問紙法②）	質問紙法によるパーソナリティ検査の結果を、パーソナリティに関する理論を参照しながら考察する。
11	心理査定（質問紙法③）	質問紙法によるパーソナリティ検査の一連の体験をレポートとしてまとめる。
12	心理査定（投映法①）	投映法によるパーソナリティ検査について、その種類や特徴等を学び、実際に体験する。
13	心理査定（投映法②）	投映法によるパーソナリティ検査の結果について、先行研究や文献を参照しながら、解釈仮説を立てる。
14	心理査定（投映法③）	心理査定・心理検査の一連の過程をレポートとしてまとめる。
15	まとめ	心理学の研究法、実験、調査、心理査定について振り返る。心理学レポートの書き方について再確認する。

《専門教育科目》

科目名	介護保険制度				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-17（知識と理解）人間関係や対人援助に関する基本的な知識を修得している。 ○ 2-25（技能）自分自身や他者の心理や行動について理解する視点を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

急速な高齢化と高齢社会に伴い、急増する要介護高齢者と家族介護の現状を概観しながら、社会全体で介護を担うことの意義を理解し、新しい介護システムである介護保険制度の創設の意義について考える。介護報酬算定の仕組み、明細書の記載方法まで学ぶ。さらに、社会福祉制度、利用者との接し方や介護の基礎知識についても学ぶ。

《テキスト》

「介護事務講座テキスト1…介護保険請求実務」「テキスト2…社会福祉と人間関係」「別冊…介護保険請求実務 介護事務基礎問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①介護保険制度が導入された背景や仕組みに習熟している。
- ②介護サービスの内容、高齢者に対する福祉制度を理解している。
- ③介護給付費明細書の記載ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：各単元のテキスト冒頭の学習ポイントを目を通しておくこと。（10分程度）
事後学修：①確認テストの復習（10分程度）
②授業中に行った基礎問題集の問題を復習する（20分程度）

《成績評価の方法》

- ①期末試験 70%
 - ②平常点（授業態度 確認テスト 提出物）30%
- 《試験のフィードバック方法》
確認テスト：返却時に解説（10分程度）
期末試験：試験終了後に解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護保険制度概論	介護保険制度 介護保険制度の仕組み
2	介護保険制度概論	要介護認定 介護支援専門員 介護サービス計画の作成 練習問題
3	介護給付費請求の実際	訪問介護費 訪問入浴介護費 訪問看護費 居宅療養管理指導費 通所介護費 通所リハビリテーション費 短期入所生活介護費 福祉用具貸与費 練習問題
4	介護給付費請求の実際	居宅介護支援費 介護福祉施設サービス費 介護保健施設サービス費 介護療養施設サービス費 地域密着型サービス費 練習問題
5	介護給付費請求の実際	介護給付費の請求について 介護給付費明細書記載について 明細書記載（在宅サービス）練習問題
6	介護給付費請求の実際	明細書記載（在宅サービス）練習問題
7	介護給付費請求の実際	明細書記載（在宅、施設サービス）練習問題
8	介護給付費請求の実際	明細書記載（施設サービス）練習問題
9	社会福祉と人間関係	社会福祉の理念と意義 社会保障制度と社会福祉の概要 練習問題
10	社会福祉と人間関係	社会福祉援助技術 地域福祉の理念と内容・推進方法 練習問題
11	社会福祉と人間関係	現代社会における老人福祉 老人福祉法 高齢者に対する総合的援助 練習問題
12	社会福祉と人間関係	老化 高齢者・障害者の心理的、身体的特性と対応 練習問題
13	社会福祉と人間関係	リハビリテーション 接遇マナー 人間関係 コミュニケーションの技能 練習問題
14	介護概論 医学一般	介護の役割と範囲 成人・高齢者・障害者などの介護 人体の構造および機能 高齢者の代表的疾患
15	まとめ	確認テスト

《専門教育科目》

科目名	子どもの福祉と子育て支援				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-17（知識と理解）人間関係や対人援助に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

今や超少子化国といわれる日本。マスコミでも子育て支援や少子化対策を求める声が盛んである。この授業では、現代の子ども及び子育てをする親、さらに地域社会を取り巻く諸問題を検討し、子どもの健康な発達と福祉のありようを考えていきたい。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会（編）「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度―児童福祉論（新・社会福祉士養成講座 15）」（中央法規）

《参考図書》

渡辺顕一郎（著）「子ども家庭福祉の基本と実践」（金子書房）

《授業の到達目標》

- ①児童福祉の理念と意義を理解している。
- ②現代の社会背景、環境における子どもの発達と家族のありようを理解している。
- ③児童福祉に関する法や制度を理解している。児童福祉に関わる専門職や支援サービスについて理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：授業概要および授業中の予告等をもとに、関連する項目を予習すること（20分程度）。
事後学修：テキスト、参考書ならびに授業で紹介された資料等をもとに発展的に自学自習すること（20分程度）。

《成績評価の方法》

1. レポート（70%）
2. 平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%））

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	児童福祉の理念	児童福祉の理念について学習する。授業に関するオリエンテーションを行う。
2	現代の子どもを取り巻く環境	今日の子どもを取り巻く環境、児童福祉をめぐる近年の動向について学ぶ。
3	子どもの発達過程	子どもの発達・成長過程について学ぶ。
4	家庭と子ども	子どもにとっての家庭の役割・機能について学ぶ。
5	地域社会と子ども	子どもにとっての地域社会の役割・機能について学ぶ。
6	子どもの権利	子どもの権利に関する歴史的変遷や現状について学ぶ。
7	子どもの福祉に関する法制度	子どもの福祉に関する法とその内容について学ぶ。
8	子どもの福祉に関する機関・施設と専門職	子どもの福祉に関する機関・施設と専門職について学ぶ。
9	子どもの福祉に関するサービスの実際	子どもの福祉に関する、保育、養護、施設福祉サービス、在宅福祉サービス、保健・医療サービス等について学ぶ。
10	子育て支援サービスの展開	近年の子育て支援サービスの展開について学ぶ。
11	民間サービスの意義と現状	児童福祉に関する民間サービスの意義と役割及び現状について学ぶ。
12	困難を抱えた子どもと家庭への支援	生活する上でさまざまな困難や障害を抱えた子どもと家庭への支援、相談援助活動について学ぶ。
13	児童虐待の防止とケア	児童虐待に関連して、子どもと家庭に対する相談援助活動や子どもの権利について学ぶ。
14	子どもの福祉をめぐる動向と展望	子どもの福祉をめぐる動向と展望について考える。
15	子育て支援の実際	子育て支援の実際について学ぶ。

《専門教育科目》

科目名	手話				
担当者氏名	野地 智子、住吉 美穂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-25（技能）自分自身や他者の心理や行動について理解する視点を身につけている。 ◎ 2-26（技能）人の話を傾聴し、共感的に応答する技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 3-32（態度と志向性）人のことばに真摯に耳を傾け、人の気持ちを理解し、人に誠実に向き合う態度を身につけている。			

《授業の概要》

聴覚障害＝耳が聞こえないあるいは聞きにくい＝という事は一体どのような事で、どんな障壁があるのでしょうか。聴覚障害は視覚障害や肢体障害のように見てすぐ分かる障害ではないため、その障害（コミュニケーション障害・情報障害）の深刻さがなかなか理解されません。聴覚障害者（特にろうあ者）の言語＝手話を学ぶことでコミュニケーションについて考えてみたいと思う。

《授業の到達目標》

- ①手話を使って自己紹介ができる。
- ②手話で簡単な会話が出来る。
- ③耳のしくみや聴覚障害の原因を知り、聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解している。
- ④日本の手話の歴史及び特徴を理解している。
- ⑤聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解している。

《成績評価の方法》

1. 試験（50％）
2. 平常点≪レポート（30％） ・実習態度（20％）≫

《テキスト》

聞こえない人とのコミュニケーション（手話学習篇）/聞こえない人とのコミュニケーション（手話編） 広島県ろうあ連盟発行

《参考図書》

講義中に適宜紹介する

《授業時間外学修》

事前学修・手話ニュースやテレビの手話番組を見て、手話のスピードに慣れること。（30分）
 事後学修・「手話での会話を楽しむ」気持ちで授業に臨む。
 ・授業でお知らせする地域の手話サークルや、地域のろうあ協会の行事に積極的に参加して各自の手話力・対話力を高めること。（60分）

《備考》

16週目に試験を行う。（試験60分 解説30分）
 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	手話とは？（手話言語と音声言語との違い）	実習：伝えてみましょう 自分の名前の手話表現を覚えよう 手話のオリエンテーション
2	聞こえない人との接し方/テキスト手話編～	実習：自己紹介をしましょう 名前の表し方 指文字あ行～さ行 □ 表現の語源は・・・ 数字1～9 9
3	聞こえない人達とのコミュニケーション方法	実習：自己紹介をしましょう□ 挨拶の手話 指文字た行～は行□ 表情 数字100～10,000
4	聴覚障害者の生活（家族・子育て）	実習：自己紹介をしましょう 家族の紹介 指文字ま行～ん 指の代理的表現 数字・月日・時間の表現
5	メッセージを伝えるという事	実習：自己紹介をしましょう□ 趣味の表現 指文字 しりとり・国名 コミュニケーションしてみよう
6	聴覚障害者とは・・・（聞こえのしくみ）	実習：自己紹介をしましょう□ 仕事の表現 数字：金額の表現
7	聴覚障害者の生活（地域）	実習：自己紹介をしましょう□ 住所の表現 県名・市町村名
8	聴覚障害者の日常生活用具	実習：表現の工夫をしましょう□ 時の流れの表現 一日・一週間・一ヶ月
9	ろう者と手話の歴史	実習：表現の工夫をしましょう 時の流れの表現 一年間・四季の表現
10	ろう者と話そう Q&A	実習：手話で話そう□ 旅行の話进行をしましょう
11	手話の地域性・国際性	実習：手話で話そう 学校のことを話进行をしましょう
12	聴覚障害者の生活（病院・老後）	実習：手話で話そう 健康・病気のことを話进行をしましょう
13	手話を使ってフリートークキング	実習：トータルコミュニケーション 応用してみよう よく使う単語・反対語
14	手話通訳士の体験から	実習：トータルコミュニケーション 手話での会話練習 医療 自己紹介のまとめ
15	まとめ	実習：会話を楽しむ 話进行をしましょう 習った手話・覚えている手話を使って会

《専門教育科目》

科目名	ビジネス実務演習Ⅱ				
担当者氏名	村田 恵子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

「ビジネス実務総論」「ビジネス実務演習Ⅰ」に続く講座で応用編です。ビジネス実務に必要なスキルを演習によって自分のものとして身につける。習得した知識を応用し、社会で即戦力になりうるビジネスパーソンとしての総合力を深めます。サービス活動、表現活動、情報活用、組織活動がキーワードです。自信を持って社会に出れる自分磨きを日々の授業でしっかり意識して根付かせる

《授業の到達目標》

1. 社会で即戦力となる資質とスキルが身についている
2. ビジネス環境の変化やビジネス現場の現況が説明できる
3. ビジネス現場での対人対応や交際業務への対応ができる

《成績評価の方法》

1. 平常点（受講態度・発表）20%
2. 課題・小テスト20%
3. 学期末テスト60%

＜フィードバックの方法＞

小テストの解説、課題についての講評の時間を設けます

《テキスト》

全国大学実務教育協会編「ビジネス実務総論」紀伊国屋書店

《参考図書》

公益財団法人 実務技能検定協会編「ビジネス実務マナー検定受験ガイド」2級・1級 早稲田教育出版

《授業時間外学修》

「ビジネス実務マナー検定」の上級資格を目指し、ビジネスの場に通用する総合力を養います。

演習課題の自己管理をしっかりとすること。

【事前学修】演習課題を自宅学習する（60分）

【事後学修】「まとめノート」を作り復習する（30分）

《備考》

検定チャレンジは、ビジネスの現場をより深く学ぶ好材料です。内容も幅広いので、総合力が養えます。その都度のノート整理が応用力の定着に大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ビジネス実務活動	総合演習 (資質：行動力、判断力、表現力、柔軟性、誠実さなど)
2	ビジネス実務活動	総合演習 (企業知識：構造、業務分掌、職位、職制、企業の社会的責任など)
3	ビジネス実務活動	総合演習 (対人関係：ビジネスマナー、話し方、交際業務など)
4	ビジネス実務活動	総合演習 (技能：情報用語、ビジネス文書作成、会議業務、事務用品など)
5	ビジネス実務活動	総合演習 (記述：自分で記述できるよう、書く訓練)
6	ビジネス実務活動	総合演習 グループ発表
7	ビジネス実務活動	総合演習 グループ発表
8	ビジネス実務活動	総合演習 個人発表
9	ビジネス実務活動	総合演習 個人発表
10	7章 ビジネス実務の創造	これからのビジネス実務
11	7章 ビジネス実務の創造	自己啓発プラン作成
12	8章 ビジネス実務の事例研究	ケース1～ケース6 グループ演習
13	8章 ビジネス実務の事例研究	ケース1～ケース3 グループ発表
14	8章 ビジネス実務の事例研究	ケース4～ケース6 グループ発表
15	総括	まとめのプレゼンテーション

《専門教育科目》

科目名	ビジネス英語				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-17（知識と理解）人間関係や対人援助に関する基本的な知識を修得している。			

《授業の概要》

さまざまビジネスの場面で使う英語を1回1ユニットずつ勉強していく。「会社案内」「電話応対」や海外出張時の「ホテルのチェックイン」などの各場面の会話練習、リスニング、ライティングなどの演習をして、英語の4技能をバランスよく習得し、人間生活に関わる基本的な知識を修得していく。

《テキスト》

工藤多恵「First Steps to Office English」（セイゲージラーニング株式会社）

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- ①ビジネスで使う簡単な英会話ができる。
- ②ビジネスマナーが理解できる。

《授業時間外学修》

事前学修

1. テキストのわからない単語を調べる。（20分程度）
2. CDを聞いて、単語の発音を確認する。（15分程度）

事後学修

1. CDを聞きながら、会話や役に立つ表現を何度も練習する。（20分程度）

《成績評価の方法》

1. 課題 30%
2. 学修ノート 10%
3. 期末試験 60%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

事前学修で調べた単語はノートに書いておく。
授業中に重要だと思ったことはノートにまとめる。
ノートは期末試験終了後に提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス Unit 1 自己紹介	自己紹介の表現や初対面の際の簡単な受け答えの仕方を学ぶ。 この課で学んだ英語表現を使って、自己紹介の就職試験の面接のロールプレイを行う。
2	Unit 2 意味を聞く	ゆっくり言ってもらうように頼む表現や、わからない言葉の意味を尋ねたり、聞き直したりする方法を学ぶ。意味を尋ねるロールプレイを行う。
3	Unit 3 電話の会話①	電話の応対と取り次ぎの方法を学ぶ。 電話応対と取り次ぎのロールプレイを行う。
4	Unit 4 電話の会話②	前のユニットに続き、電話の応対方法と伝言の書き方を学ぶ。 電話応対と伝言を尋ねるロールプレイを行う。
5	Unit 5 病気の連絡	体調が優れないときや病欠の際に使う表現を学ぶ。 病欠を連絡するロールプレイを行う。
6	Unit 6 アポイントメント	予定を調整したり、変更したりする方法を学ぶ。 予定について話し合うロールプレイを行う。
7	Unit 7 訪問者の案内	訪問者を案内したり、飲み物などを提供したりする際の表現を学ぶ。 訪問者を案内してお茶を出すロールプレイを行う。
8	中間試験	Unit1～Unit8までの中間試験
9	Unit 8 招待する	食事や催し物などへの誘い方、また誘われたときの返答について学ぶ。 同僚を食事に誘うロールプレイを行う。
10	Unit 9 スモールトーク	英語特有のスモールトークを学び、会話を楽しむ。 休日についての過ごし方について同僚と話すロールプレイを行う。
11	Unit 10 場所	位置や場所を尋ねたり、説明したりする。 社内での場所を尋ねるロールプレイを行う。
12	Unit 11 道順	道順を尋ねたり、説明したりする。 取引先の場所の行き方を尋ねるロールプレイを行う。
13	Unit 12 オフィス機器の用法	オフィス機器などの使い方を説明する表現を学ぶ。 オフィスの機器の使用法を説明するロールプレイを行う。
14	Unit 13 ホテルのチェックイン	ホテルのチェックイン時の会話を練習する。 ホテルでチェックインをするロールプレイを行う。
15	Unit 14 ショッピング	出張先でのショッピング時の会話や、商品や値段についての質問の仕方を学ぶ。 ショッピングでのロールプレイを行う。

《専門教育科目》

科目名	ビジネスプレゼンテーションⅠ				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

実務に必要なさまざまな機能を学習し、就職後に役立つスキルを身につけます。エクセルは関数や集計を中心に学習します。ワードは長文作成をサポートする機能など、実務的な機能を中心に学習します。
表計算検定の上位級（準1級・1級）の解説や演習を実施しますので、ぜひ取得しましょう。

《テキスト》

オリジナルテキスト

《参考図書》

「よくわかる Microsoft Word 2016 & Microsoft Excel 2016 スキルアップ問題集 ビジネス実践編」FOM出版

《授業の到達目標》

1. エクセルの集計機能、関数について理解している。
2. ワードの応用操作を身につけている。
3. 実務に対応できる実践力を身につけている。

《授業時間外学修》

事前学修：テキストに目をとっておく（30分）
事後学修：復習用課題に取り組む（60分）
検定練習：検定問題に取り組む（60分）

《成績評価の方法》

平常点（授業態度・課題の提出状況と完成度）50%、実技テスト50%で評価する。いずれかが基準に達しない場合、単位は認定されない。
《フィードバック方法》課題ごとにコメントを返却する。期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

7月の検定試験受験希望者（主にエクセル準1級・1級）については、この授業内でサポートをします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	エクセル中級1	ガイダンス、1 関数
2	エクセル中級2	1 関数の続き 2 データベース機能
3	復習と検定対策	ここまでの復習と検定対策（準1級・1級）
4	復習と検定対策	ここまでの復習と検定対策（準1級・1級）
5	エクセル中級3	セル参照・3-D集計・統合
6	エクセル中級4	ピボットテーブル
7	エクセル中級5	書式と印刷
8	エクセル中級6	実務的な機能（範囲名・入力規則・シートの保護・ユーザー定義書式）
9	総合問題1	総合問題1（エクセル）ここまでのまとめ
10	ワード上級1	インデント
11	ワード上級2	タブとリーダー
12	ワード上級3	検索・置き換え、ヘッダーとフッターの詳細
13	ワード上級4	セクション区切りとページ設定・ヘッダーフッター
14	ワード上級5	アウトライン
15	総合問題2	総合問題2（ワード）

科目名	ビジネスプレゼンテーションⅡ				
担当者氏名	山本 克子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-19 (技能)情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。			

《授業の概要》

パワーポイントの操作を習得した上で、より視覚効果の高いスライドを作成するための手法を学習します。具体的には、文章の要点を箇条書きで示す方法、図を用いて視覚的に表現する方法、数値の傾向をグラフで示す方法を学習します。発表課題の作成を通して全体の構成方法や発表準備も学習します。プレゼンテーション検定試験（3級・2級・1級）に対応していますので、ぜひ取得しましょう。

《授業の到達目標》

1. パワーポイントの各機能を習得している。
2. わかりやすいスライドが作成できる。
3. プレゼン全体の流れ（構成）を考えられる。
4. 発表の準備ができる。
5. 発表ができる。

《成績評価の方法》

平常点（授業態度、提出課題）40%、実技テスト（中間・期末）40%、発表20%で評価する。いずれかの項目が基準に満たない場合、単位は認定されない。
《フィードバック方法》課題ごとにコメントを返却する。試験と発表後に講評を行う（試験60分・解説30分）

《テキスト》

オリジナルテキスト

《参考図書》

宮野公樹「研究発表のためのスライドデザイン わかりやすいスライド作りのルール」講談社
「プレゼンテーション検定試験 模擬問題集」日本情報処理検定協会

《授業時間外学修》

事前学修：テキストの目を通しておく（30分）、最終課題については事前に写真など素材を準備する。
事後学修：授業で学習した範囲について、もう一度同じ操作をして確認する（30分）、復習用課題に取り組む（30分）
検定練習：検定試験の問題に取り組む（30分）

《備考》

普段からテレビや新聞、雑誌などを見るときに、どんな内容がどのようなグラフや図を使って表現されているかを観察しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス 検定解説3級	授業内容の説明 検定解説（3級）
2	検定解説2級	検定解説（2級）
3	スライド作成の基礎 スライドのデザイン	スライドの作成（テキストの入力） テーマの設定、書式の設定
4	アニメーション設定、 ワードアート・図形	画面切り替え効果、アニメーション効果の設定 ワードアート、図形、画像の挿入
5	スライドマスター サウンドの挿入他	スライドマスターの設定方法 サウンドの挿入、自動プレゼンテーションの設定、配布資料の作成等
6	復習問題	ここまでの復習問題
7	中間テスト	中間テスト
8	検定解説1級	検定解説1級
9	プレゼン技法1（文の要約と表の活用）	文章を要約し、キーワードを適切に配置して、読み手にわかりやすいスライドを作成する方法を実習
10	プレゼン技法2（図解）	図形やスマートアートを利用して、図でわかりやすく表現する方法を実習
11	プレゼン技法3（数値の視覚化）	数値をグラフ化するときの工夫や応用的グラフの作成方法（パレート図、Zチャート、ヒストグラム、バブルチャートなど）を実習
12	プレゼン技法4（テーマ選定から発表まで）	テーマの選定、概要の作成、資料の収集、発表時の注意点 最終課題のテーマを選定し概要書作成
13	最終課題作成1	スライドの作成
14	最終課題作成2	発表用資料の作成
15	発表	最終課題の発表と相互評価・自己分析

《専門教育科目》

科目名	電子会計実務基礎				
担当者氏名	吉田 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎を学びます。

《授業の到達目標》

- ①電子会計実務検定試験3級を受けるための最低限持っているべき基本的な電子会計の知識と技術を身につけている。
- ②コンピューター会計能力検定試験3級を受けるための知識と技術を身につけている。
- ③弥生検定中級を受けるための知識と技術を身につけている。

《成績評価の方法》

- ①期末試験（60％）
 - ②平常点（受講態度、質問、小テスト、宿題を含む）（40％）
- 《課題へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本テキスト」（実教出版）

《参考図書》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 初級テキスト・問題集」（実教出版）
弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本問題集」（実教出版）

《授業時間外学修》

事前学修（10分）：事前にテキストに目を通しておくこと。
事後学修（60分）：テキストを参考にしながら、授業中に解けなかった問題を復習すること。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	電子会計について
2	企業活動と会計処理(1)	企業の経営活動と利益の計算
3	企業活動と会計処理(2)	会計処理の基本
4	会計ソフトの操作(1)	コンピューターの関連知識、会計ソフトのインストール
5	会計ソフトの操作(2)	会計データの入力
6	会計ソフトの操作(3)	振替伝票による入力練習
7	企業の業務と会計処理(1)	現金預金についての会計処理
8	企業の業務と会計処理(2)	仕入についての会計処理、売上についての会計処理
9	企業の業務と会計処理(3)	経費についての会計処理
10	企業の業務と会計処理(4)	その他の債権・債務についての会計処理
11	企業の業務と会計処理(5)	給与についての会計処理、企業が関係する税金
12	企業の業務と会計処理(6)	証ひょうにもとづく起票とデータ入力
13	会計データの入力処理と集計	証ひょうによるデータ入力、残高のチェック
14	会計情報の活用(1)	会計データの集計と活用
15	会計情報の活用(2)	月次決算の会計処理

《専門教育科目》

科目名	電子会計実務応用				
担当者氏名	吉田 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

企業では、伝票処理や財務諸表の作成といった会計実務には、会計ソフトが使われています。このような会計ソフトを利用した会計実務を「電子会計」と呼びます。企業の経理処理で最も利用されている弥生会計のソフトを使い、電子会計の基礎から応用を学びます。

《授業の到達目標》

- ①電子会計実務検定試験 2 級を受けるための最低限持っているべき基本的な電子会計の知識と技術を身につけている。
- ②コンピューター会計能力検定試験 2 級を受けるための知識と技術を身につけている。
- ③弥生検定上級を受けるための知識と技術を身につけている。

《成績評価の方法》

- ①期末試験（60％）
 - ②平常点（受講態度、質問、小テスト、宿題を含む）（40％）
- 《課題へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。試験60分・解説30分

《テキスト》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本テキスト」（実務出版）、弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 応用 テキスト」（実務出版）

《参考図書》

弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 基本問題集」（実務出版）
弥生株式会社著「平成31年度版 コンピューター会計 応用問題集」（実務出版）

《授業時間外学修》

事前学修（10分）：事前にテキストに目を通しておくこと。
事後学修（60分）：テキストを参考にしながら、授業中に解けなかった問題を復習すること。

《備考》

実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス	電子会計について
2	個別論点	手形取引、固定資産・その他の取引
3	決算の手続き	年次決算について
4	会計データの新規作成（導入処理）(1)	企業の基本情報の設定
5	会計データの新規作成（導入処理）(2)	決算の手続き
6	会計データの新規作成（導入処理）(3)	繰越処理と部門の設定
7	製造業における原価情報(1)	原価計算の手続きと原価計算の種類
8	製造業における原価情報(2)	製造原価報告書の作成と製造業の月次決算
9	製造業における原価情報(3)	製造部門を有する企業の会計処理
10	予算管理と経営分析指標(1)	経営分析
11	予算管理と経営分析指標(2)	経営分析
12	収益構造分析と短期利益計画(1)	損益分岐点分析
13	収益構造分析と短期利益計画(2)	短期利益計画
14	資金の管理	資金繰り表の作成
15	電子会計のまとめ	全体の総復習

《専門教育科目》

科目名	ライフヒストリー				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。			

《授業の概要》

ライフヒストリーは、本来、人類学や社会学における研究方法の一つであるが、本授業では、研究的意味を意識しないで、「調べて」「考えて」「書く」ための技術を、＜自分史＞を書き上げるという作業をととして、修得することを目的とする。＜自分史＞というと、高齢の人が書くものというイメージが強いが、若い人にとっても、過去の自分を見つめ直して、新たな＜自分＞を発見するには、有効な作業となるはずである。

《授業の到達目標》

- ①「調べて」「考えて」「書く」ための技術を習得している。
- ②一定以上の分量（400字詰め原稿用紙10枚以上）の＜自分史＞を書くことができる。

《成績評価の方法》

1. 提出物（90％ ＜自分史＞）
2. 平常点（10％ 授業態度）

《提出物のフィードバック方法》

提出物（自分史）についての講評の時間を設ける。

《テキスト》

プリントを使用する。

《参考図書》

野口悠紀雄「超」自分史ガイド（ダイヤモンド社）
立花隆「自分史の書き方」（講談社）

《授業時間外学修》

事前学修：＜自分史カード＞作成、＜自分史＞作成のために調査、インタビュー、文献調査等を行う。（60分）
事後学修：教員のチェックを受けた＜自分史カード＞、＜自分史＞の修正を行う。（30分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	授業案内
2	＜自分史＞作成の基本	記憶を掘り起こす① キーワードを手がかりに
3	＜自分史＞作成の基本	記憶を掘り起こす② 社会的事件・流行現象を手がかりに
4	＜自分史＞作成の基本	記憶を掘り起こす③ 地図をてがかりに
5	＜自分史＞の実例	＜自分史＞の実例を読む
6	書くための調査・作業	①チェックリストの作成（書けること／書けないこと）
7	書くための調査・作業	②誕生・幼少時代（インタビューの方法）
8	書くための調査・作業	③小学校・中学校時代（カードを作る）
9	書くための調査・作業	④高校時代・短大に入って（カードを作る）
10	書くための調査・作業	⑤＜自分史＞年表の作成
11	＜自分史＞を書く	①組み立て・スタイルの選定
12	＜自分史＞を書く	②誕生・幼少時代
13	＜自分史＞を書く	③小学校・中学校時代・高校時代
14	＜自分史＞を書く	④現在・将来
15	まとめ	＜自分史＞作成を振り返る

《専門教育科目》

科目名	文化とコミュニケーション				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。			

《授業の概要》

グローバル化の時代と言われて久しい。しかし、現実の世界には、民俗間、宗教間、国家間の対立・格差などがあり、私たちは、決して、共通の文化的土壌の中で生きているわけではないのである。

この授業では、なるべく身近な「文化」の問題を通して、異質な文化を持った者の間で、どのようなコミュニケーションが可能かということを考えてみたい。

《授業の到達目標》

- ①さまざまな文化のあり方を知り、文化の違いについて理解している。
- ②現代社会の問題について、自分なりの見方を持つことができる。

《成績評価の方法》

1. レポート（60％）
2. 平常点（40％ 発問への応答 提出物）

《レポートのフィードバック方法》

レポートについての講評の時間を設ける。

《テキスト》

プリント、視聴覚資料などを使用する。

《参考図書》

橘木俊昭「格差社会 何が問題なのか」（岩波新書）など
その他は、授業をとおして、適宜、紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：与えられたテーマに関して、インターネット等で調べる。（20分程度）

事後学修：授業の内容に関わる問題を、新聞、ニュース、インターネットなどで確認する。（20分程度）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	授業案内
2	男の文化／女の文化	マスメディアとジェンダー① 週刊誌
3	男の文化／女の文化	マスメディアとジェンダー① 子ども番組
4	男の文化／女の文化	マスメディアとジェンダー① TV番組
5	子どもの文化①	アニメ映画をとおして①
6	子どもの文化②	アニメ映画をとおして②
7	子どもの文化③	昔ばなしと子ども② 絵本とアニメ
8	子どもの文化④	昔ばなしと子ども③ 文化の継承
9	現代社会を考える①	映画をとおして① 現代社会の問題
10	現代社会を考える②	映画をとおして② ネット社会の恐怖
11	現代社会を考える③	TVドラマから 格差社会
12	現代社会を考える⑤	映画をとおして③ スクールカースト
13	現代社会を考える⑥	映画をとおして④ 人間関係を考える。
14	文化の衝突と融合	食文化の視点から
15	まとめ	自文化中心主義と文化相対主義

《専門教育科目》

科目名	インターンシップ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ○ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

夏季休業中にインターンシップ受け入れ企業・役所・施設等において実習を行なうが、事前及び事後研修がある。事前研修では職業人としてのマナーを学び、事後研修では、実習終了後に作成した報告書をもとに、体験報告を行なう。実際の職場を体験し、職業観や職業意識を磨き、ビジネス業務や事務処理に関する基本的な知識を修得する。

《テキスト》

『インターンシップの手引き』を配付する。

《参考図書》

必要に応じて、適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- ①自分なりの職業観を持ち、高い職業意識を持つことができる。
②社会人としての心構えを持つことができる。 ③実習先の現場の仕事を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：
・実習先（企業・役所・施設など）について、事前に綿密に調査する。（30分）
・日々の社会的出来事に関心を抱き、新聞を読んだり、テレビニュースを見る。（30分）
事後学修：配付された資料などを読み返す。（20分）

《成績評価の方法》

1. 事前研修での授業態度（20%）
2. 実習先の評価（60%）
3. 体験報告（20%）
《体験報告のフィードバックの方法》
インターンシップ報告会で学科教員が講評する。

《備考》

学外施設の実務家（職員）による指導を受ける

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	事前研修	①ガイダンス、インターンシップとは何か
2	事前研修	②実習先の企業・業界研究
3	事前研修	③実習先の企業・業界研究
4	事前研修	④実習日誌の書き方
5	事前研修	⑤受け入れ先とのマッチング相談
6	事前研修	⑥受け入れ実習先の訪問
7	事前研修	⑦ビジネスマナーの研修
8	実習	実習責任者によるガイダンス（夏季休業中に5日～10日間で実施） 実習、「インターンシップ実習日誌」記載
9	実習	実習責任者によるガイダンス 実習、「インターンシップ実習日誌」記載
10	実習	実習、「インターンシップ実習日誌」記載
11	実習	実習、「インターンシップ実習日誌」記載
12	実習	実習、「インターンシップ実習日誌」記載 実習責任者による「インターンシップ実習日誌」のチェック
13	実習後	礼状の書き方
14	事後報告	体験報告（「インターンシップ実習日誌」）の提出
15	事後報告	インターンシップ報告会での発表

《職業に関する科目》

科目名	介護報酬請求事務演習				
担当者氏名	浜咲 こずえ				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ○ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

介護保険制度を復習して、ケアクラーク技能認定試験問題を時間を計って試験形式で実施する。ケアクラークの資格取得を目指す。

《テキスト》

「介護事務講座テキスト1…介護保険請求実務」「テキスト2…社会福祉と人間関係」「別冊…介護保険請求実務 ケアクラーク認定試験問題集」ニチイ学館

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①ケアクラーク技能認定試験の学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）実技（居宅サービス費・施設サービス費の明細書記載）を理解している。
 - ②技能認定試験問題を時間内に正確にできる。
- 学科（25問）→50分 実技（明細書作成2問）→60分

《授業時間外学修》

事前学修：問題集の実技問題を確認しておくこと（5分程度）
事後学修：①毎回行う確認テストを復習する（10分程度）
②授業中に実施した問題集の誤った個所を復習する（30分程度）

《成績評価の方法》

- ①平常点（授業態度 確認テスト レポート 提出物）80%
 - ②試験 20%
- 《課題・試験のフィードバックの方法》
レポートについて講評の時間を設ける
試験後に解説を行う（試験110分・解説60分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	介護保険制度の復習	介護保険制度の復習
2	ケアクラーク技能認定試験問題集A	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
3	ケアクラーク技能認定試験問題集A	学科問題の解説 介護保険請求実務（別冊）…サービスコード表の見方
4	ケアクラーク技能認定試験問題集A	居宅サービス（訪問介護 通所介護）施設サービス（療養病床を有する病院）の介護給付費明細書の作成 特定事業所加算、他科受診について
5	ケアクラーク技能認定試験問題集B	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
6	ケアクラーク技能認定試験問題集B	居宅サービス（訪問看護 通所リハ 居宅療養管理指導）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成
7	ケアクラーク技能認定試験問題集B	居宅療養管理指導、外泊、緊急時治療管理について
8	ケアクラーク技能認定試験問題集C	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
9	ケアクラーク技能認定試験問題集C	居宅サービス（訪問看護 通所リハ）施設サービス（療養病床を有する病院）の介護給付費明細書の作成 特定診療費について
10	ケアクラーク技能認定試験問題集D	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施
11	ケアクラーク技能認定試験問題集D	居宅サービス（訪問介護 訪問入浴介護）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成 介護職員処遇改善加算について
12	模擬試験問題1	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施 居宅サービス（訪問介護 訪問入浴介護）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成
13	模擬試験問題2	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施 居宅サービス（訪問看護 通所リハ）施設サービス（療養病床を有する病院）の介護給付費明細書の作成
14	模擬試験問題2	学科（介護保険制度・福祉制度・介護給付費）…25問実施 居宅サービス（訪問介護 訪問入浴介護）施設サービス（介護保健施設サービス）の介護給付費明細書の作成
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目》

科目名	情報管理特論Ⅰ				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

担当業務の問題を把握し、解決を提案できるには体系的な考え方や論理的な思考力と問題分析と解決手法の知識が重要である。この科目は特論Ⅱとセットにして基本的な研究スタイルやプロセスを体験できる。実際の問題を発見し、解決方法の提案や問題の表現方法、そして人の前でプレゼンできる能力などを養う。Ⅰでは、研究の基本的な考え方、基本ツールの使い方、情報処理活用などを学習する。

《授業の到達目標》

1. 情報処理対象として基本的なデータ型を理解している。
2. 研究の基本プロセスが理解している。

《成績評価の方法》

1. 受講態度 20%,
 2. 課題提出 20%,
 3. 期末課題 60%。
- 《学生へのフィードバック方法》
課題提出後に検討会を行う。

《テキスト》

プリントやデジタル教材の配布。

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：インターネットを利用した情報収集。（課題ごとに30分程度）
事後学修：最終課題の調査、情報加工を十分に時間をかけて行う。

《備考》

この科目は情報管理特論Ⅱとセットにして履修すること。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	講義ガイダンス	特論ⅠとⅡの関係
2	前期共通の学習内容（1）	研究活動の基本
3	前期共通の学習内容（2）	情報処理活用できるツールについて
4	EXCELでデータ処理（1）	データ型の理解、グラフの種類と表現
5	EXCELでデータ処理（2）	EXCELでアンケート処理の基本（1）データの纏め方
6	EXCELでデータ処理（3）	EXCELでアンケート処理の基本（2）基本統計処理
7	EXCELでデータ処理（4）	EXCELでアンケート処理の基本（3）、様々なグラフ作成
8	プレゼン資料作成（1）	PowerPointの活用について
9	プレゼン資料作成（2）	情報の表現（1）図解表現の基本手法
10	プレゼン資料作成（3）	情報の表現（2）デザインとビジュアル表現
11	研究の基本を理解する（1）	研究論文を読む（1）
12	研究の基本を理解する（2）	研究論文を読む（2）
13	研究の基本を理解する（3）	研究論文を説明する（プレゼン）
14	研究テーマを決める	後期取り組み研究課題
15	まとめ	課題の要件など

《専門教育科目》

科目名	情報管理特論Ⅱ				
担当者氏名	章 志華				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

本授業は前期の情報管理特論Ⅰの後継科目です。特論Ⅰで学んだ成果をもとに、各自の研究テーマを決定し、関連文献や資料の調査、テーマに沿って課題研究を進めていきます。得られた結果をまとめ、レジメや発表資料を作成し、最終的に特論発表会の場でプレゼンテーションを行います。一連の取り組みを経て、問題解決の方法やプレゼンテーションの基本を含む情報処理研究のプロセスを体験的に学ぶ。

《授業の到達目標》

1. テーマと関連する領域の文献資料を読み、内容を理解し、他者に説明することができる。
2. 自分の調べたいテーマを明確に決定し、仲間と協働して進めることができる。研究結果をわかりやすく表現できる。

《成績評価の方法》

1. 取組態度 20%,
 2. 中間発表 30%,
 3. 特論発表 50%。
- 《学生へのフィードバック方法》
レジメ提出後に検討会を行う。

《テキスト》

適宜にプリント資料を配布する。

《参考図書》

講義中に紹介する。

《授業時間外学修》

事前学修：インターネットを利用した情報収集。（課題ごとに30分程度）
事後学修：最終課題の調査、情報加工を十分に時間をかけて行う。

《備考》

基本的に自らが主導して進めるが、いつでも相談できる。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	テーマ決め	テーマは個人かグループ（3人まで）単位で決めること。
2	テーマ確認と調整	指導教員と相談して決めること。
3	研究進め方	一般的な研究姿勢や進め方について紹介する。
4	データ処理について	調査行う際の求める質問事項やデータ型の理解する。
5	研究テーマの明確化	取り組むテーマの背景、問題点、狙いなどを明確にすること。
6	調査や課題の計画	調査なら、質問事項の設計、課題なら進め方などをしっかりと計画する。
7	研究の進行（1）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
8	研究の進行（2）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
9	研究の進行（3）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
10	研究の進行（4）	研究テーマの計画に沿って自ら主体的に段階的に進める。
11	研究のまとめ（1）	進行段階で得たデータをしっかりと分析し、整理すること。
12	研究のまとめ（2）	得られたデータの解析やグラフ化を行い、考察を行う。
13	研究のまとめ（3）	研究まとめとして、プレゼンの流を掴み、発表原稿を試作する。
14	研究のまとめ（4）	前段階を踏まえ、研究のレジメをしっかりとまとめること。
15	研究発表	最終発表のプレゼンテーションを作成し、本発表のリハーサルを行う。

科目名	人間心理特論Ⅰ				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

本授業では、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。また、文献を検索して読解すること、実験や調査を実施すること、データを分析すること、レポートを執筆して説明することなどを体験的に学習する。そして、各自が自分が深く知りたい、調べたいテーマを考え、後期からの人間心理特論Ⅱに向けて準備をしていく。

《授業の到達目標》

- ①自分の調べたいテーマを明確にして、他者に伝えることができる。
- ②自分の関心ある領域について専門書を読み、内容を理解し、説明できる。

《成績評価の方法》

- 1. レポート（50％）
- 2. 平常点（授業態度20％、課題30％）

《課題へのフィードバックの方法》

提出物ならびにレポートについて授業時間内にコメント、指導を行う。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」（東京大学出版会）

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通しておくこと（20分程度）。
事後学修：授業で受けたコメント等を参考にして、自分の考えを推敲し、展開させること（20分程度）。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する。授業の中で適宜ディスカッションを行う。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	特論の進め方について説明する。
2	心理学の研究法	心理学の一般的な研究法について学修する。
3	テーマの設定	自分の調べたいこと、知りたいことを挙げ、それを知るために必要な研究の目的、方法、仮説等考える。
4	文献検索	図書館やインターネットを介した文献検索の仕方を学ぶ。
5	心理学文献の読み方	一般的な心理学の研究論文の構成を知り、論文の効率的かつ正確な読み方を学ぶ。
6	研究の進め方	心理学に関する実際の研究の進め方について学ぶ。
7	質問紙による研究（1）	先行研究を参照し、さまざまな質問紙について調べる。
8	質問紙による研究（2）	質問紙調査を進めていく上でのプロセスや留意点について学ぶ。
9	観察・面接による研究	観察や面接による研究の進め方や留意点について学ぶ
10	文献研究	文献研究の進め方や留意点について学ぶ。
11	実験による研究	心理学実験を行う上での注意点、要因計画等について学ぶ。
12	データの分析	調査・実験等によって得られたデータの整理・記述・分析の仕方について学ぶ。
13	心理学レポートの書き方	一般的な心理学レポートの書式と書き方を学ぶ。
14	心理学研究の倫理	心理学に関する研究を行う上で銘記すべき研究倫理について学ぶ。
15	心理学研究に向けて	特論を進めていく上で、各自の研究テーマや方法を具体的に検討する。

《専門教育科目》

科目名	人間心理特論Ⅱ				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

本授業では、前期の「人間心理特論Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるにあたって必要な基礎知識や手続きを学ぶ。本授業では各自研究テーマを具体的に決定し、先行研究を調べ、実際に調査し、得られた結果について考察し、発表資料を作成し、最終的に特論発表会場でプレゼンテーションを行うまでの、心理学研究のプロセスを体験的に学習する。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリント等を配布する。

《参考図書》

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）「心理学研究法入門 調査・実験から実践まで」（東京大学出版会）

《授業の到達目標》

- ①研究上の諸注意を守り、実際に調査ができる。
- ②得られた結果を論理的に考察し、わかりやすくプレゼンテーションできる。

《授業時間外学修》

事前学修：積極的に文献検索し、関心を惹く資料に目を通しておくこと（20分程度）。
事後学修：授業で受けたコメント等を参考にして、自分の考えを推敲し、展開させること（20分程度）。

《成績評価の方法》

- 1. 平常点（授業態度20%、課題30%）
- 2. 発表（50%）

《フィードバックの方法》

研究指導を行う中で、随時フィードバックを行う。

《備考》

授業の具体的な内容、進度は授業計画に沿いながら、適宜調整する
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	課題の発表（1）	夏休みに調べてきた課題について発表し、ディスカッションする。
2	課題の発表（2）	夏休みに調べてきた課題について発表し、ディスカッションする。
3	調査・研究にあたっての諸注意（1）	実際に調査・研究を行う上での留意点を学ぶ。
4	調査・研究にあたっての諸注意（2）	実際に調査・研究を行う上での留意点を学ぶ。
5	研究グループの決定	各自の関心のある領域をもとに、研究の小グループを決める。
6	研究テーマの具体化（1）	実際の研究テーマについて、目的、方法、結果の予測、仮説等具体的に考えていく。
7	研究テーマの具体化（2）	実際の研究テーマについて、目的、方法、結果の予測、仮説等具体的に考えていく。
8	質問紙の作成（1）	必要に応じて先行研究も参照しながら、自分の調べたいことについて質問紙を作成し、吟味する。
9	質問紙の作成（2）	必要に応じて先行研究も参照しながら、自分の調べたいことについて質問紙を作成し、吟味する。
10	データの収集	実際に調査を行い、データを収集し、整理する。
11	分析と解釈（1）	得られたデータを分析し、考察する。
12	分析と解釈（2）	得られたデータを分析し、考察する。
13	研究抄録の作成（1）	研究を抄録にまとめる。
14	研究抄録の作成（2）	研究を抄録にまとめる。
15	プレゼンテーション	発表用資料を作成し、プレゼンテーションの練習を行う。

《専門教育科目》

科目名	映像文化特論Ⅰ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必修	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

ジブリやディズニーのアニメはテレビやDVDで観ることができ、よく知っているつもりになっているが、実は多くの大切なことを見落としていることを、授業で研究書や論文を読んで発見していく。こうした作業を通して、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける。映画を深く観ることや映画批評を学び、後期の研究と発表につなげていく。

《授業の到達目標》

- ①自分で問題を発見し解決していく能力を身に付ける。
- ②アニメ映画を通して、社会や文化に対する洞察力をつける。

《テキスト》

プリント配付

《参考図書》

ジブリの教科書3「となりのトトロ」（文春文庫）、ジブリの教科書5「魔女の宅急便」（文春文庫）、ジブリの教科書12「千と千尋の神隠し」（文春文庫）、本橋哲也「ディズニープリンセスのゆくえ」（ナカニシヤ出版）、荻上チキ「ディズニープリンセスと幸せの法則」（星海社新書）

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：各回の授業テーマとなっているアニメや映画作品についての解説や批評をインターネットなどで調べる。
事後学修（30分）：授業で習ったことをまとめる。

《成績評価の方法》

- 1. 取り上げた作品についての感想 40%
 - 2. アクティブラーニング（ループリックで評価します）10%
 - 3. 期末レポート 50%
- 《課題へのフィードバックの方法》
レポートについて講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	1年間の授業の流れ 研究論文の書き方、上手なパワーポイントの作り方とプレゼンの仕方について
2	ディズニー・アニメについて①	ウォルト・ディズニーの人物像と世界観、ディズニー・プリンセスの歴史
3	ディズニー・アニメについて②	ディズニーのプリンセスについての論文解説
4	ディズニー・アニメについて③	ミッキー・マウスについての研究書の解説
5	ディズニー・アニメについて④	好きなディズニー・アニメを鑑賞しながら、ディズニーの世界観や理想とする人間像について考える。
6	ディズニー・アニメについて⑤	好きなディズニー・アニメを鑑賞しながら、ディズニーの世界観や理想とする人間像について考える。
7	ジブリ・アニメについて①	ジブリ・アニメの歴史
8	ジブリ・アニメについて②	『千と千尋の神隠し』についての論文解説
9	ジブリ・アニメについて③	『千と千尋の神隠し』鑑賞
10	ジブリ・アニメについて④	『千と千尋の神隠し』鑑賞
11	ジブリ・アニメについて⑤	好きなジブリ・アニメを鑑賞しながら、ジブリの世界観や理想とする人間像について、ディズニー・アニメと比較しながら考える。
12	世界のアニメについて	ディズニー・アニメ以外の外国のアニメ映画について考える。
13	日本のアニメについて	ジブリ映画以外の日本のアニメ映画について考える。
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目》

科目名	映像文化特論Ⅱ				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

2年前期の「特論Ⅰ」で学んだ成果をもとに、それを一層発展させ、獲得した学修成果を活用して社会で求められるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。グループ、あるいは個人でテーマを決定し、データの収集、資料の調査、データ分析をもとに考察し、最終的に、特論発表会でグループ、あるいは個人による口頭発表を行う。

《授業の到達目標》

- ①テーマに関して、グループ、あるいは個人で調査・考察を進めることができる。
- ②プレゼンテーション資料を作成し、説得的な口頭発表ができる。

《成績評価の方法》

1. 取り組みへの参加（20%）
2. 取り組みへの態度・意欲（30%）
3. 口頭発表（50%）

《フィードバックの方法》

口頭発表について講評の時間を設ける。

《テキスト》

プリント配付

《参考図書》

小野俊太郎「映画でレポート・卒論ライティング術」（松柏社）
白井利明他「よくわかる卒論の書き方」（ミネルヴァ書房）

《授業時間外学修》

事前学修（30分）：自分で設定したテーマに対する多くの関連した資料を読み、メモをとる。
事後学修（30分）：授業で指摘されたことをもとにレジュメを作成する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	ガイダンス
2	テーマの決定	グループ、あるいは個人でテーマを決定する。
3	資料収集①	決定したテーマに従って資料を収集する。①
4	資料収集②	決定したテーマに従って資料を収集する。②
5	資料収集③	決定したテーマに従って資料を収集する。③
6	考察①	資料をもとにテーマに関して考察する。①
7	考察②	資料をもとにテーマに関して考察する。②
8	レジュメ作成①	考察したことをレジュメにまとめる。①
9	レジュメ作成②	考察したことをレジュメにまとめる。②
10	レジュメ作成③	考察したことをレジュメにまとめる。③
11	パワーポイントの作成①	レジュメに従ってパワーポイントを作成する。①
12	パワーポイントの作成②	レジュメに従ってパワーポイントを作成する。②
13	パワーポイントの作成③	レジュメに従ってパワーポイントを作成する。③
14	口頭発表練習	発表会での口頭発表の練習を行う。
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目》

科目名	生活文化特論Ⅰ				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

「生活文化」とは、広い意味では、人々の日々の営みそのもののことである。本講義では、大衆文化（映画、漫画、歌、演芸など）を素材にして、戦後日本の生活文化の変遷や過去と現在の生活文化の違いなどについて考えてみたい。

あわせて、生活文化を調査・分析する方法について考え、特論Ⅱへのステップとしたい。

《テキスト》

プリント・映像資料・録音資料を使用する。

《参考図書》

寺出浩司「生活文化論への招待」（弘文堂）
今和次郎「考現学入門」（ちくま文庫）

《授業の到達目標》

- ①生活文化における「大衆文化」の意味について理解している。
- ②生活文化を研究する方法として、「内容分析」「考現学」の手法を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修：与えられたテーマに関して、インターネット等で調べる。（20分程度）
事後学修：授業の提出物（レポート以外）に関わるテーマを、インターネット等で確認する。（20分程度）

《成績評価の方法》

1. レポート（70％）
 2. 平常点（30％ 提出物）
- 《レポートのフィードバック方法》
レポートについての講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	はじめに	授業案内
2	漫画から見る生活文化	「ドラえもん」の内容分析①
3	漫画から見る生活文化	「ドラえもん」の内容分析②
4	漫画から見る生活文化	「ドラえもん」の考察
5	映画から見る生活文化	家族像の変容①
6	映画から見る生活文化	家族像の変容②
7	流行歌から見る生活文化	流行歌の内容分析①
8	流行歌から見る生活文化	流行歌の内容分析②
9	流行歌から見る生活文化	流行歌の考察
10	学生ファッションの考現学	山陽女子短期大学生の通学ファッションの考現学
11	学生ファッションの考現学	山陽女子短期大学生の通学ファッションの考察
12	生活文化論の視点	①内容分析
13	生活文化論の視点	②考現学
14	生活文化特論Ⅱに向けて	テーマの設定
15	まとめ	生活文化をどうとらえるか

科目名	生活文化特論Ⅱ				
担当者氏名	丸川 浩				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

2年前期の特論Ⅰで学んだ成果をもとに、それを一層進展させることを目的とする。

グループ（あるいは個人）でテーマを決定し、当教員の指導を受けながら、データの収集、資料の調査、フィールドワーク、データの分析などを行ない、最終的に、特論発表会で、グループ（あるいは個人）による口頭発表を行なう。

《テキスト》

テーマによってテキストを使用する場合がある。

《参考図書》

テーマごとに、必要に応じて、紹介する。

《授業の到達目標》

- ①テーマに関して、グループ（あるいは個人）で調査・考察を進めることができる。
②プレゼンテーション資料を作成し、説得的な口頭発表ができる。

《授業時間外学修》

事前学修：テーマに関する調査・考察を、文献、インターネット、フィールドワーク等とおして行う。（30分程度）
事後学修：教員にチェックを受けた調査結果を修正する。（20分程度）

《成績評価の方法》

1. 調査・考察の中間発表・アクティブラーニング
ループリックで評価する。（30％）
2. 特論発表会・プレゼンテーション（70％）
《発表のフィードバック方法》
特論発表会で、プレゼンテーションへの講評の時間を設ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	テーマの決定	担当教員の指導を受けながら、テーマを決める。
2	データの収集	データ収集の方法①
3	データの収集	データ収集の方法②
4	データの集計	データ集計の方法
5	追加データの収集	補足データの処理の方法
6	データ分析	データ分析の方法
7	データ分析	データの分析結果の報告
8	考察	考察の視点・方法
9	考察	考察結果の報告・アクティブラーニング
10	まとめ	データ分析・考察のまとめ
11	特論発表会事前指導	特論発表会レジュメの作成
12	特論発表会事前指導	プレゼンテーション資料の作成
13	特論発表会事前指導	発表原稿の作成
14	特論発表会事前指導	プレゼンテーション・リハーサル
15	特論発表会	プレゼンテーション

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理特論Ⅰ				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

地域診療、医療体制、診療情報管理に関するテーマを選択し発表する。2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式を取り入れる。

テーマ：病院機能と診療情報管理士の役割、診療情報の活用、診療記録の充実、患者への情報提供などについて学修する。診療情報管理実務、地域連携業務分析実務、がん登録統計実務、経営分析実務などの実務経験を活かした授業である。

《授業の到達目標》

- ①学生が医療、介護、地域連携、経営管理など、横断的視点で効率よく情報収集ができ、説明できる。
- ②学生が医療制度、社会問題や医療界の問題に関心を持ち、説明できる。

《成績評価の方法》

期末試験（60％）

平常点（20％）アクティブラーニング（20％）

《学生へのフィードバックの方法》

期末試験後に解説を行う。（プレゼンテーション60分・解説30分）

《テキスト》

必要に応じて、文献、プリントを配布する

《参考図書》

授業中に適宜紹介する

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載したテキストの語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
事後学修：教科書を参考に、理解に繋げる。マスメディア、書籍などから情報を収集する

《備考》

日々の社会出来事や医療関係の記事、番組に関心を抱き、積極的に情報収集する必要がある。PCの基本的な使い方を学修すること。実務家教員としての授業です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	研究についての説明
2	研究の基礎（1）	情報の収集・文献の収集
3	研究の基礎（1）	データ処理と研究倫理について
4	研究の基礎（1）	研究文献、論文読解
5	研究の基礎（1）	研究文献、論文読解
6	研究の基礎（1）	研究文献、論文読解
7	四半期まとめ	研究の進め方、テーマ設定 テーマ設定に関するプレゼンテーション・ディスカッション
8	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
9	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
10	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
11	情報収集（1）	情報の収集・文献の収集
12	上半期まとめ	情報の収集・文献の収集のまとめ テーマに関する情報の収集に関するプレゼンテーション・ディスカッション
13	課題抽出	特論Ⅱの課題設定
14	課題設定	特論Ⅱの課題設定
15	まとめ	前期のまとめ 特論Ⅱへの計画、抱負に関するプレゼンテーション・ディスカッション

《専門教育科目》

科目名	診療情報管理特論Ⅱ				
担当者氏名	梅本 礼子				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ○ 2-19（技能）情報処理に関する基本的な技能を身につけている。 ○ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-35（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

研究のテーマを決定し、収集した情報を整理する。
特論発表会のために、抄録およびスライドを完成する。
診療情報管理実務、地域連携業務分析実務、がん登録統計実務、経営分析実務などの実務経験を活かした授業である。

《テキスト》

適宜文献・資料を提供する

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

- ①前期課題に沿って収集した情報を抄録として論文作成できる。
- ②抄録からスライド作成し、発表できるプレゼン能力を身につけている。

《授業時間外学修》

事前学修：必ず事前に授業計画に記載した語句・項目の意味を調べ、ファイル入力、ノートなどに書いてくる。
事後学修：教科書を参考に、テーマ理解に繋げる。グループまたは個人で、抄録・スライドを完成させる。（適宜）

《成績評価の方法》

抄録（30％）
スライド（30％）
発表（40％）
《学生へのフィードバックの方法》
期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

PCの基本的な使い方を学修すること。日々の社会的、医療記事に関心を抱くこと。他者のプレゼンテーション、資料に関心を抱くこと。実務家教員としての授業である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特論Ⅱ－1	情報の収集・文献の収集
2	特論Ⅱ－2	情報の収集・文献の収集
3	特論Ⅱ－3	抄録・スライド作成
4	特論Ⅱ－4	抄録・スライド作成
5	特論Ⅱ－5	抄録・スライド作成
6	特論Ⅱ－6	抄録・スライド作成
7	特論Ⅱ－7	抄録・スライド作成
8	特論Ⅱ－8	抄録・スライド作成
9	特論Ⅱ－9	抄録・スライド作成
10	特論Ⅱ－10	抄録・スライド作成
11	特論Ⅱ－11	抄録・スライド作成
12	特論Ⅱ－12	抄録・スライド仕上げ
13	特論Ⅱ－13	抄録・スライド仕上げ 最終段階プレゼンテーション・ディスカッション（1）
14	特論Ⅱ－14	抄録・スライド仕上げ 最終段階プレゼンテーション・ディスカッション（2）
15	発表リハーサル	発表リハーサル

《専門教育科目》

科目名	医療関係特論Ⅰ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

研究テーマの決定し、収集した情報を整理する。
主研究者は共同研究者と役割分担を決め、研究を仕上げる。
(抄録・スライド作成)
日本診療情報管理学会の学生セッションで発表する者は、前期に仕上げ9月21日～22に行われる第43回日本診療情報管理学会に参加する。
後期は、特論Ⅱとして抄録およびスライドを仕上げる。

《授業の到達目標》

- ①収集した情報を整理し、抄録用に、文章まとめることができる。
②抄録からスライドを作成し、プレゼン能力を高めることができる。

《成績評価の方法》

1. 抄録 (30%) 2. スライド (30%)
3. 発表態度 (40%)
《試験のフィードバック方法》
抄録、スライド、発表による評価について発表後に解説する。

《テキスト》

適宜文献・資料を配布

《参考図書》

適宜資料を配布

《授業時間外学修》

共同研究者と分担して、抄録・スライドを仕上げる。

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
医事業務、診療報酬請求業務、診療情報管理業務、がん登録業務、DPC退院調査、介護保険請求業務等幅広い分野に対応。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特論Ⅱ-1	抄録・スライド作成① (学会発表者・共同研究者は、別途メニューによる)
2	特論Ⅱ-2	抄録・スライド作成②
3	特論Ⅱ-3	抄録・スライド作成③
4	特論Ⅱ-4	抄録・スライド作成④
5	特論Ⅱ-5	抄録・スライド作成⑤
6	特論Ⅱ-6	抄録・スライド作成⑥
7	特論Ⅱ-7	抄録・スライド作成⑦
8	特論Ⅱ-8	抄録・スライド作成⑧
9	特論Ⅱ-9	抄録・スライド作成⑨
10	特論Ⅱ-10	抄録・スライド作成⑩
11	特論Ⅱ-11	抄録・スライド仕上げ①
12	特論Ⅱ-12	抄録・スライド仕上げ②
13	特論Ⅱ-13	抄録・スライド仕上げ③
14	特論Ⅱ-14	抄録・スライド仕上げ④
15	リハーサル	発表リハーサル

《専門教育科目》

科目名	医療関係特論Ⅱ				
担当者氏名	有吉 澄江				
授業方法	その他	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 1-11（知識と理解）人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

病院の機能および診療情報管理等に関する下記のテーマから、一番関心のある項目を選択し発表する。2名から3名程度のグループによる、ワークショップ形式で行う。希望者は、日本診療情報管理学会学術大会に参加・発表する
 テーマ：病院機能と診療情報管理士の役割、医療安全管理、診療情報の活用、診療情報の開示、データ分析 等

《テキスト》

文献等、必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- ①社会や医療の問題に関心を持つことができる。
- ②医療制度が理解できる。
- ③患者の権利について考えることができる。
- ④診療情報の活用、データ管理と病院経営に関心を持つ。
- ⑤チーム医療と診療情報管理士の役割を考えることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：医療関連等の新聞・本を読む・切り抜きなどによる情報収集をする。（20分）
 事後学修：日本診療情報管理学会学術大会に参加する学生は、4月中旬の演台登録締切りを考慮し、早期に取り掛かる。8月末をめどにスライド作成する。

《成績評価の方法》

1. 研究レポート（学会発表者は抄録）・発表用スライド（70％）
 2. 受講態度（30％）
- 《試験のフィードバック方法》
 上記1～3までの評価であり、研究レポート（抄録）・発表スライドについて解説する。

《備考》

実務実績 実務家教員による授業
 医事業務、診療報酬請求業務、診療情報管理業務、がん登録業務、D P C 退院調査、介護保険請求業務等幅広い分野に対応。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	研究についての説明 （学会発表希望者は、別途メニューとなる）
2	研究の基礎（1）	文献（情報）の収集について
3	研究の基礎（2）	データ処理と研究倫理について
4	研究の基礎（3）	研究論文読解ー1
5	研究の基礎（4）	研究論文読解ー2
6	研究の基礎（5）	研究論文読解ー3
7	まとめ①	研究の進め方（グループ編成・テーマ決定）
8	情報収集（1）	情報収集(1)
9	情報収集（2）	情報収集(2)
10	情報収集（3）	情報収集(3)
11	まとめ②	中間発表
12	情報収集（4）	情報収集(4)
13	まとめ③	情報収集のまとめ
14	課題設定	特論Ⅱの課題設定
15	まとめ④	前期のまとめ

《専門教育科目》

科目名	環境と健康				
担当者氏名	重田 耕司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ○ 2-18（技能）生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

環境は生物とのかかわり（相互作用）により変化してきた。近年、人間活動により私たちを取りまく環境は激変し、健康や生命の維持すら危うい状態になっている。
過去の地球環境の変遷やそれにとまなう人類のあゆみを見ながら、環境と人間との付き合い方を学び、私たちの健康な生活維持や未来のためにはどのように行動すべきかを学習する。

《授業の到達目標》

- ①宇宙・太陽系・地球・生物の生い立ちや人類文明の歴史のかかわりについて俯瞰的に理解する。
- ②さまざまな人間活動が環境や健康（生存）におよぼす影響について具体的に理解する。
- ③私たちの今後の生活のあり方について考えることができる。

《成績評価の方法》

- ①到達目標①に対する 中間試験（40％）
- ②到達目標②に対する 期末試験（40％）
- ③レポート。テーマは事前に予告。本試験時に提出（20％）。
《試験のフィードバック方法》
中間試験（30分・解説10分）、期末試験（60分・解説30分）

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

近畿化学協会他編著「環境倫理入門」化学同人 2012
デビッド・クリスチャン他著 長沼毅監修 「ビッグヒストリー」 明石書店 2016
石弘之 「地球環境と人類史」洋泉社 2016

《授業時間外学修》

事前学修；新聞・TVなど、常に環境問題の情報に目配りして欲しい。
事後学修；図書館の環境問題に関する本を適宜紹介する。読んでおいて欲しい

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	宇宙の始まり（宇宙塵と地球人）	ビッグバン（宇宙の始まり）・小宇宙・太陽系・地球の生い立ちと地球外生命体の存在は？
2	大気と海の始まり	原始地球の大気や海は現在のそれとどのように違っていたか。また何がそれを変えたのか？
3	生物の始まり	原始生命の誕生とその後の生物と環境の共進化（生物が環境を変え、環境が生物を進化させた）について。そして今、人間は何をどのように変えようとしているのか？
4	人類の環境史・中間試験	気候変動・人口爆発・感染症・環境汚染・森林破壊・資源とエネルギー枯渇など人類のこれまでの環境問題とそれに伴う紛争問題について。
5	大気圏の構造と汚染との関係	大気は、地球をリンゴの大きさにすると皮の厚さしかない。すぐ汚れる、すぐ壊れる、すぐ変わる。大気汚染、酸性雨、光化学スモッグなど過去の公害史について学ぶ。
6	地球温暖化のメカニズム～背景と推移～	化石燃料使用による地球温暖化のメカニズム、IPPCの役割と報告書による温暖化の評価、
7	地球温暖化の緩和策とそのシナリオ	京都議定書に基づく温暖化緩和策のしくみ、あらたな国際的合意の経過、日本の責務と私たちの役割、。
8	オゾン層は宇宙服 時限爆弾アスベスト	フロンガスによるオゾン層の破壊とアスベストによる健康被害について。
9	水資源と健康問題（1）	日本の水資源の収支、上水道の浄化処理、飲料水の安全性（水質基準）などについて。
10	水資源と健康問題（2）	工場・生活排水の処理方式と生態系への影響。私たちの生活の見直しなどについて。
11	食物連鎖と生物濃縮（沈黙の春）	レイチェル・カーソン著「沈黙の春」（環境問題の古典）にみる化学物質の発がん性について。
12	環境ホルモン（奪われし未来）	シーア・コルボーン著「奪われし未来」にみる化学物質の内分泌攪乱物質としての新しい視点と次世代への影響について。
13	放射性物質と健康	放射線とは何か？ 正しく知って考えてみる
14	環境リスクのとらえ方	ハザード管理からリスク管理への転換
15	環境倫理について考える	環境に配慮した次世代技術で持続可能な発展をめざすにはどうしたらよいか。

《専門教育科目》

科目名	特別研究				
担当者氏名	章 志華、有吉 澄江、梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜、指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。

特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取り組みを期待したい。

《授業の到達目標》

1. 研究論文あるいは研究制作の背景・動機・目的や研究プロセスを明確に理解している。
2. 研究の結果を適切にまとめ、関連文献等を適切に引用することができ、図や表などで他人にわかりやすい表現を用いることを理解している。

《テキスト》

指導教員によっては、指定する場合がある。

《参考図書》

指導教員が紹介する。

《成績評価の方法》

提出された研究論文あるいは研究制作（100%）評価は、指導教員が行う。

《学生へのフィードバック方法》
課題提出後に検討会を行う。

《授業時間外学修》

基本的に授業時間外に進める。

《備考》

費用は、学生の自己負担。登録した研究テーマの変更は、原則として認めない。学科教員の専門：医療・情報・心理・生活文化・外国文化などに関わる領域 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特別研究について	ガイダンス 各教員の専門分野の紹介
2	研究テーマの決定	指導教員と相談のうえ決定する。
3	研究テーマの決定	研究テーマは、指導教員を通じて、所定の用紙を、所定の期日までに教務部に提出する。
4	研究論文、研究制作の進行	研究計画をたてる。
5	研究論文、研究制作の進行	適宜に指導教員の指導を受けながら、進めていく。
6	研究論文、研究制作の進行	第1回中間報告
7	研究論文、研究制作の進行	指導教員の指導・助言
8	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
9	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
10	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
11	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
12	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
13	研究論文、研究制作の進行	第2回中間報告
14	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
15	研究論文、研究制作の進行	論文まとめ、指導教員の指導・助言

《専門教育科目》

科目名	特別研究				
担当者氏名	章 志華、有吉 澄江、梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、水野 敦子				
授業方法	その他	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-11 (知識と理解)人とのコミュニケーションに関わる知識を修得している。 ◎ 2-20 (技能)プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。 ◎ 4-35 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、社会で求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を持っている。			

《授業の概要》

特別研究は、研究論文あるいは研究制作のどちらかとし、原則として人間生活学科専任教員の指導のもとに行い、個人研究、共同研究のどちらでもよいこととする。また、研究テーマは、指導教員と相談のうえで決定し、適宜、指導教員の指示を受けながら、研究を進めていく。

特別研究は、2年間の勉学の総仕上げである。学生の意欲的な取り組みを期待したい。

《授業の到達目標》

1. 研究論文あるいは研究制作の背景・動機・目的や研究プロセスを明確に理解している。
2. 研究の結果を適切にまとめ、関連文献等を適切に引用することができ、図や表などで他人にわかりやすい表現を用いることを理解している。

《テキスト》

指導教員によっては、指定する場合がある。

《参考図書》

指導教員が紹介する。

《成績評価の方法》

提出された研究論文あるいは研究制作（100%）評価は、指導教員が行う。

《学生へのフィードバック方法》
課題提出後に検討会を行う。

《授業時間外学修》

基本的に授業時間外に進める。

《備考》

費用は、学生の自己負担。登録した研究テーマの変更は、原則として認めない。学科教員の専門：医療・情報・心理・生活文化・外国文化などに関わる領域 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	特別研究について	ガイダンス 各教員の専門分野の紹介
2	研究テーマの決定	指導教員と相談のうえ決定する。
3	研究テーマの決定	研究テーマは、指導教員を通じて、所定の用紙を、所定の期日までに教務部に提出する。
4	研究論文、研究制作の進行	研究計画をたてる。
5	研究論文、研究制作の進行	適宜に指導教員の指導を受けながら、進めていく。
6	研究論文、研究制作の進行	第1回中間報告
7	研究論文、研究制作の進行	指導教員の指導・助言
8	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
9	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
10	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
11	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
12	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
13	研究論文、研究制作の進行	第2回中間報告
14	研究論文、研究制作の進行	研究の進行
15	研究論文、研究制作の進行	論文まとめ、指導教員の指導・助言

《教養科目 一般教養》

科目名	教養演習				
担当者氏名	水野 敦子、鈴木 理、丸川 浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。			

《授業の概要》

生活する上で必要な社会常識を理解するために、短大生として必要な一般常識を学ぶ。この授業は就職試験対策にもなっているため、就職試験として利用されるSPIの筆記試験問題を中心に行い、就職試験に合格する実力を養う。

《テキスト》

授業時にプリントを配付する。

《参考図書》

随時紹介する。

《授業の到達目標》

①SPI非言語能力検査のパターンを理解し、読み解く力を有している。②SPI言語能力検査のパターンを理解し、総合的な国語能力を有している。③歴史・文化・スポーツ一般についての基本的な知識を有している。④就職試験に対応する総合的な英語力を有している。

《授業時間外学修》

事前学修：

- ・課題について調べる。（30分）
- ・日々の社会的出来事に関心を抱き、新聞を読んだり、ＴＶニュースを見る。（30分）

事後学修：課題をもう一度やる。（20分）

《成績評価の方法》

1. 小テスト 30%
2. 期末試験 70%

《試験へのフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	SPI非言語能力検査問題①	資料解釈
2	SPI非言語能力検査問題②	命題、三段論法
3	一般常識①	文化領域
4	一般常識②	スポーツ領域
5	一般常識③	第1回～第4回のまとめ、小テスト
6	SPI言語能力検査問題① （国語分野）	基礎問題① 2語の関係（同意語・反対語・包含関係・原料関係）
7	SPI言語能力検査問題② （国語分野）	基礎問題② 2語の関係（ことわざ・難解語・行為関係・用途関係）
8	SPI言語能力検査問題③ （国語分野）	基礎問題③ 2語の関係（複数の意味・慣用句）
9	SPI言語能力検査問題④ （国語分野）	基礎問題④ 整序問題・長文読解
10	SPI言語能力検査問題⑤ （国語分野）	総合問題、小テスト
11	SPI言語能力検査問題① （英語分野）	同意語・反意語
12	SPI言語能力検査問題② （英語分野）	用法・語法
13	SPI言語能力検査問題③ （英語分野）	会話文読解・図表読み取り
14	SPI言語能力検査問題④ （英語分野）	文章読解
15	SPI言語能力検査問題⑤ （英語分野）	第11回～第14回のまとめ、小テスト

《教養科目 一般教養》

科目名	くらしと経済				
担当者氏名	永田 智章				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 4-34（総合的な学習経験と創造的思考力）獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

私たちのくらしに身近な事例を用いて経済活動の基本的な理論や仕組み解説します。経済の意味、家計・企業・政府・銀行・証券会社等の活動、好況と不況、インフレとデフレ、円高と円安、環境と経済といった経済の基本について、受講生の皆さんと一緒に考え、頭の柔軟体操をします。

《テキスト》

使用しません。必要に応じ参考資料を紹介したり、プリントを配布します。

《参考図書》

授業の中で紹介する予定です。

《授業の到達目標》

到達目標は、①経済活動の意味を身近な事例を通じて理解している、②家計の役割と消費活動の基本を理解している、③企業の役割と生産活動の基本を理解している、④貨幣の機能と金融機関の業務を理解している、⑤経済活動の活発さと政府による経済活動を理解している、⑥国際経済の豊かな教養を身につけることです。

《成績評価の方法》

課題レポート（40％）と期末試験（60％）が評価基準です。ただし、授業への参加や受講態度を総合的に評価に加えることがあります。試験等のフィードバック方法は、定期試験終了後に解説を行います。解答時間60分、解説時間30分を予定しています。

《授業時間外学修》

事前学修として、毎日20分程度時間を作り、テレビのニュースや新聞記事に親しみ、経済、政治、社会の最新情報を知る習慣を身につけてください。気になる時事問題を見つけておきましょう。事後学修として、授業後は15分程度は復習としてノートを読み返しておきましょう。

《備考》

ノートを取ることがとても大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	経済のイメージ	経済と聞いてイメージすること 経世済民 経済とくらし
2	経済活動と経済主体	消費・生産・交換 家計・企業・政府・金融機関 経済循環
3	家計と消費①	所得と消費 価格と消費
4	家計と消費②	就職と労働供給 貯蓄と資金供給
5	企業と生産①	商品の生産 利益の追求 ブランド戦略
6	企業と生産②	株式会社の仕組み
7	貨幣の役割	決済手段 交換媒体 価値尺度 価値保存
8	金融の役割①	銀行の業務 預金・貸出・決済
9	金融の役割②	証券会社の業務 金融商品
10	政府の経済活動①	財政の目的 公共財の供給 社会保障 経済政策
11	政府の経済活動②	税金の集め方
12	GDPの話	GDPの意味 生産・所得・支出
13	好況と不況	好況とインフレーション 不況とデフレーション
14	グローバル経済①	為替レートと貿易
15	グローバル経済②	国境を越えた経済活動

科目名	人間と文学				
担当者氏名	水野 敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		◎ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。			

《授業の概要》

映画を題材にして、女性の生き方という主題を授業テーマの主軸として進めていく。生活する上で必要な社会常識を理解するために、さまざまな年代の女性たちが、それぞれの社会環境のなかで、何を求めて生き、そして、直面する問題を乗り越えていったかを考える。女性の描かれ方という点から、ジェンダー（社会的性差）の問題も取り上げる。

《授業の到達目標》

- ①映画についての批評能力を身につける。
- ②女性の生き方についての洞察力を深める。
- ③異文化への理解を深める。

《テキスト》

プリントを配布する。

《参考図書》

井上輝子他『ビデオで女性学』（有斐閣）
若桑みどり『お姫様とジェンダー——アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）
上野千鶴子『映画から見える世界』（第三書館）
スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』村上春樹訳（中央公論新社）

《授業時間外学修》

1. できるだけ多くの映画や文学作品を鑑賞する。
2. 新聞を読んで社会や文化の動きに関心をもつ。

《成績評価の方法》

1. 講義中の課題 50%
2. 期末試験 50%

《試験のフィードバック方法》

期末試験後に解説を行う。（試験60分・解説30分）

《備考》

作品を鑑賞したあとで、各回のテーマに沿った課題を出すので、次回の授業までに、自分の意見をポータルサイトに投稿する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方と成績評価の方法 女性史の概観
2	シンデレラ・ストーリーとジェンダー①	シンデレラ・ストーリーの映画を題材に、その構造とジェンダーの問題を考える。
3	シンデレラ・ストーリーとジェンダー②	シンデレラ・ストーリーの映画を題材に、その構造とジェンダーの問題を考える。
4	女性と仕事①	20世紀後半から現在までの働く女性を描いた作品をいくつか取り上げ、職場での女性の立場の変化と現代の女性が直面する問題を考える。
5	女性と仕事②	20世紀後半から現在までの働く女性を描いた作品をいくつか取り上げ、職場での女性の立場の変化と現代の女性が直面する問題を考える。
6	女性と仕事③	20世紀後半から現在までの働く女性を描いた作品をいくつか取り上げ、職場での女性の立場の変化と現代の女性が直面する問題を考える。
7	愛と自立①	自立した女性と自立できなかった女性が登場する2つの映画を取り上げ、女性の自立の問題が、男性の問題でもあることをジェンダーの点から考える。
8	愛と自立②	自立した女性と自立できなかった女性が登場する2つの映画を取り上げ、女性の自立の問題が、男性の問題でもあることをジェンダーの点から考える。
9	愛と自立③	自立した女性と自立できなかった女性が登場する2つの映画を取り上げ、女性の自立の問題が、男性の問題でもあることをジェンダーの点から考える。
10	親と子①	思春期の子と親を描いた作品を題材に、親と子の関係、血縁と家族について考える。
11	親と子②	思春期の子と親を描いた作品を題材に、親と子の関係、血縁と家族について考える。
12	親と子③	思春期の子と親を描いた作品を題材に、親と子の関係、血縁と家族について考える。
13	専業主婦だってすごい①	自分の思い通りにならない家族のなかで、さまざまな困難に直面しながら、忍重し、家族を支える強い母親の人間力を考える。
14	専業主婦だってすごい②	自分の思い通りにならない家族のなかで、さまざまな困難に直面しながら、忍重し、家族を支える強い母親の人間力を考える。
15	まとめ	映画を通して、女性の生き方について考える。

《教養科目 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅠ				
担当者氏名	梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、章 志華、水野 敦子、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。			

《授業の概要》

就職活動のためのより実践的な勉強を行う。会社訪問のための身だしなみセミナーやマナー、企業の求める人材、職場での心構えやマナーなどを学内外の講師から学ぶ。また、社会で活躍する卒業生からは、仕事内容、仕事上の苦労話などを聞く。社会への視野を広げ社会の中で生きていくためには何が必要かを学んでほしい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

事前学修：シラバスを読み学習内容を知っておく。（15分）
 事後学修：テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。（1時間程度）

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューターがチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講してください。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー(学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使用して説明する。ポータルサイトに今期の目標やキャリアチャートを入力する。
2	(専門教育講座)2年前半の学習の進め方(学科②)	就職や進学を控え、どのように学習を進めていったらいいかを考える。(学科長 章先生)
3	メンタルヘルス	メンタルヘルスとは何か考える。心の健康を維持するためにどんなことができるか学ぶ。(カウンセリングルーム 堀内先生)
4	(就職対策講座1)小論文の書き方(学科③)	小論文の書くにあたっての、情報収集の仕方、メモの取り方、論文のまとめ方などを学ぶ。(学科教員)
5	(就職対策講座②)採用の現状と視点	労働法や労働問題の基礎知識を専門の労働局の方から現状の事例などを踏まえて具体的に学ぶ
6	(就職対策講座③)ミスマッチを防ぐ求人選択	就職サイトや大学に来る求人票や求人情報を使い実践的にポイントを絞り今後自分に合った求人選択の方法を学ぶ
7	(就職対策講座④)エントリーシート基本・応用	主にWebを活用した就職活動に必要なエントリーシートや試験対策について実践的に学ぶ
8	(就職対策講座⑤)職場で求められる人材	実際に幅広い職種に関して採用責任者として関わっている方からそれぞれの新卒採用の視点について具体的な事例を踏まえて学ぶ
9	(就職対策講座⑥)面接対策(集団・個別)	就職活動で重要視される集団面接と個別面接について現状と対策を実践的に学ぶ
10	(就職対策講座⑦)グループディスカッション	就職活動で重要視されるグループワークとグループディスカッションについて現状と対策を実践的に学ぶ
11	(就職対策講座⑧)SPI 1	就職活動の筆記試験やWebテストで必要なポイントを実際に模擬テストを通して実践的に学ぶ
12	(就職対策講座⑨)SPI 2	就職活動の筆記試験やWebテストで必要なポイントを実際に模擬テストを通して実践的に学ぶ
13	(就職対策講座10)(学科別④)	就職対策講座10(学科教員)
14	(就職対策講座11)(学科別⑤)	就職対策講座11(学科教員)
15	コミュニケーションアワー(学科⑥)	期末試験対策と夏季休業中の有意義な過ごし方を考える。学生生活に関わる諸連絡、ポータルサイト入力(今期の反省、キャリアチャート)

《教養科目 一般教養》

科目名	キャリアアップセミナーⅡ				
担当者氏名	梅本 礼子、高田 晃治、丸川 浩、水野 敦子、章 志華、多尾 綾音				
授業方法	講義	単位・必修	1・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-10（知識と理解）生活する上で必要な社会常識を理解している。 ◎ 3-29（態度と志向性）社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

この授業では、よき社会人として生きていくための心構えや一般常識を学ぶ。職場や社会でよい人間関係を築き、充実した人生を歩んでいくにはどうしたらいいかを学び、人間的に成長していただきたい。

《テキスト》

必要に応じてプリントや資料を配布する

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①大学生としての自覚を持ち真摯な態度で聴講できる。
- ②大学生として責任ある行動や教養を習得する。
- ③各テーマの主旨を把握し文章にまとめることができる。

《授業時間外学修》

レポートを提出する。（1時間）
 テーマの主旨を把握し、自分の考えを600字詰原稿用紙にまとめ、期日までに指定場所に提出する。

《成績評価の方法》

レポート 90%、受講態度 10%

《課題へのフィードバックの方法》

レポートはチューターがチェックして返却する。

《備考》

指定された座席で受講してください。
 主に実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	コミュニケーションアワー(学科①)	ディプロマポリシーと履修科目との関係をカリキュラムツリーを使用して説明する。ポータルサイトに今期の目標、キャリアチャートなどを入力する。
2	(専門教育講座：学科②) 2年生後半の学習	卒業を目前に控え、どのように学習していったらいいか学ぶ。（人間生活学科副学科長 高田先生）
3	ストレスマネジメント	ストレスとは何か学ぶ。ストレスに対して自分で出来るコントロール方法について考える。（カウンセリングルーム 堀内先生）
4	(就職対策講座①) 新社会人のビジネスマナー	内定後イメージ入社までに身に付けておくべきビジネスマナーの基礎と応用についてポイントを就職指導部担当者から実践的に学ぶ
5	(就職対策講座②) これから必要な法律の知識	社会人として必要な法律の知識について、仕事や生活で発生しやすい実例を踏まえてポイントを弁護士から学ぶ
6	(就職対策講座③) これから必要な税金の知識	社会人として必要な税金の知識について、実例を踏まえて多角的にポイントをふまえて税務署職員から学ぶ
7	(就職対策講座④) 新社会人のマネープラン	社会人として必要なライフマネーの視点から、将来に向けた長期的なマネープランについて実践的に金融業界専門社員から学ぶ
8	(就職対策講座⑤) 新社会人のキャリアプラン	就職後から長期的に人生を生きるためのキャリアプランの重要さとプランの造り方について自らキャリアプランを実践しているキャリアコンサルタントから学ぶ
9	(就職対策講座⑥) 新社会人のためのPDCA	学生として、又これからの社会人として知っておきたいPDCA（問題解決）の基礎知識や実践的な解決方法を演習形式で就職指導部担当者から学ぶ
10	(就職対策講座⑦) おもてなしの心を学ぶ	社会人として今後多様な人と関わっていくに当たり様々な場面で必要なおもてなしの精神やマナーをおもてなしのプロであるブライダルプランナーの方から実践的に学ぶ
11	(就職対策講座⑧) 女性の品格を学ぶ	女性として必要な品格をマナー・コミュニケーションなどの実践や今後どのように積み重ねて行けばよいのかについて元客室乗務員の方から学ぶ
12	(就職対策講座⑨) ダイバーシティ多様性の理解	社会や職場における多様性を理解し、多様な人や環境の中、どのように関わることで相互に円滑な人間関係が構築できるかなどについて学ぶ
13	(専門教育講座：学科③)	社会人に向けて①（学科教員）
14	(専門教育講座：学科④)	社会人に向けて②（学科教員）
15	コミュニケーションアワー(学科⑤)	学生生活に関する諸連絡、ポータルサイト入力（今期の反省、キャリアチャート）短大生活をふり返ると共に、社会人としての心構えを学ぶ

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)

ボランティア活動時間 (70%)

《成績のフィードバック方法》

活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介

「ボランティアのすすめ(基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)

活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。

事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 一般教養》

科目名	ボランティアワーク				
担当者氏名	高田 晃治				
授業方法	その他	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		○ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。			

《授業の概要》

近年ボランティア活動は、一部の篤志家による奉仕・慈善活動というよりも、様々なかたちで多くの市民が自発的に参加する活動となっている。ボランティア活動は、地域社会を活性化し、人々の交流を深め、参加した本人の生活も豊かにしうるものである。本授業は一定の基準を満たせば単位認定する。またボランティアに関する情報提供を行うなど、学生のボランティア活動をサポートする。

《授業の到達目標》

①ボランティア受け入れ先のニーズを尊重した上で、自発的に考え、行動し、受け入れ先の人や地域との積極的な交流を図ることができる。②一般社会人として、自分自身にとってのボランティア活動の意義、相手の方や地域等にとってのボランティア活動の意義を理解できる。

《成績評価の方法》

活動報告書 (30%)

ボランティア活動時間 (70%)

《成績のフィードバック方法》

活動報告書を基に、活動内容について確認する。

《テキスト》

プリント (さんじょボランティアワーク)

《参考図書》

適宜紹介

「ボランティアのすすめ (基礎から実践まで)」ミネルヴァ書房；岡本栄一「学生のためのボランティア論」大阪ボランティア協会出版部；田中 優「幸せを届けるボランティア不幸を招くボランティア」河出書房新社

《授業時間外学修》

事前学修：事前に受け入れ先の活動内容を把握し、目的や諸注意を理解しておく。(10分程度)

活動実施前に「ボランティア活動計画書」を提出する。

事後学修：活動後に「ボランティア活動報告書」を提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ボランティア活動	受け入れ先の活動内容に従い30時間以上実施
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 一般教養》

科目名	デスエデュケーション論(生命倫理)				
担当者氏名	堀田 悦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-9 (知識と理解)人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ◎ 2-18 (技能)生活する上で必要なコミュニケーション技能を身につけている。 ◎ 3-27 (態度と志向性)高い教養を学修し、地域社会で主体的に活動できる力を身に付けている。 ◎ 3-29 (態度と志向性)社会人として必要な自己管理能力、協調性、高い倫理観、規律性を身につけている。 ◎ 4-34 (総合的な学習経験と創造的思考力)獲得した学習成果を活用し、自ら問題を発見し、解決する能力を持っている。			

《授業の概要》

医療の進歩に伴い、生命をめぐる倫理的課題が山積している。本授業では、生命に携わる医療職者として基盤となる考え方を理解するとともに、自己の在りようを考察する。さらに、倫理的問題に対応するための基本となる知識・技術・態度を習得するために、事例やワークを通して学びを深める。

《テキスト》

児玉 聡 「マンガで学ぶ生命倫理」 (株) 化学同人
配布資料：授業内容のポイント

《参考図書》

適宜提示する

《授業の到達目標》

- ①自己の死生観を育むことができる。
- ②倫理原則を理解し、医療職者としての知識・技術・態度を理解している。
- ③生命にかかわる倫理的課題を理解している。
- ④終末期医療の現状を理解している。
- ⑤終末期にある患者・家族の特徴を理解している。

《授業時間外学修》

事前学修(20分)：次回の授業範囲を読み、その項目に取り上げられている生命倫理について自分の考えをまとめておくこと
事後学修(20分)：講義内容、医療、生命に関わる社会の出来事に関する新聞記事やニュースを閲覧すること

《成績評価の方法》

- ①期末試験50%
 - ②平常点20% (レポートにより講義の理解度を確認)
 - ③課題レポート30%
- ＜試験のフィードバック方法＞
期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分

《備考》

授業時間外学習からテーマを選び、課題レポートを作成する。
実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス/生と死を考える	講義内容のガイダンス/米国・日本における生命倫理の歴史
2	倫理原則とは	患者の権利、医療者の責務/職業倫理/倫理原則
3	生殖医療から生命を考える	生殖医療の現状とその課題
4	ホスピス/緩和ケア	告知と意思決定/インフォームド・コンセント
5	死にゆく人の心理	事例から考える
6	臨床における倫理①	中絶と胎児の権利/母性保護法/出生前診断
7	事例から生命を考える①	能力・肉体改造/エンハンスメントの倫理的問題
8	臨死期・看取り	安楽死/尊厳死/リビングウィル/アドバンス・ケア・プランニング/緩和医療
9	事例から生命を考える②	事例から考える
10	生命をめぐる倫理的課題①	生体臓器移植の現状と課題
11	生命をめぐる倫理的課題②	人へのクローン技術応用に関する倫理的問題
12	臨床における倫理②	E S 細胞/i P S 細胞/再生医療/高齢化社会
13	臓器移植から生命を考える	脳死による臓器移植の現状と課題
14	学習内容から生命を考える①	学習内容から生命を考える/新たな気づきや学び/専門職としてどのように活用するか
15	学習内容から生命を考える②/まとめ	生命倫理に関するまとめ

《教養科目 一般教養》

科目名	インテリアプランニング				
担当者氏名	白井 周子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-9（知識と理解）人間生活に関わる基本的な知識を修得している。 ○ 2-20（技能）プレゼンテーションに関する基本的な技能を身につけている。 ○ 3-28（態度と志向性）専門知識や技能を用いて社会に貢献できる。 ◎ 4-33（総合的な学習経験と創造的思考力）これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用できる。			

《授業の概要》

超高齢社会、環境問題など今やさまざまな問題を抱えた社会にあって、充実した生活を送る基盤となる住まいは、快適なものでありたい。

インテリアの基礎知識を通し、あらゆる意味での快適住空間を考える。また、これらに基づきプランを考える。

《テキスト》

適宜プリントを配付する。

《参考図書》

特になし。

《授業の到達目標》

- ① インテリアエレメントの知識を理解している。
- ② 快適住空間を考えることができる。
- ③ インテリアプランができる。

《成績評価の方法》

- ① 期末試験 80%
 - ② 提出物 15%
 - ③ 平常点（授業態度）5%
- ＜フィードバックの方法＞

期末試験後に解説を行う（試験60分・解説30分）

《授業時間外学修》

事前学修

- ・ 特になし。

事後学修

- ・ 講義内容をふまえて、自宅など、身近な場所を確認し、改めてインテリアプランニングについて考えてみる。（所要時間はそれぞれの時間による）

《備考》

- ・ 日ごろから、美術館などに行ってみよう。感性を磨く。
 - ・ 授業に必要と言った物は、各自忘れず持参の事。
- 実務家教員による授業

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	まずはインテリアについて	生活と住空間の関係、こんにちまでの変遷。インテリアとは。
2	あかり	照明の目的。光源、器具の種類、効果。住空間における照明計画。
3	カラー色々	色によるあらゆる影響、性質、効果。住空間での色彩計画。
4	快適キッチン	キッチン形体、分類など。効率良いキッチンとは。
5	和のかたち	和室の効用、様式。改めて、和室を考える。
6	インテリアイメージ&スタイル	インテリアをプランする上でのプロセス。インテリアスタイル別イメージを理解する。
7	光と風。ウィンドウまわり	光、風の必要性。窓関連について。
8	暮らしとサイズ	生活に係る身近な人間工学的考察。
9	インテリアアクセサリ	インテリアを演出する種類と構成。
10	バリアフリー&ユニバーサルデザイン	バリアフリーとは。住空間におけるバリアフリー。ユニバーサルデザインとは。
11	インテリア図面の見方	インテリア図面の種類、見方を知る。
12	インテリアプランニングⅠ	これまでの内容を応用し、住空間の一部の間取りをプランする。
13	インテリアプランニングⅡ	インテリアプランを仕上げる。
14	トータル作品作成	総まとめとして、前授業のプランしたものを、スタイルに沿ったインテリアエレメントをカタログ等で選択し、インテリアボード作品にする。
15	トータル作品仕上げ	ボードを仕上げる。